

2017年2月28日

浦添市子ども調査 結果概要報告

目次

調査概要 1	3
調査概要 2（調査手法）	4
調査概要 3（回収状況）	5
回収者のプロフィール	6
世帯類型・所得階層	6
参考：貧困・非貧困の計算について	6
調査結果概要報告	7
【子ども回答より】	
①将来の夢	7
②物品の所有状況	8
③友だちとの関係	9
④食事	11
⑤学校生活	15
⑥子どもの自己肯定感	19
【保護者回答より】	
⑦就学援助の利用	25
⑧家計と子どもへの支出	29
⑨子どもの進学に関する意識	34
⑩困窮経験	36
⑪電気代などの滞納経験	40
⑫医療サービス	45
⑬社会的ネットワーク	47
⑭子ども期の経済状況と現在の困窮経験	50
⑮子どもの放課後の居場所	53
浦添子ども調査に関する考察	55
【参考】単純集計（小学1年、小学5年、中学2年保護者）一部	

調査の概要1

- ・本調査は、浦添市教育委員会の協力のもと、浦添市内の子どもおよびこどもを育てる保護者の生活実態を把握することを目的として浦添市からの業務委託を受け、一般社団法人教育振興会が実施した。
- ・調査では、子どもの基本的な暮らし、学校での暮らし、将来の夢をはじめ、家庭での保護者との関わり、子どもの精神状況など、子どもたちの現在おかれている状況の把握に努めた。一方で、保護者への設問である、就労状況、子育てにおける負担、家庭の経済状況など、多岐にわたる設問によって、家庭の状況を把握し、さらに子どもの生活実態と経済状況など家庭の状況との関連性の分析を目指した。
- ・本調査は、沖縄県でこれまで実施された類似の他の調査を参考にし、一部比較分析ができるように試みた。代表的な類似の他の調査として平成27年に実施された沖縄県子ども調査があるが、本プレゼンテーションでも沖縄県子ども調査も結果との比較を数か所行っている。
- ・実施にあたっては、学識者2人の協力を得た。
- ・学識協力者： 山内優子（沖縄子どもの貧困解消ネットワーク共同代表・沖縄大学）
- ・学識協力者： 野原 弘（沖縄TAセンター所長・心理カウンセラー）

調査の概要2

【浦添市】

- ・実施対象者：浦添市の公立小学校11校の小学1年生の保護者、11校の小学5年生の子どもおよびその保護者、公立中学校5校の中学2年生の子どもおよびその保護者
- ・調査日時：平成28年9月12日から9月26日
- ・対象学年の児童・生徒については、学校において学級担任の指導の下で実施した。
- ・対象学年の保護者については、児童・生徒を通じて学級担任から配布し主に保護者に記入してもらった。各家庭で記入・封入してもらい、児童・生徒を通じて学級担任が回収した。

調査票は、子ども票、保護者票それぞれ密封し、学校にて回収し、そのまま保管。

後日、浦添市てだこ未来応援室にて回収を行った。無記名、自記式。

【参考：沖縄県子ども調査】

- ・実施対象者：沖縄県内の公立小学校32校の小学1年生の保護者、23校の小学5年生の子どもおよびその保護者、公立中学校18校の中学2年生の子どもおよびその保護者
- ・実施年月：平成27年10月から11月
- ・実施方法は、本調査と同様のもの（学校での配布回収・無記名・自記式）
- ・有効回答率等は本調査が10%程度高いが、回答数において子ども票はさほど変わらないが、保護者票が約800票 本調査より多い。
- ・子どもの貧困対策を効果的に推進するため、沖縄県における子どもの貧困の現状把握や、貧困状態が子どもの生活や成長に与える影響について調査・分析等を目的として行われた。

★「浦添子ども調査」では、沖縄県生活福祉部子ども未来政策課の許可を事前に得て調査票の一部を除き同じ設問を入れ、比較をしやすいようにした。

調査の概要3

・回収状況

回収状況		子ども票	保護者票
小学1年生	対象児童数	/	1,359
	有効回答数		1,024
	有効回答率		75.3%
小学5年生	対象児童数	1,248	1,248
	有効回答数	1,190	911
	有効回答率	95.4%	73.0%
中学2年生	対象児童数	1,320	1,320
	有効回答数	1,212	820
	有効回答率	91.8%	62.1%
	有効回答率計	93.6%	70.2%

【回答者のプロフィール】

	子ども票			保護者票					
	男子	女子	性別未記入	母親	父親	祖母	祖父	その他	無回答
小学1年生				884	67	5	1	3	64
%				86.3%	6.5%	0.5%	0.1%	0.3%	6.3%
小学5年生	580	562	48	776	76	2	1	2	54
%	48.7%	47.2%	4.0%	85.2%	8.3%	0.2%	0.1%	0.2%	5.9%
中学2年生	550	579	83	688	65	7	2	1	57
%	45.4%	47.8%	6.8%	83.9%	7.9%	0.9%	0.2%	0.1%	7.0%
計	1,130	1,141	131	2,348	208	14	4	6	175
%	47.0%	47.5%	5.5%	85.2%	7.5%	0.5%	0.1%	0.2%	6.4%

【世帯類型・所得階層】

保護者票を基に算出		世帯類型				所得階層	
		二親世帯	母子世帯	父子世帯	その他 +不明世帯	貧困層	非貧困層
小学1年生	1,024	846	109	5	64	187	732
%		82.6%	10.6%	0.5%	6.3%	20.3%	79.7%
小学5年生	911	760	89	16	46	155	663
%		83.4%	9.8%	1.8%	5.0%	18.9%	81.1%
中学2年生	820	617	128	10	65	157	549
%		75.2%	15.6%	1.2%	7.9%	22.2%	77.8%
合計	2,755	2,223	326	31	175	499	1,944
%	100.0%	80.7%	11.8%	1.1%	6.4%	20.4%	79.6%

※貧困・非貧困の計算について

本調査では、沖縄子ども調査同様に、児童手当など社会保障給付金を含んだ世帯全体の年間の可処分所得（いわゆる「手取り額」）を聞いている。その額を基に世帯人数で調査した額（等価可処分所得）を算出し、122万円未満の世帯を貧困層とした。

注意：本調査の貧困率は、保護者票アンケート調査回答「手取り額」から算出しており、あくまでも保護者票アンケート調査回答に基づいたものである。沖縄子ども調査とは算出方法が異なる。

また、本調査実施方法は、沖縄子ども調査実施方法（各学級内で子ども票・保護者票をセットで配布・回収）とは違い、各学級内で子ども票と保護者票を別々で配布・回収を行った為、一部比較できない項目がある。

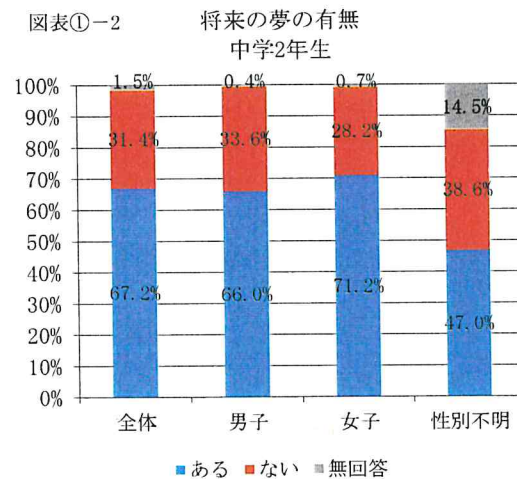
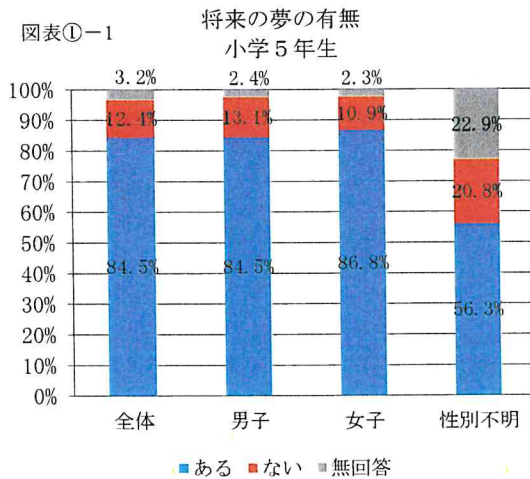
（122万円は、厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」において推計された相対的貧困基準（いわゆる「貧困ライン」））

【調査結果概要報告】

①将来の夢

○将来の夢の有無

小学5年生と中学2年生の子どもたちに「将来の夢を持っていますか」と尋ねています。将来の夢を持つ割合は、小学5年生では全体で84.5%でしたが、中学2年生では67.2%と、年齢とともに減る傾向が見られました。また、小学5年生では男女間の差は、わずかに女子が多い程度のものでしたが、中学2年生では5.2%の差となりました。



○夢がない理由

本調査では、「将来の夢がない」という子どもに「夢がない」とした理由を尋ねています。図表①-5がその結果です。半数以上の子どもが「具体的に何も思い浮かばないから」としています。

図表①-5

夢がない理由	小学5年生		中学2年生	
	回答	%	回答	%
夢がかなうのが難しいと思うから	22	12.5%	42	11.1%
具体的に、何も思い浮かばないから	68	38.6%	240	63.2%
その他	25	14.2%	38	10.0%
わからない	30	17.0%	53	13.9%
無回答	31	17.6%	7	1.8%
合計	176	100.0%	380	100.0%

②物品の所有状況

○物品の所有状況（小学5年生）

小学5年生と中学2年生の子どもたちに、「自分だけの本」など、以下の12の物品について所有状況を尋ねました。

小学5年生の場合、専用の勉強机やゲーム機は8割程度の子どもは持っていました。一方、ゲーム機は11.3%、専用の勉強机は15.5%の子どもが「欲しいが持っていない」としています。「欲しいが持っていない」物品の中で多いのは、「携帯音楽プレーヤー」（43.2%）、**携帯電話**（**38.0%**）、「インターネットにつながるパソコン」（37.0%）でした。また、沖縄県子ども調査との比較で、携帯電話「持っている」とした沖縄県子ども調査の携帯電話（37.5%）に対して、本調査（48.3%）として**10.8%**と差が大きくでています。

図表②-1 物品の所有状況（小学5年生）

n=1,190

小学5年生	持っている		持っていない				無回答	
	度数	%	欲しい	%	欲しくない	%		%
自分だけの本	839	70.5%	147	12.4%	166	13.9%	38	3.2%
子ども部屋	700	58.8%	375	31.5%	86	7.2%	29	2.4%
インターネットパソコン	508	42.7%	440	37.0%	215	18.1%	27	2.3%
専用の勉強机	900	75.6%	185	15.5%	79	6.6%	26	2.2%
スポーツ用品	827	69.5%	136	11.4%	204	17.1%	23	1.9%
ゲーム機	923	77.6%	135	11.3%	112	9.4%	20	1.7%
たいていの友だちが持っているおもちゃ	482	40.5%	211	17.7%	464	39.0%	33	2.8%
自転車	639	53.7%	354	29.7%	169	14.2%	28	2.4%
おこづかい	786	66.1%	264	22.2%	120	10.1%	20	1.7%
友だちと同じような服	533	44.8%	130	10.9%	505	42.4%	22	1.8%
携帯電話	575	48.3%	452	38.0%	139	11.7%	24	2.0%
携帯音楽プレーヤーなど	348	29.2%	514	43.2%	314	26.4%	14	1.2%

②物品の所有状況（中学2年生）

中学2年生でも、専用の勉強机やスポーツ用品、ゲーム機などは約8割の子どもが所持していました。欲しいが持っていない割合が高いのは、自転車(25.7%)、携帯電話(25.6%)、インターネットにつながるパソコン(24.9%)などでした。また、沖縄県子どもの調査との比較で、携帯電話「持っている」とした沖縄県子ども調査の携帯電話(55.3%)に対して、本調査(68.8%)として**13.5%**と小学5年生同様に差が大きくでています。

図表②-2 物品の所有状況（中学2年生）

n=1,212

中学2年生	持っている		持っていない				無回答	
	度数	%	欲しい	%	欲しくない	%		%
自分だけの本	854	70.5%	72	5.9%	263	21.7%	23	1.9%
子ども部屋	844	69.6%	294	24.3%	58	4.8%	16	1.3%
インターネットパソコン	714	58.9%	302	24.9%	178	14.7%	18	1.5%
専用の勉強机	989	81.6%	100	8.3%	109	9.0%	14	1.2%
スポーツ用品	936	77.2%	45	3.7%	216	17.8%	15	1.2%
ゲーム機	858	70.8%	61	5.0%	276	22.8%	17	1.4%
たいていの友だちが持っているおもちゃ	498	41.1%	106	8.7%	570	47.0%	38	3.1%
自転車	531	43.8%	311	25.7%	352	29.0%	18	1.5%
おこづかい	888	73.3%	218	18.0%	89	7.3%	17	1.4%
友だちと同じような服	621	51.2%	119	9.8%	457	37.7%	15	1.2%
携帯電話	834	68.8%	310	25.6%	53	4.4%	15	1.2%
携帯音楽プレーヤーなど	718	59.2%	278	22.9%	202	16.7%	14	1.2%

※子ども票の「貧困・非貧困」の分類が出来ないため分析不可。

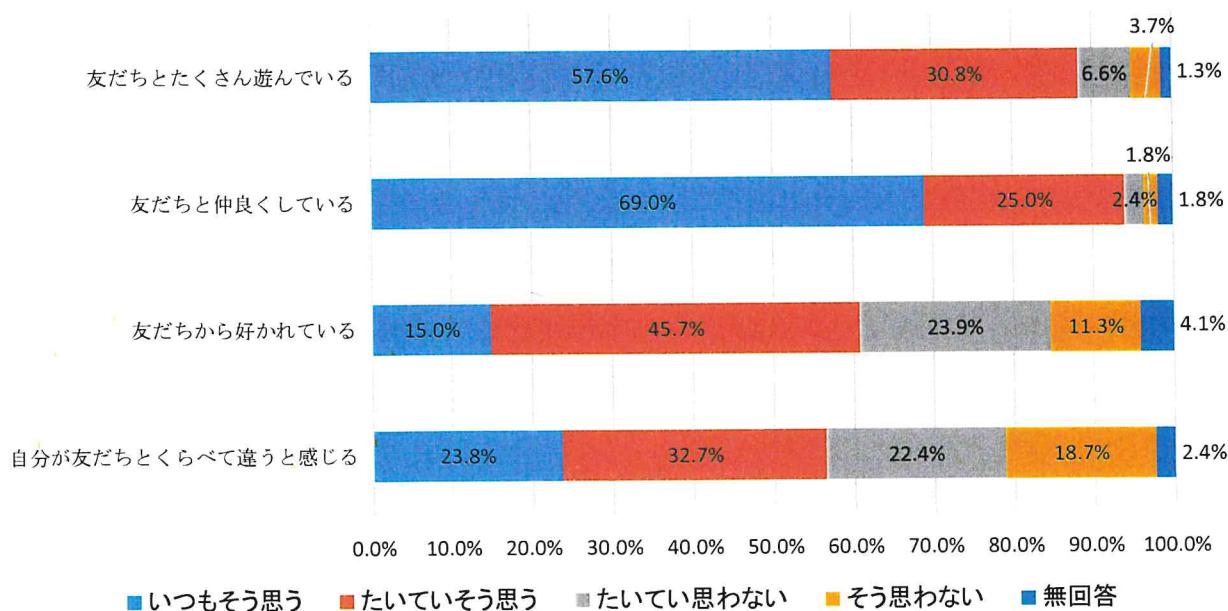
③友だちとの関係

○友だちとの関係（小学5年生）

友だちとの関係について、「友だちとたくさん遊んでいる」「友だちと仲良くしている」「友だちから好かれている」「自分が友だちとくらべて違うと感じる」の4項目について質問しています。

小学5年生では、「友だちとたくさん遊んでいる」「友だちと仲良くしている」の質問に「いつもそう思う」または「たいていそう思う」と 約9割の子どもが肯定的に答えています。一方で、「友だちから好かれている」には 約6割の子ども（60.7%）が肯定的な答えをしていますが、「たいてい思わない」または「そう思わない」とする否定的な答えが35.2%見られます。また、「自分が友だちとくらべて違うと感じる」については、肯定的な答えが56.5%と否定的な答えが41.1%となっています。

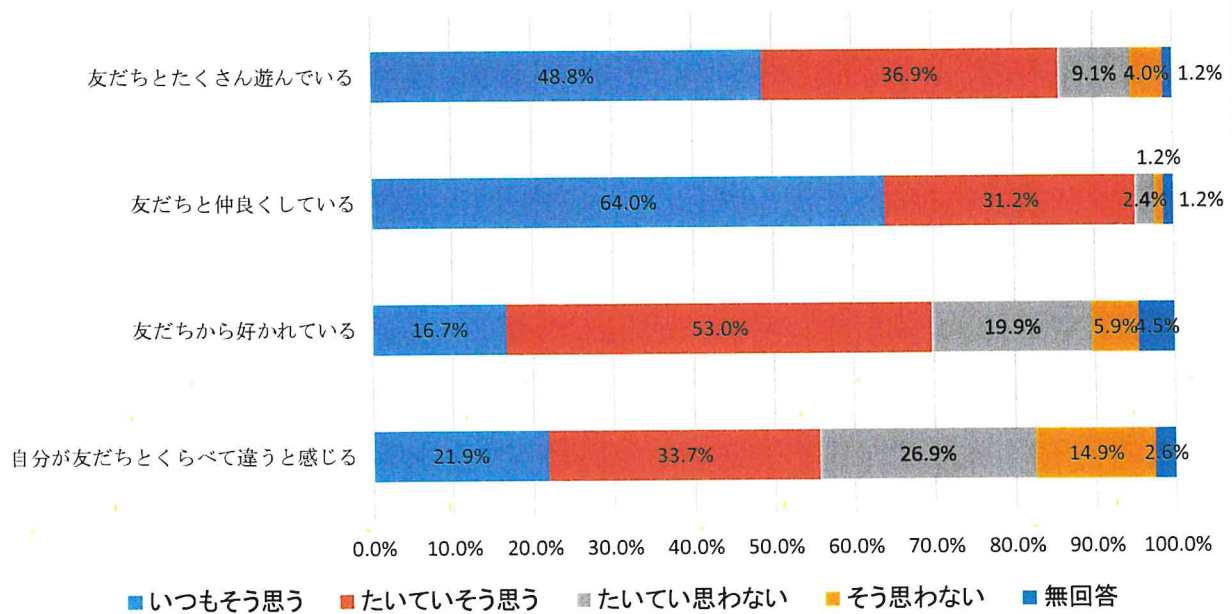
図表③-1 友だちとの関係（小学5年生）



○友だちとの関係（中学2年生）

「友だちと好かれている」を除くと、中学2年生では、小学5年生に比べ、「いつもそう思う」という答えの割合が減る傾向が見えました。しかし、「いつもそう思う」または「たいていそう思う」の肯定的答え全体ではあまり差がないと言えますが、ひとつの項目（「友だちから好かれている」）については肯定的な答え、「いつもそう思う」または「たいていそう思う」は、小学5年生（60.7%）、中学2年生（69.7%）で、その差が大きくなっています。

図表③－２ 友だちとの関係（中学2年生）



④食事

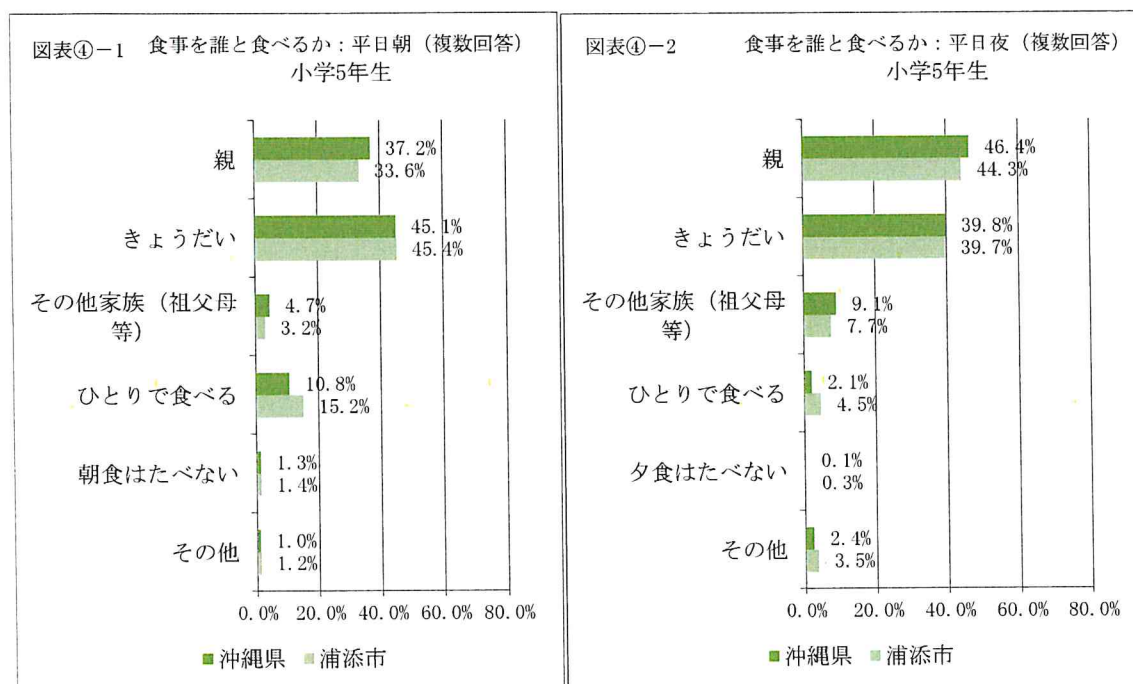
○食事を誰と食べるか（小学5年生）

平日と休日の朝食・夕食を誰と食べるかを複数回答で尋ねました。夕食に関しては、親と食べる割合が一番多いですが、朝食に関しては親と食べる割合が減り、「ひとりで食べる」子どもが少なからず存在します。

沖縄子ども調査と比較すると、「ひとりで食べる」割合は、平日朝食は10.8%、休日朝食は14.3%で本調査では、平日朝食は15.2%、休日朝食は16.6%、夕食に関しても同様に本調査での「ひとりで食べる」割合が高い状況が見えます。また、一般的に親と食べる割合が低いことも伺えます。

例えば、沖縄子ども調査(小学5年生)では、平日朝食で37.2%、本調査で33.6%、休日朝食では37.0%、本調査で35.0%でした。今後は、さらに詳細な分析を行うことで、より実態を把握する必要があります。

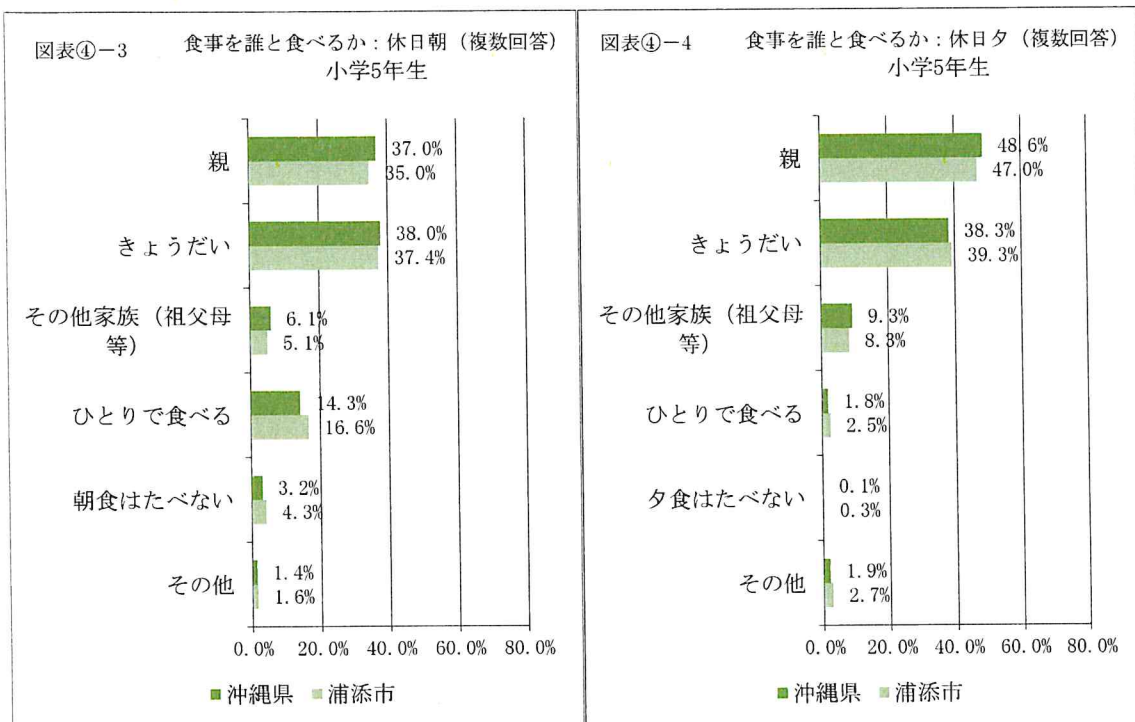
○食事を誰と食べるか/平日朝夕（小学5年生）



「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

○食事を誰と食べるか/休日朝夕（小学5年生）



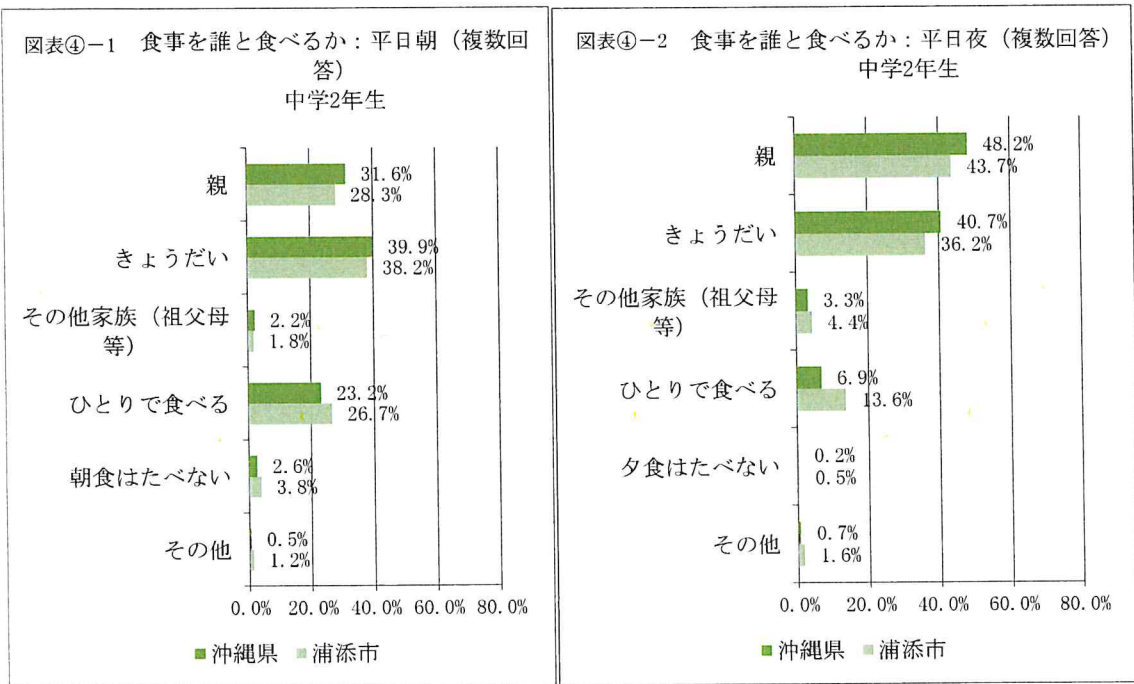
「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

○食事を誰と食べるか（中学2年生）

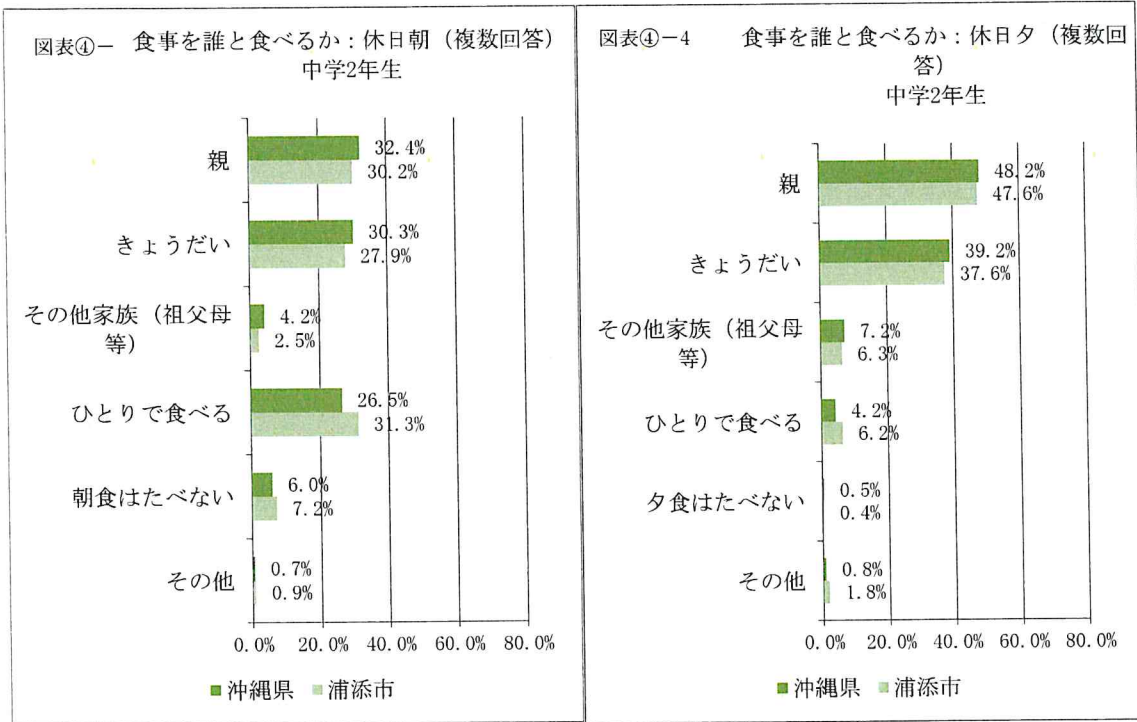
中学2年生になると、小学5年生に比べて、親やきょうだいと食べる割合が、特に朝食の場合に少なくなっています。そのためか、「ひとりで食べる」割合が増加しています。また、小学5年生同様に、親といっしょに食べる割合は、沖縄子ども調査より全般的に低い、また「ひとりで食べる」割合も高いことが伺えます。例えば、沖縄子ども調査(中学2年生)では、親といっしょに食べる割合は、平日朝食で31.6%、本調査では28.3%でした。平日夕食では48.2%、本調査で43.7%でした。また、ひとりで食べる割合は、沖縄子ども調査平日朝食23.2%、本調査26.7%、平日夕食6.9%、本調査13.6%で、こちらも小学5年生同様に、今後は、さらに詳細な分析を行うことで、より実態を把握する必要があります。

○食事を誰と食べるか/平日朝夕（中学2年生）



「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値 「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

○食事を誰と食べるか/休日朝夕（中学2年生）



「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

「親と食べる」、「ひとりで食べる」割合の統計値

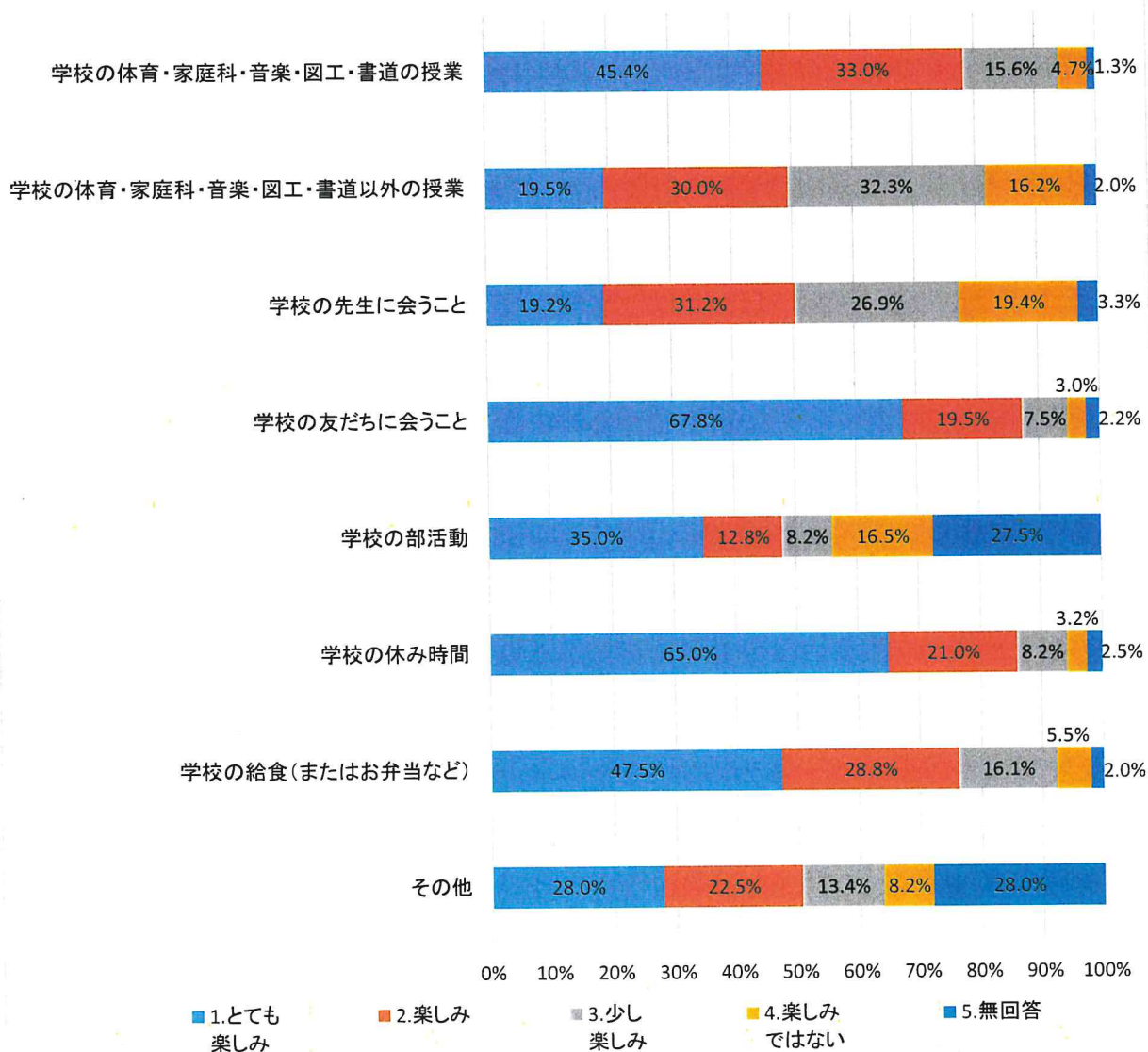
⑤学校生活

○学校生活（小学5年生）

学校生活について、8つの項目について尋ねています。

小学5年生については、「友だちに会うこと」（67.8%）、「休み時間」（65.0%）が、「とても楽しみ」としています。一方で、「学校の先生に会うこと」、「部活動」を「楽しみでない」とする子どもは、それぞれ19.4%、15.5%に及んでいました。また、学校の授業については、体育・技術家庭・音楽・美術・書道の授業は「とても楽しみ」45.4%、「楽しみ」33.0%となっており、80%近い子どもがどちらかに該当することが分かりました。体育・技術・家庭・音楽・美術・書道以外の授業についても、「とても楽しみ」（19.5%）及び「楽しみ」（30.0%）で半数近くでした。

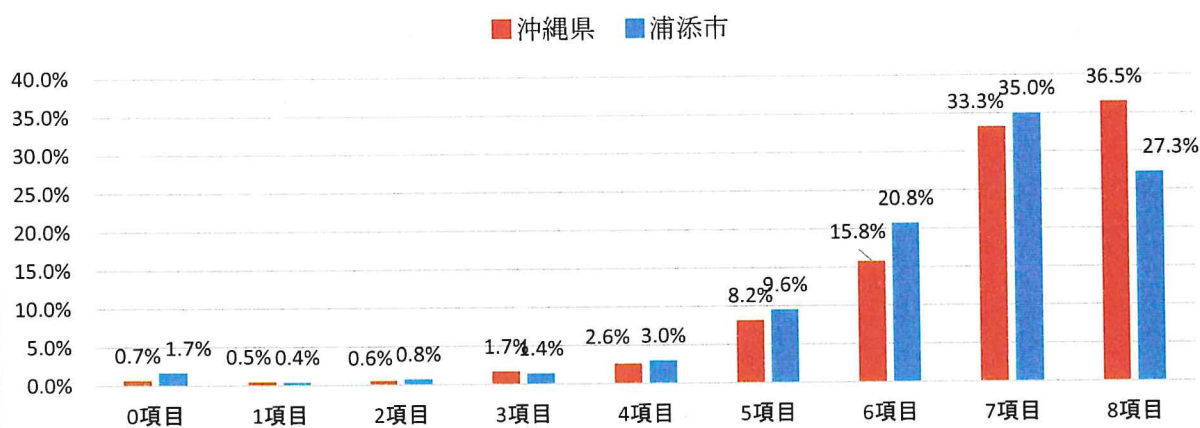
図表⑤－1 学校生活について（小学5年生）



○学校生活が「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた項目数（小学5年生）

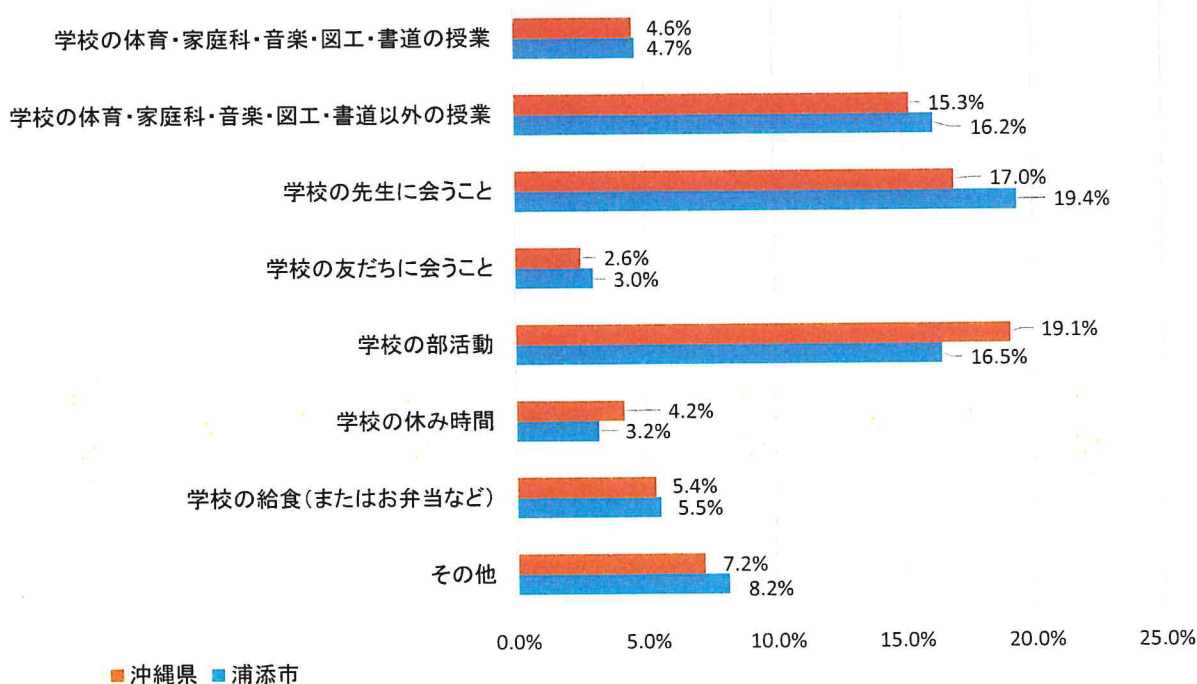
8つの項目について、「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」のどれかに○をつけている項目数を調べたところ、8項目すべてに○を付けていた子どもは27.3%、7項目以上（7項目プラス8項目）に○をつけていた子どもが62.3%いることが分かりました。多くの子どもは、多かれ少なかれ学校生活を楽しんでいることが分かります。

図表⑤-2 学校生活が「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた項目数



一方で、「楽しみでない」とした子どもは、項目数によっては数パーセントから20%程度存在しています。沖縄子ども調査では、小学5年生で、授業やクラブ活動で「楽しみでない」とした割合が高いことが見られましたが、本調査でも同様でした。

図表⑤-3 学校生活が「楽しみでない」とした子どもの割合（小学5年生）

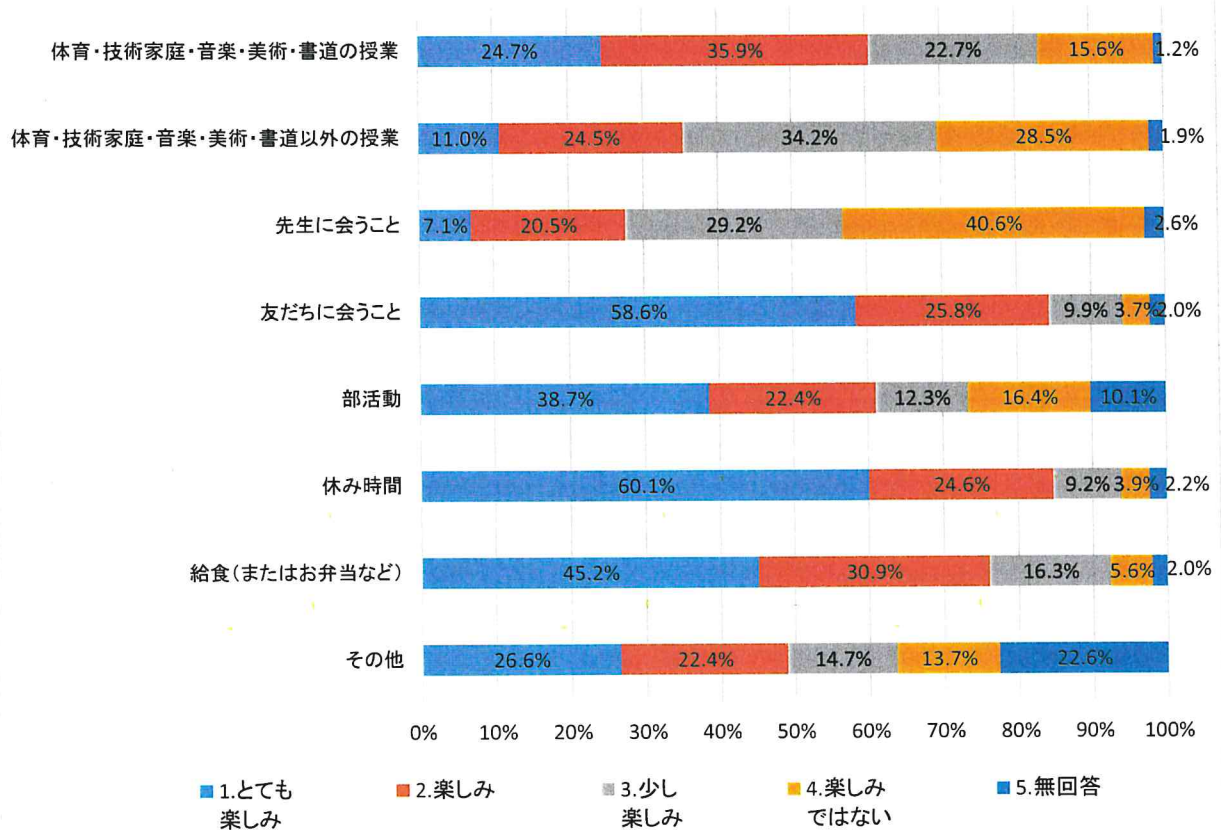


⑤学校生活

○学校生活（中学2年生）

中学2年生については、小学5年生に比べ、学校の授業の2項目及び「先生に会うこと」で「とても楽しみ」である割合が減っています。逆に、上記の3項目では、「楽しみではない」とした子どもの割合は増えています。

図表⑤-4 学校生活について（中学2年生）

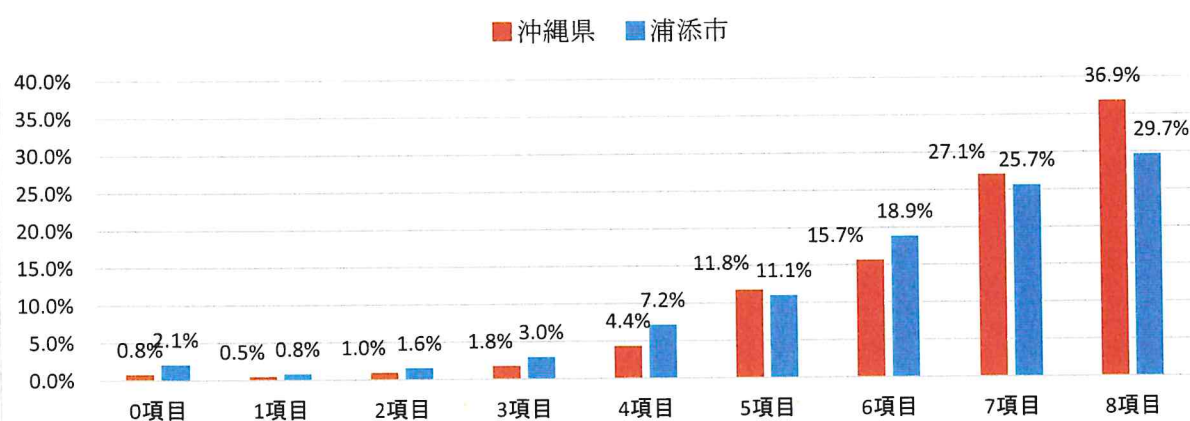


○学校生活が「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた項目数（中学2年生）

小学5年生同様、8つの項目について、「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」のどれかに○をつけている項目数を調べたところ、中学2年生でも、**29.7%**が8項目すべてに○をつけていました。7項目以上では**55.4%**と小学5年生と比較して**6.9%**の減少となっていました。

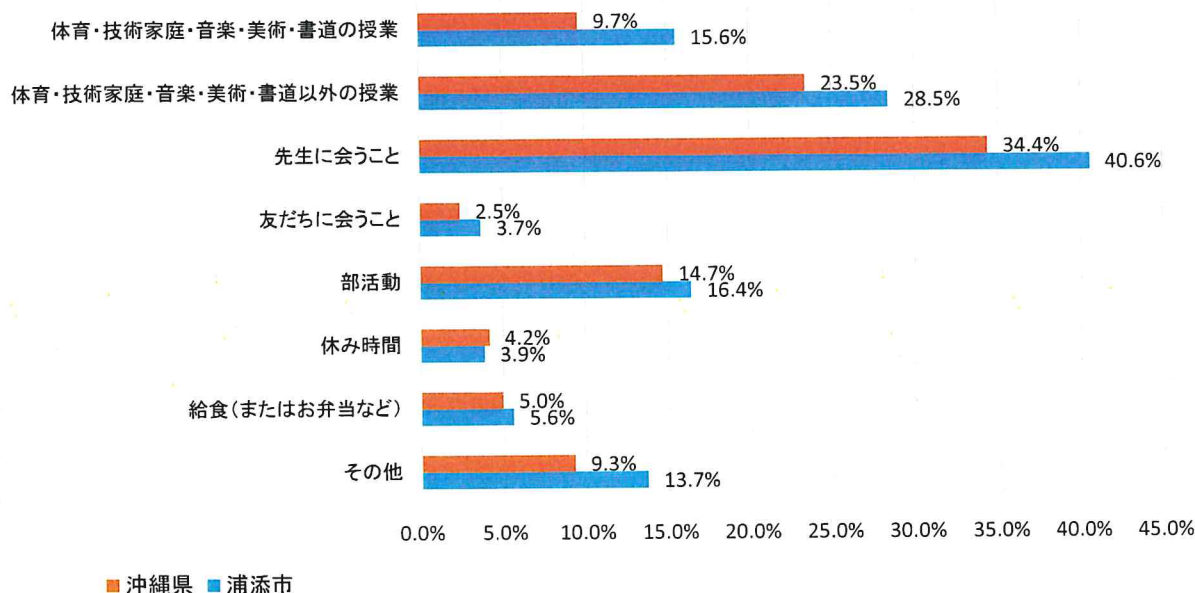
沖縄子ども調査では、小学5年生は、8項目は**36.5%**、7項目以上**69.8%**、中学2年生は、8項目**36.9%**、7項目以上**64.0%**で、小学5年生と比較して7項目以上で**5.8%**の減少でした。沖縄子ども調査に比べ、小学生と中学生との差が大きいことも分かりました。

図表⑤-5 学校生活が「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた項目数



中学2年生について、学校生活について「楽しみでない」とした割合を調べたところ、沖縄県子ども調査と比べ、中学生が「楽しみでない」とする割合が多いことも分かりました。例えば、沖縄県子ども調査では「学校の先生に会うこと」を「楽しみではない」とする割合は、約**34%**でしたが、本調査では約**41%**でした。

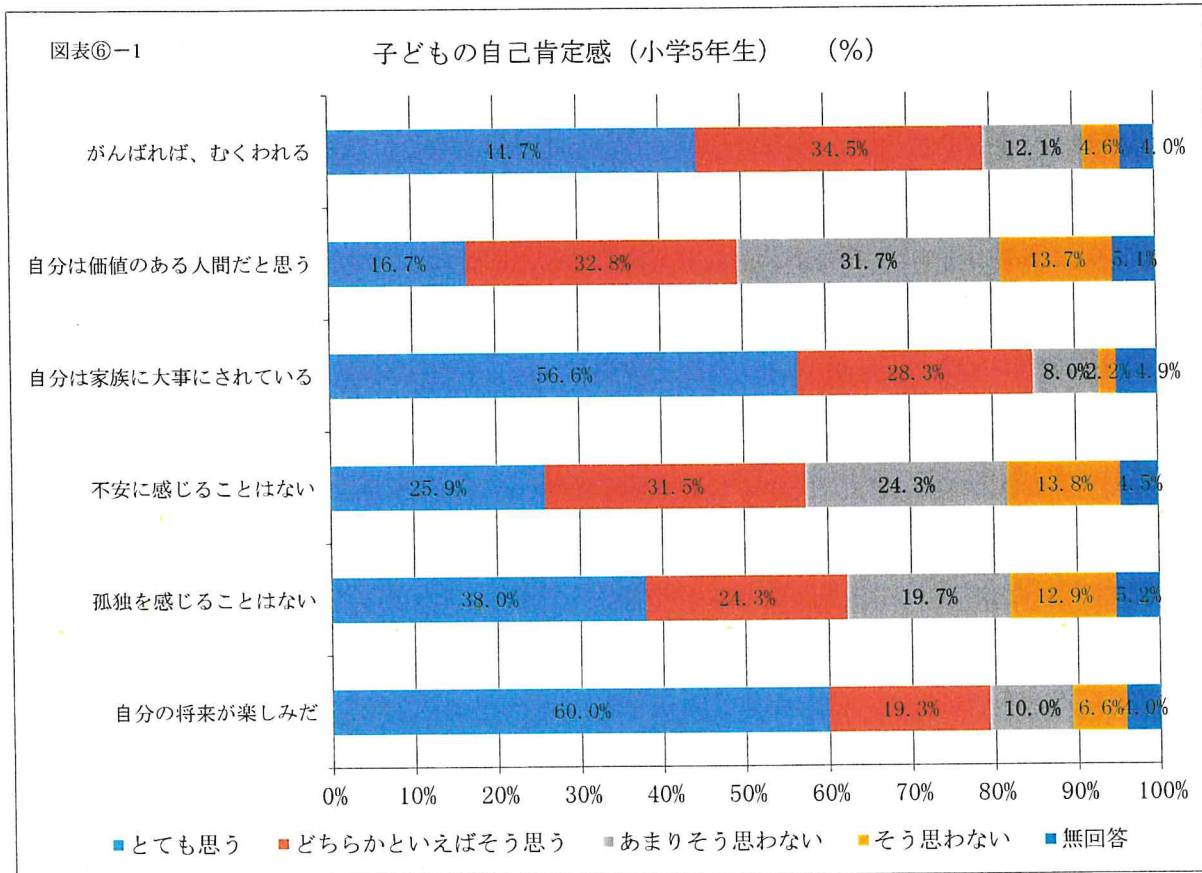
図表⑤-6 学校生活が「楽しみではない」とした子どもの割合（中学2年生）



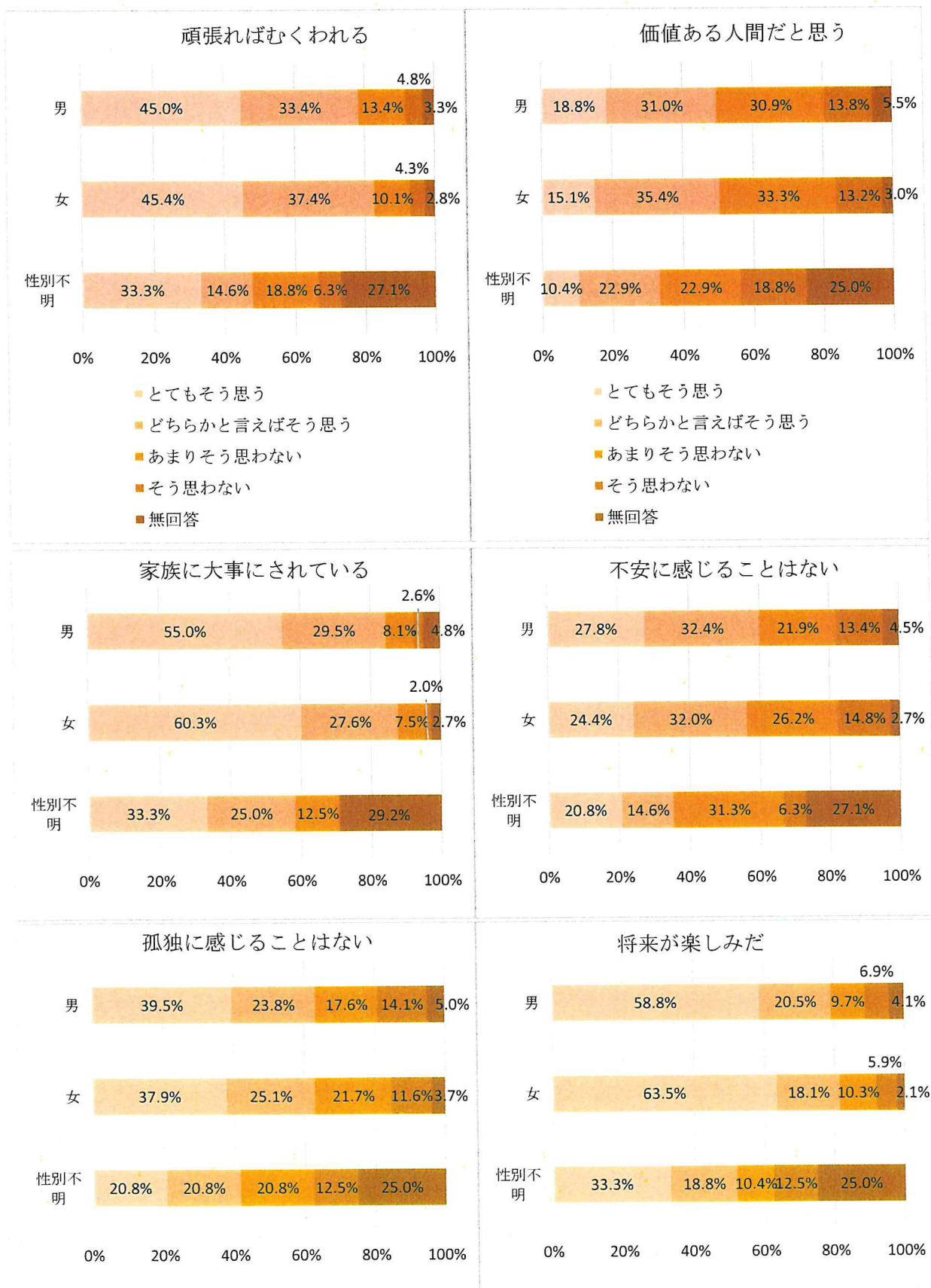
⑥子どもの自己肯定感

○子どもの自己肯定感（小学5年生）

子どもたちに自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について尋ねています。小学5年生では、「頑張れば、むくわれる」について「とても思う」と答えたのが44.7%、「思う」のが34.5%をあわせて79.2%が肯定的に答えています。「自分は家族に大切にされている」や「自分の将来が楽しみだ」も大多数の子どもが肯定的な回答をしています。一方で、「自分は価値がある人間だと思う」「不安に感じることはない」「孤独を感じることはない」の3項目は、3割から4割弱の子どもが「あまりそう思わない」「そう思わない」と否定的に答えています。また、沖縄子ども調査同様に、小学校5年生の男女間での差はほとんど見られませんでした。

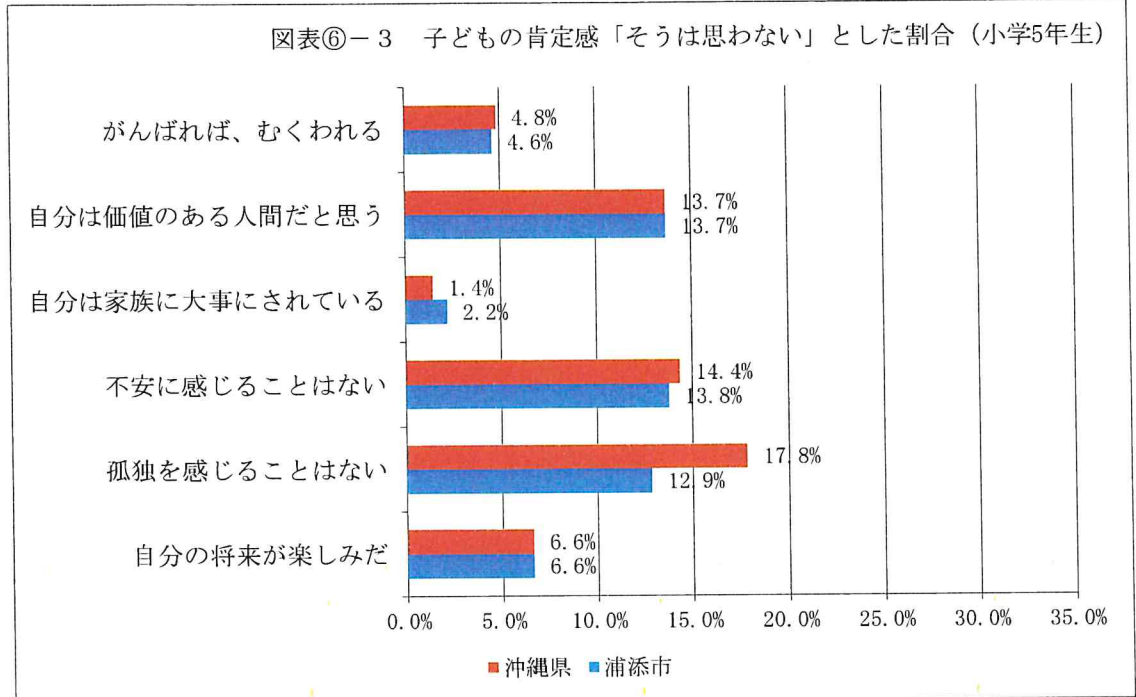


図表⑥-2 子どもの自己肯定感（小学5年生）：性別（%）



○子どもの肯定感「そうは思わない」とした子どもの割合（小学5年生）

沖縄子ども調査と本調査との比較がしやすいように、沖縄子ども調査単純集計（中学2年生徒、小学5年 児童）の数値報告をもとに行っています。
 その比較のなかで「そうは思わない」と答えた割合については、あまり差が見られませんが、「孤独を感じることはない」という質問については、沖縄子ども調査17.8%に対して、本調査は12.9%の子どもが「そうは思わない」として4.9%差がでています。今後、詳細を分析する必要があると思います。



※沖縄子ども調査 単純集計参照 小学5年 児童（問17）集計表、中学2年 生徒（問19）集計表「4. そう思わない」回答

夢がない理由	小学5年生		中学2年生	
	回答	%	回答	%
A. がんばれば、むくわれる	57	4.8%	68	5.6%
B. 自分は価値のある人間だと思う	161	13.7%	165	13.5%
C. 自分は家族に大切にされている	17	1.4%	36	2.9%
D. 不安を感じることはない	169	14.4%	241	16.7%
E. 孤独を感じることはない	210	17.8%	155	12.7%
F. 自分の将来が楽しみだ	78	6.6%	125	1.8%

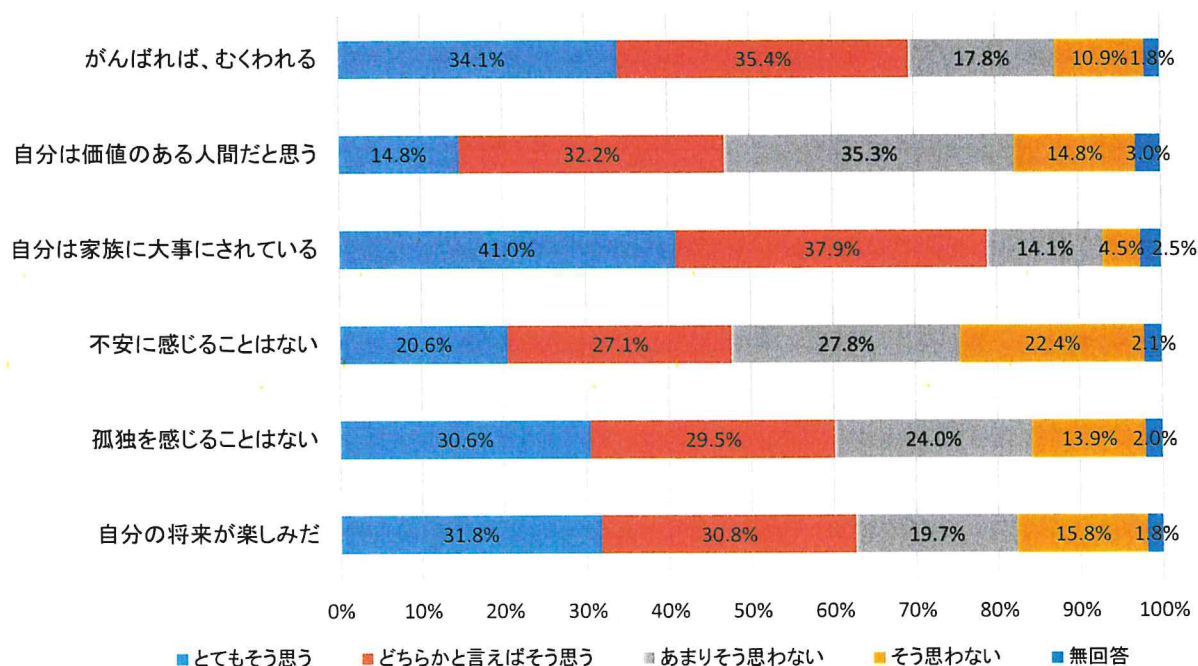
○子どもの自己肯定感（中学2年生）

中学2年生では、すべての項目で「とても思う」と答えた子どもの割合が少なくなります。特に、「自分の将来が楽しみだ」は、「とても思う」が小学5年生で60.0%だったのが、中学2年生では31.8%に大きく減っています。一方で、「そうは思わない」に注目すると、増えている項目（「がんばれば、むくわれる」、「不安に感じることはない」や「自分の将来が楽しみだ」など）もありますが、ほとんど変わらない項目（「自分は価値のある人間だと思う」）もありますが、全体的に差が出てきていると言えます。

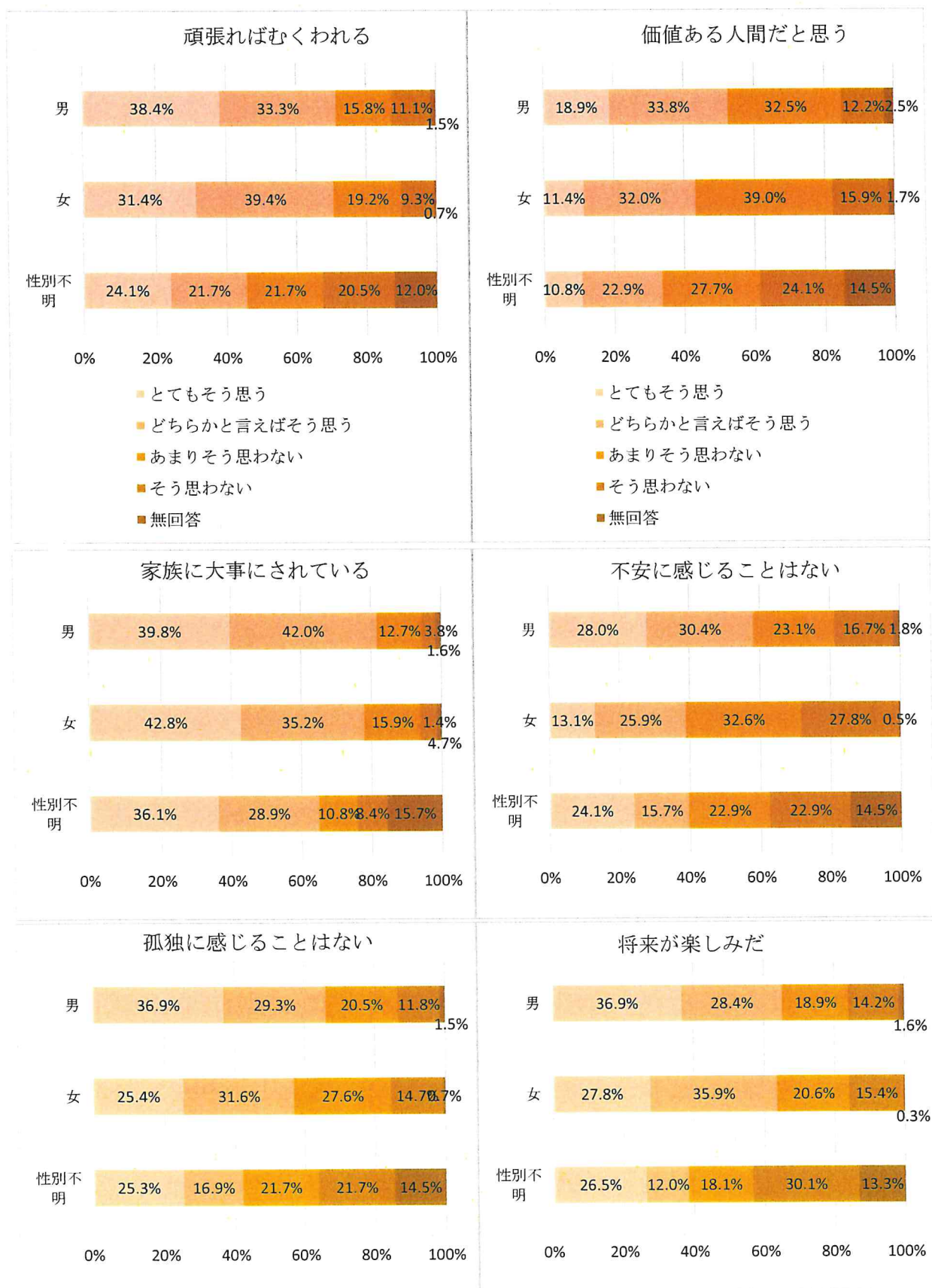
一方で、男女間ではいくつかの項目で差が見られ、男子の方が女子に比べ自己肯定感が高い傾向が見られるようです。

なお、沖縄子ども調査と比較して、どの項目も「そう思わない」子どもの割合が高い傾向が見られました。例えば、沖縄子ども調査では「自分は価値のある人間だと思う」について「そう思わない」のは13.5%でしたが、本調査では14.8%でした。また「自分の将来が楽しみだ」について「そう思わない」のは10.0%でしたが、本調査では15.8%でした。今後、詳細を分析する必要があると思います。

図表⑥-4 子どもの自己肯定感（中学2年生）（%）

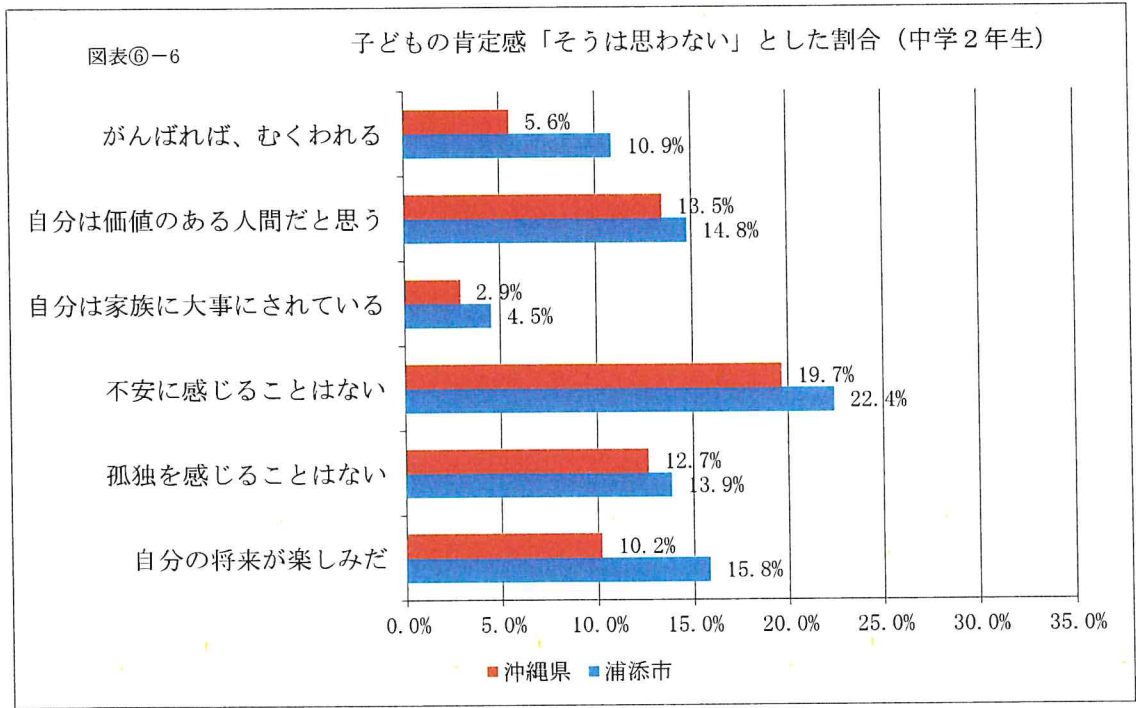


図表⑥-5 子どもの自己肯定感（中学2年生）：性別（%）



○子どもの肯定感「そうは思わない」とした子どもの割合（中学2年生）

「そうは思わない」と答えた割合については、すべての項目で差が見られました。特に、「自分の将来が楽しみだ」とう質問については沖縄子ども調査10.8%に対して、本調査は15.8%、「がんばれば、むくわれる」という質問については、沖縄子ども調査5.6%に対して、本調査は10.9%の子どもが「そうは思わない」としています。



※沖縄子ども調査 単純集計参照 小学5年 児童（問17）集計表、中学2年 生徒（問19）集計表
「4. そう思わない」 回答

夢がない理由	小学5年生		中学2年生	
	回答	%	回答	%
A. がんばれば、むくわれる	57	4.8%	68	5.6%
B. 自分は価値のある人間だと思う	161	13.7%	165	13.5%
C. 自分は家族に大切にされている	17	1.4%	36	2.9%
D. 不安を感じることはない	169	14.4%	241	19.7%
E. 孤独を感じることはない	210	17.8%	155	12.7%
F. 自分の将来が楽しみだ	78	6.6%	125	10.2%

⑦就学援助の利用

保護者の方に、就学援助制度の利用について伺いました。小学1年生の保護者の16.8%、小学5年生の18.2%、中学2年生の21.7%は就学援助制度を利用しているとしています。(図表⑦-1)。本調査での貧困層の割合は、小学1年生20.3%、小学5年生18.9%、中学2年生22.2%であったので、それに比べて低い割合の保護者が利用していることになります。

就学援助制度を利用している保護者に「学校にかかる経費をカバーできているか」尋ねたところ、「十分にカバーできている」または「カバーできている」と答えたのは、利用している保護者のうち、小学1年生の62.8%から、小5年生の65.1%、中学2年生では56.1%と減っています。一方、「あまりカバーできていない」または「カバーできていない」としたのは、小学1年生の33.2%から、小学5年生では31.9%、中学2年生では42.7%と増えています。

就学援助制度を利用していない保護者に、利用しない理由を尋ねたところ、最も多かったのは、各学年とも必要ないため、申請しなかったという理由ですが、必要であるが、申請要件を満たしていなかったためとする保護者も19.0%～24.1%存在し、さらに就学援助を知らなかったとする保護者も小学1年生で7.4%、小学5年生で3.0%、中学2年生で3.7%いることが分かりました。沖縄子ども調査では、就学援助を知らなかったという保護者は、小学1年生で13.6%、小学5年生で10.8%、中学2年生で8%となっています。

なお、本調査でも「必要であるが周囲の目がきになった」ため、申請しなかったという選択肢を設けましたが、小学1年生1.6%、小学5年生6.1%、中学2年生6.8%の保護者がこの選択肢を選んでおり、沖縄子ども調査と比較すると、それぞれ2.1%、3.2%、1.7%と学年が上がるにつれて、差が大きくなっており、今後、詳細を分析する必要があります。

図表⑦-1

就学援助制度を利用していますか？

	小学1年生		小学5年生		中学2年生	
	回答	(%)	回答	(%)	回答	(%)
利用している (※1)	172	16.8%	166	18.2%	178	21.7%
利用していない (※2)	798	77.9%	704	77.3%	600	73.2%
わからない	32	3.1%	20	2.2%	16	2.0%
無回答	22	2.1%	21	2.3%	26	3.2%
合計	1,024	100.0%	911	100.0%	820	100.0%

図表⑦-2

(※1) 利用していると回答したうち「必要な経費をカバーできているか」

	小学1年生		小学5年生		中学2年生	
	回答	(%)	回答	(%)	回答	(%)
十分カバーできている	20	11.6%	25	15.1%	20	11.2%
カバーできている	88	51.2%	83	50.0%	80	44.9%
あまりカバーできていない	40	23.3%	39	23.5%	56	31.5%
カバーできていない	17	9.9%	14	8.4%	20	11.2%
無回答	7	4.1%	5	3.0%	2	1.1%
合計	172	100.0%	166	100.0%	178	100.0%

図表⑦-3

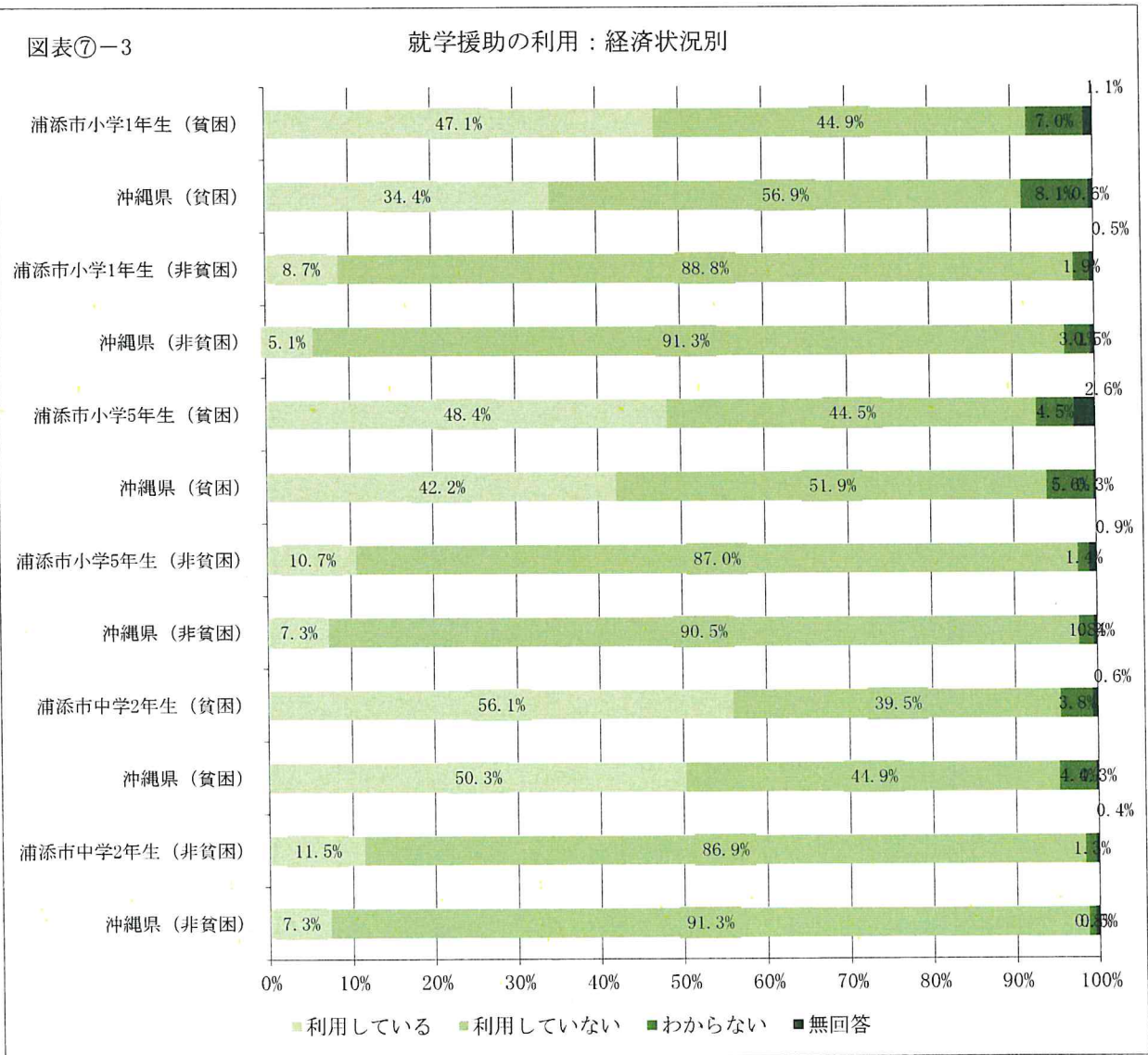
(※2) 利用していないと回答したうち「就学援助を申請しなかった理由」

	小学1年生		小学5年生		中学2年生	
	回答	(%)	回答	(%)	回答	(%)
申請しなかった (必要ないため)	440	55.1%	436	61.9%	360	60.0%
申請しなかった (必要であるが、申請要件を満たしていなかった)	192	24.1%	146	20.7%	114	19.0%
申請しなかった (必要であるが、周囲の目が気になった)	13	1.6%	43	6.1%	41	6.8%
申請したが認定されなかったため	52	6.5%	41	5.8%	44	7.3%
就学援助を知らなかった	59	7.4%	21	3.0%	22	3.7%
その他	27	3.4%	4	0.6%	5	0.8%
無回答	15	1.9%	13	1.8%	14	2.3%
合計	798	100.0%	704	100.0%	600	100.0%

○就学援助の利用/経済状況別

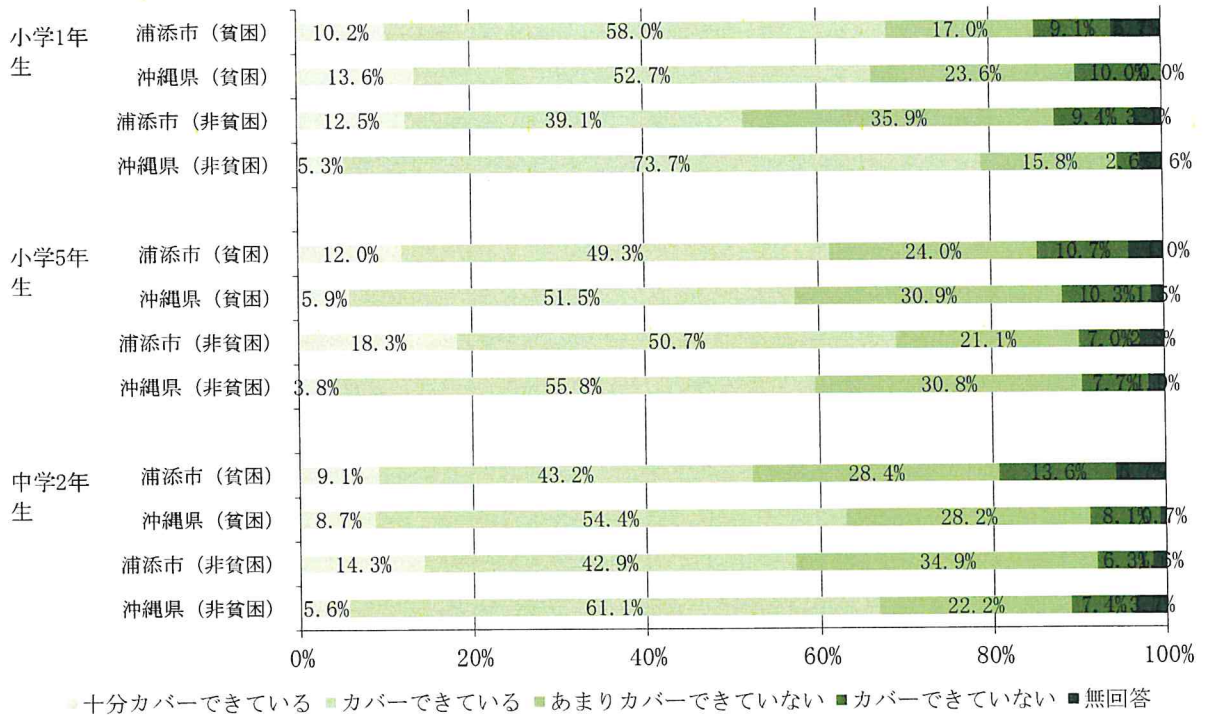
前頁の3つの質問を、貧困層/非貧困層に分けてみたものが、図表⑦-3から⑦-5です。このうち注目されるのが、貧困層の小学1年生の保護者のうち、44.9%、小学5年生で44.5%、中学2年生で39.5%が就学援助を利用していないことです。（図表⑦-3）。この数字は沖縄ども調査では、小学1年生で56.9%、小学5年生で51.9%、中学2年生で44.9%であり、本調査では小学1年生がかなり低いことが伺えます。

また、本調査での就学援助を利用しない理由に注目してみると、就学援助を利用していない貧困層の保護者のうち、小学1年生で14.3%、小学5年生で8.7%、中学2年生で12.9%の保護者が就学援助を知らなかったと答えています。また、周囲の目を気にして申請しなかったという貧困層の保護者は、小学1年生で6.0%、小学5年生14.5%、中学2年生17.7%程度存在します。



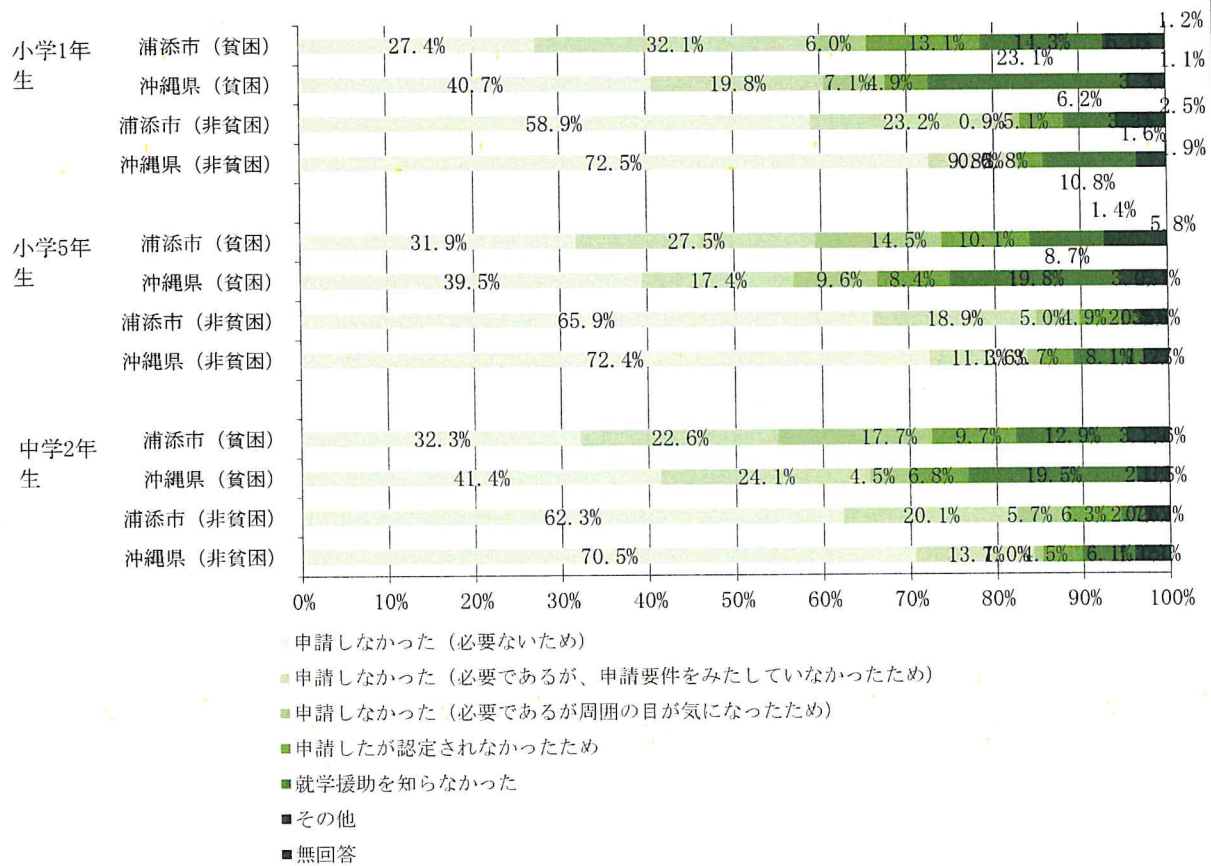
図表⑦-4

就学援助で必要な経費をカバーできているか：経済状況別



図表⑦-5

就学援助を申請しなかった理由：経済状況別

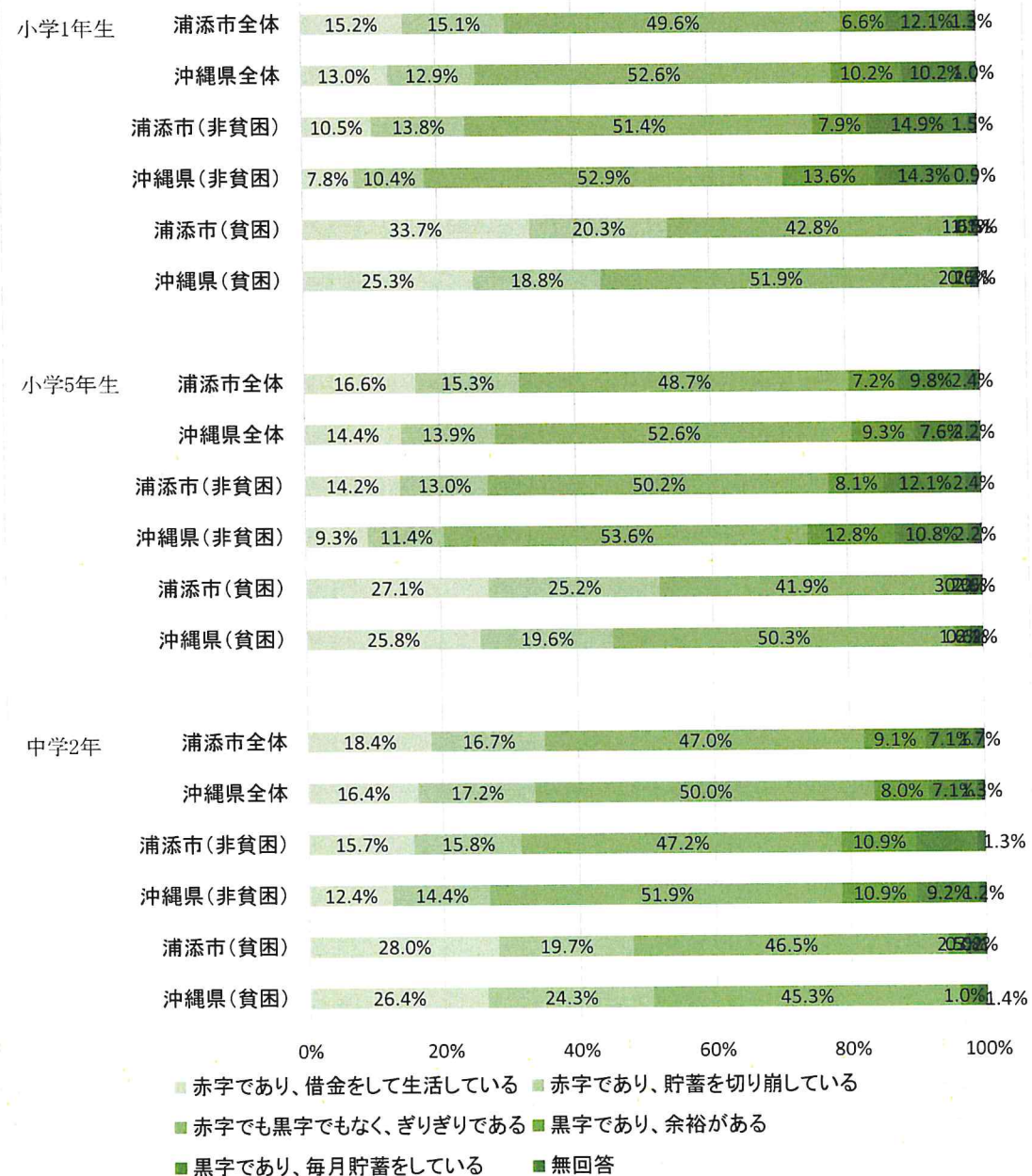


⑧家計と子どもへの支出

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者に家計の状況について伺っています。全体的にゆとりのない状況であることが分かりました。どの学年も「赤字でもなく黒字でもなく、ぎりぎりである」と答える保護者が半数以上を占め、家計が「赤字である」（借金をしているか、貯蓄を切り崩している）方が30%～35%いました。また、この割合は、学年が上がるにつれて少しずつ増加していることも伺えました。

また、貧困層ではどの学年でも、ほとんどが「赤字である」または「赤字でもなく黒字でもなく、ぎりぎりである」としており、「黒字である」割合はほとんどいないことが分かりました。

図表⑧－1 保護者の家計状況



○子どもへの支出

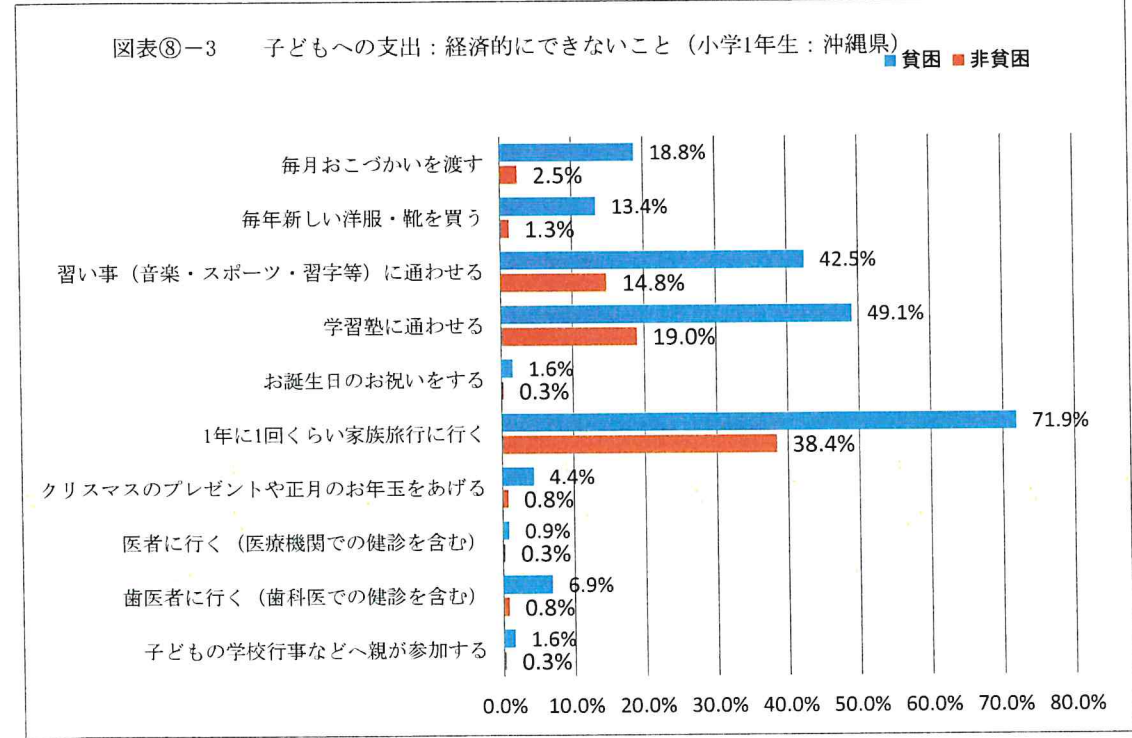
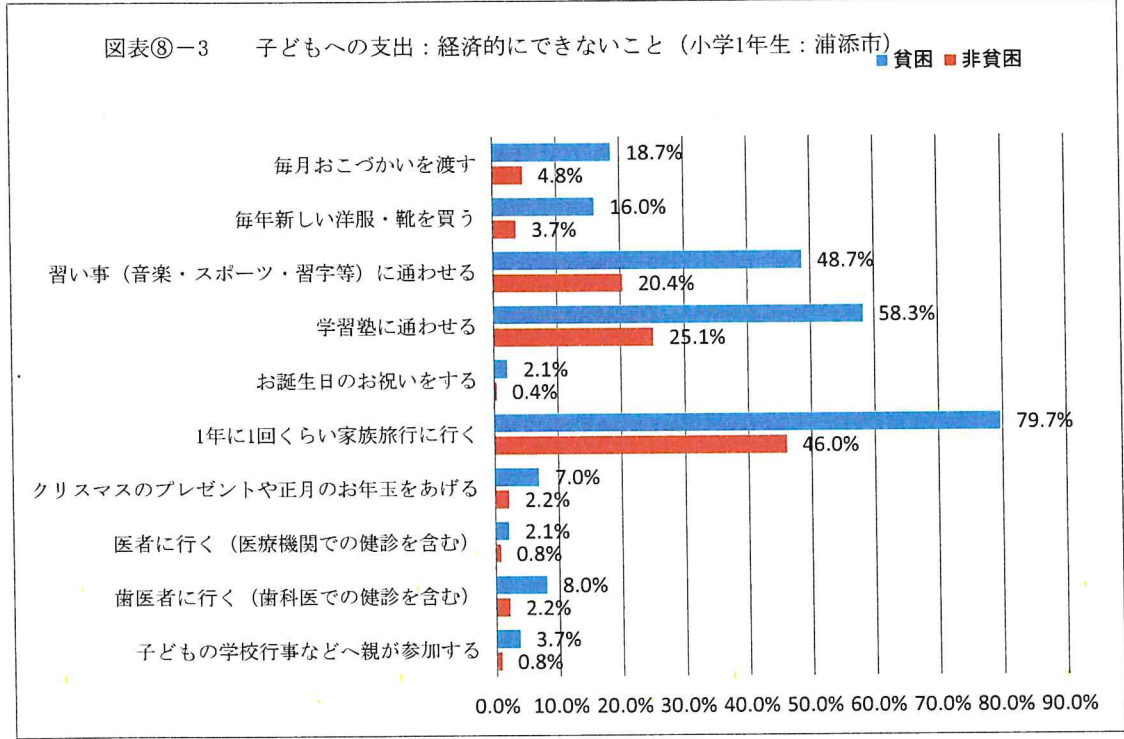
「毎月おこづかいを渡す」など以下の10項目を、子どもに与えているかを尋ねています。与えているとする割合が90%を超えているものや子どもには必要だと思わない保護者が半数以上のものもあります。例えば「習い事」や「学習塾」に「経済的に」通わすことができない割合は、どの学年も平均25.6%あります。また「1年に一回ぐらい家族旅行に行く」については、どの学年も約半数の保護者ができないと答えています。さらに、中学2年生という思春期の子どもの保護者で「毎年新しい洋服・靴を買う」ことができない方が9%いることも見逃せない点です。

沖縄子ども調査との比較では、ほとんどの項目でかわらない割合となっていますが、小学1年生の「習い事」「学習塾」「一年に一回ぐらいの家族旅行」などで、本調査の方が高い割合となっています。例えば、沖縄子ども調査では「習い事」「学習塾」「一年に一回ぐらいの家族旅行」では、経済的にできないとした割合が23.1%、27.8%、49%でしたが、本調査ではそれぞれ26.1%、31.8%、52.1%でした。

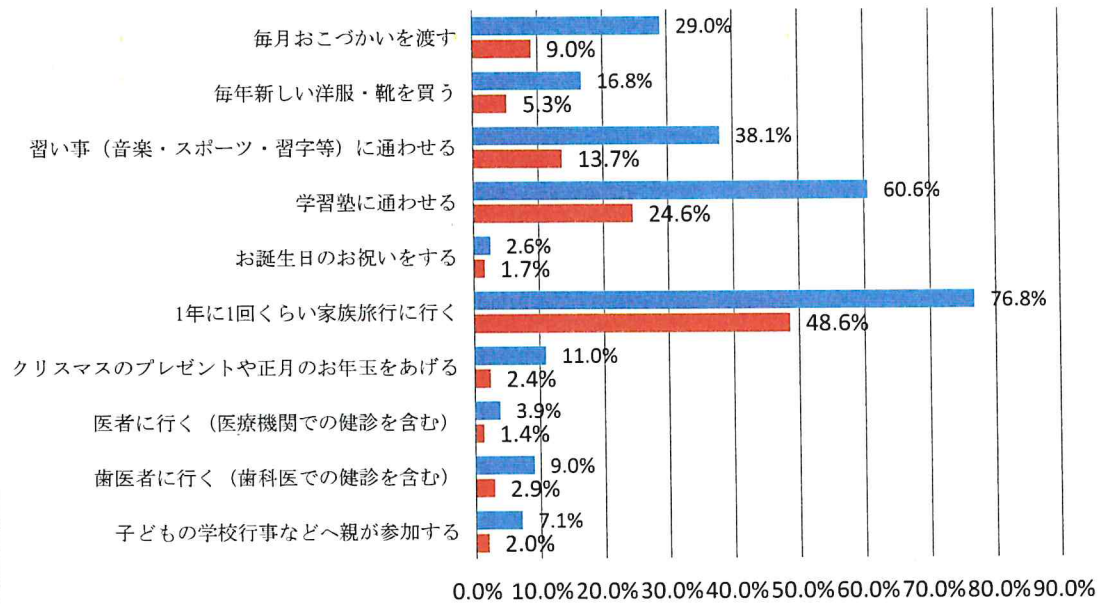
(%)	小学1年生				小学5年生				中学2年生			
	している	していない		無回答	している	していない		無回答	している	していない		無回答
		必要だと思わない	経済的にできない			必要だと思わない	経済的にできない			必要だと思わない	経済的にできない	
毎月おこづかいを渡す	7.9	81.3	7.8	3.0	26.8	57.5	12.7	3.0	42.3	37.1	16.1	4.5
毎年新しい洋服・靴を買う	83.1	7.7	6.5	2.6	83.2	6.9	7.5	2.4	78.3	8.3	9.1	4.3
習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる	58.9	11.2	26.1	3.8	71.0	7.5	18.2	3.3	47.0	22.2	24.4	6.5
学習塾に通わせる	20.1	44.0	31.8	4.0	30.5	33.8	31.5	4.2	56.1	16.8	21.8	5.2
お誕生日のお祝いをする	96.5	0.6	0.9	2.1	95.7	0.4	1.8	2.1	92.9	1.8	2.1	3.2
1年に1回ぐらい家族旅行に行く	37.8	6.5	52.1	3.5	36.1	6.6	54.0	3.3	23.5	11.2	59.1	6.1
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	93.0	1.4	3.0	2.6	92.2	1.6	3.8	2.3	86.3	3.7	6.7	3.3
医者に行く（医療機関での健診を含む）	95.7	0.6	1.1	2.6	95.4	0.9	1.8	2.0	92.9	1.8	2.1	3.2
歯医者に行く（歯科医での健診を含む）	90.2	3.4	3.5	2.8	91.9	1.6	4.1	2.4	88.4	3.2	4.1	4.3
子どもの学校行事などへ親が参加する	95.4	0.8	1.4	2.4	93.9	0.9	3.0	2.3	88.7	4.0	3.3	4.0

○子どもへの支出：経済的にできないこと

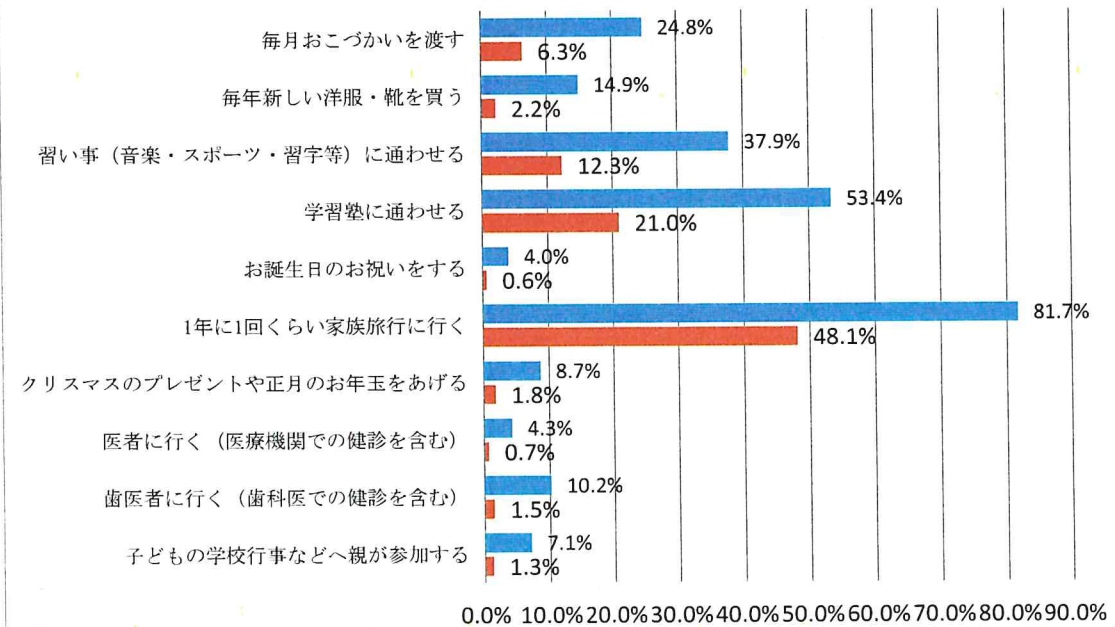
「経済的にできない」割合は、経済状況によって異なっており、貧困層では多くなっています。特に、「習い事」や「学習塾」に「経済的に」通わせられない割合は、貧困層では、小学1年（48.7%、58.3%）、小学5年（38.1%、60.6%）、中学2年（49.0%、43.3%）となり、「1年に一回ぐらい家族旅行に行く」は、小学1年79.7%、小学5年76.8%、79.6%となっています。



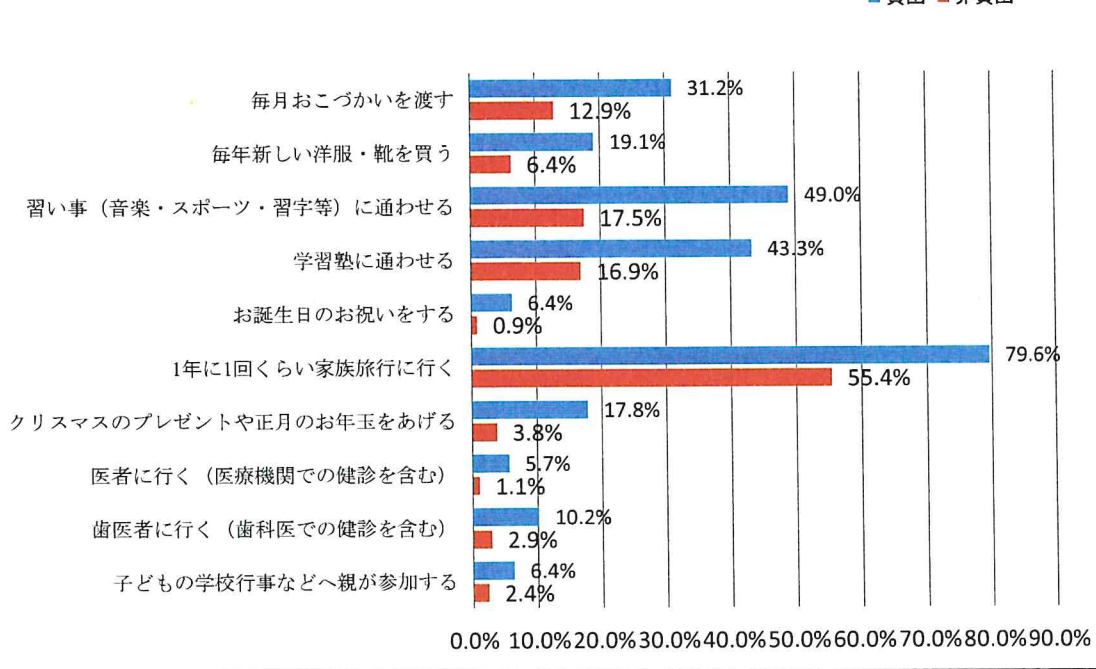
図表⑧-4 子どもへの支出：経済的にできないこと（小学5年生：浦添市） ■ 貧困 ■ 非貧困



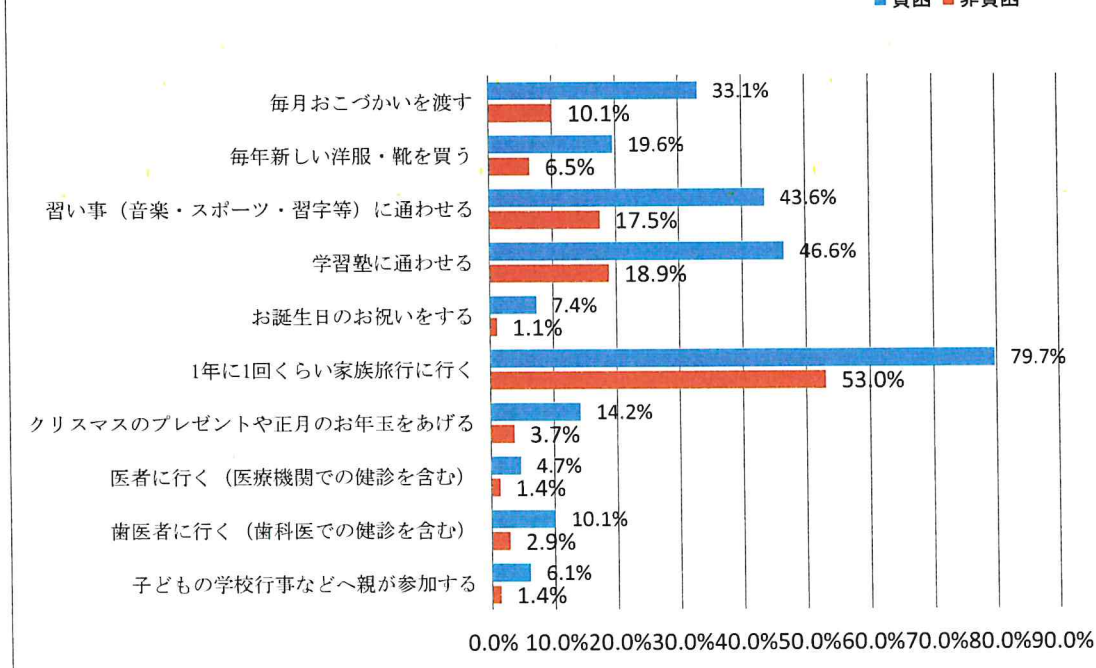
図表⑧-4 子どもへの支出：経済的にできないこと（小学5年生：沖縄県） ■ 貧困 ■ 非貧困



図表⑧-5 子どもへの支出：経済的にできないこと（中学2年生：浦添市）



図表⑧-5 子どもへの支出：経済的にできないこと（中学2年生：沖縄県）



⑨子どもの進学に関する意識

○どの段階までの教育を受けさせたいか

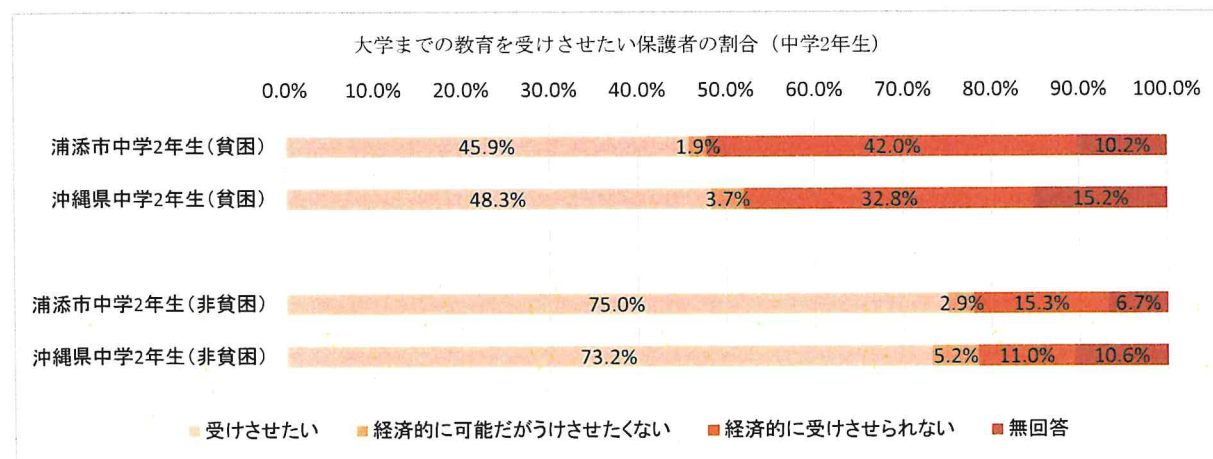
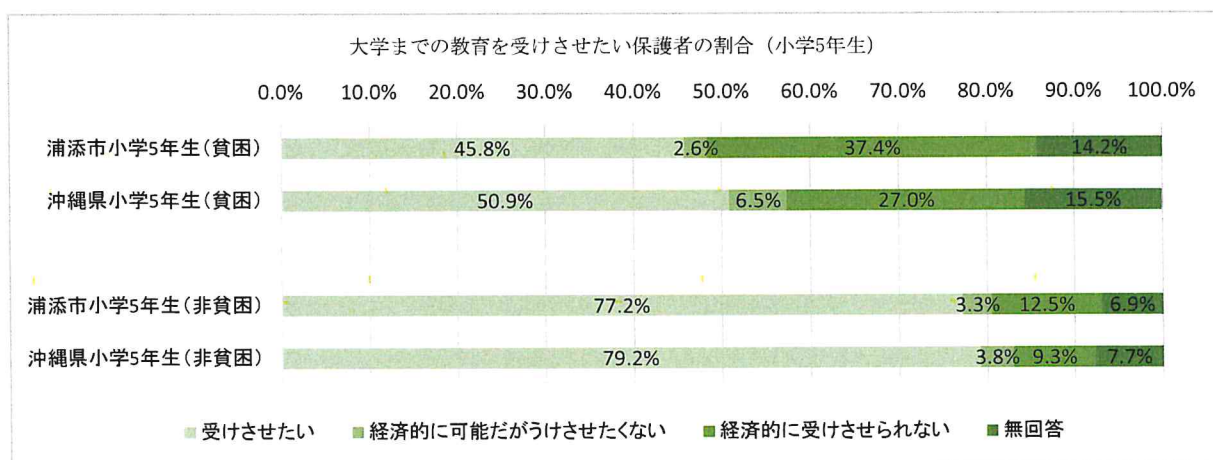
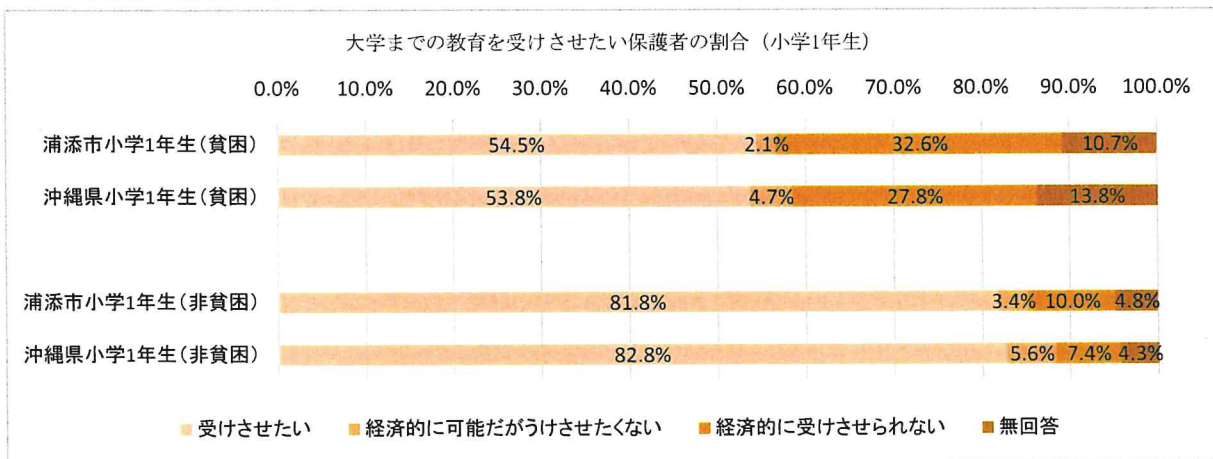
保護者に子どもの進学に関する意識を尋ねています。どの学年も、高校までの教育について、「経済的に受けさせられない」とする方はほとんどいませんでした。しかし、短期大学、高専、専門学校については、「経済的に受けさせられない」保護者がどの学年も**9～12%程度**おり、大学に関しては**15～21%程度**「経済的に受けさせられない」としています。

図表⑨-1 どの段階までの教育を受けさせたいか

	小学1年生				小学5年生				中学2年生			
	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	経済的に受けさせられない	無回答	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	経済的に受けさせられない	無回答	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	経済的に受けさせられない	無回答
(%)												
高校まで	78.6	0.0	0.2	21.2	71.4	0.3	0.3	28.0	66.8	0.1	0.0	33.0
短大・高専・専門学校まで	65.7	3.2	9.3	21.8	63.0	2.0	9.8	25.2	55.4	2.3	12.2	30.1
大学まで	74.1	3.3	15.1	7.4	69.5	3.2	18.0	9.3	66.3	2.4	20.7	10.5

○大学までの教育を受けさせたい保護者の割合

保護者の子どもの進学意識に関しては、経済状況によって異なっていました。大学までの教育に絞って分析すると、「経済的に受けさせられない」とする割合は小学1年生から生じており、小学1年生では、非貧困層は10%、貧困層では32.6%と、22.6%の差がありました。小学5年生では非貧困層は12.5%、貧困層では37.4%と、24.9%の差が生じています。中学2年生では、15.3%と42.0%と、差が26.7%になっていました。このため、「受けさせたい」とする割合にも差が生じています。



⑩困窮経験

○食料を買えなかった経験

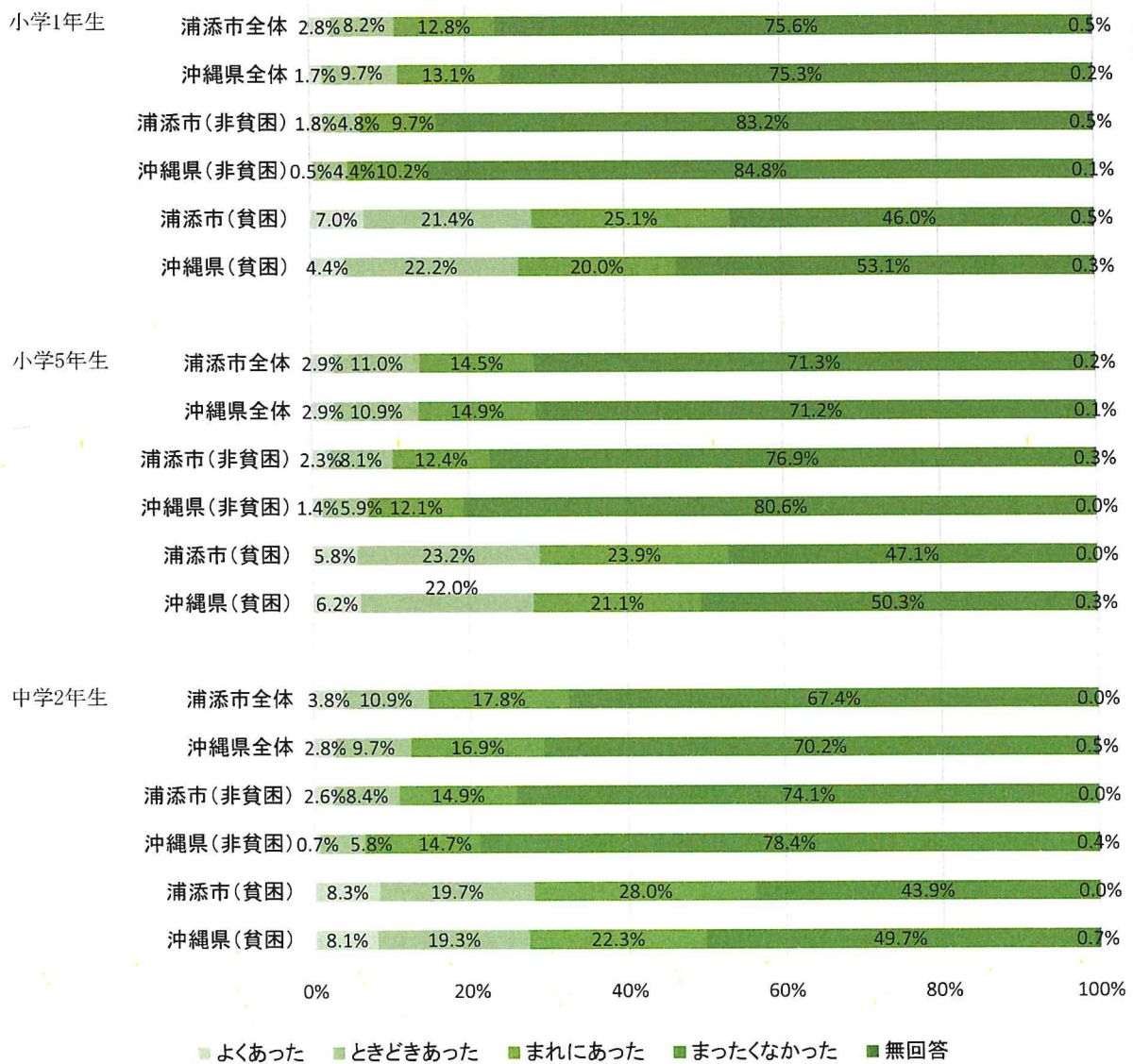
生活上の困難として、過去1年間の間に経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料（嗜好品は含まない）が買えないことがあったかを尋ねています。

食料については、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると全体では小学1年生では計23.8%、小学5年生では28.4%、中学2年生では32.5%であることが分かりました。学年が上がるにつれて少しずつ増加することが伺えました。

また、経済状況によっても違いが見られ、貧困層ではどの学年も合計で約50%の保護者が食料の困窮経験（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）があったとしています。さらに、貧困層の保護者の「よくあった」割合は、小学1年生では、7.0%、小学5年生では5.8%、中学2年生では8.3%でした。

図表⑩-1

食料を買えなかった経験 (%)

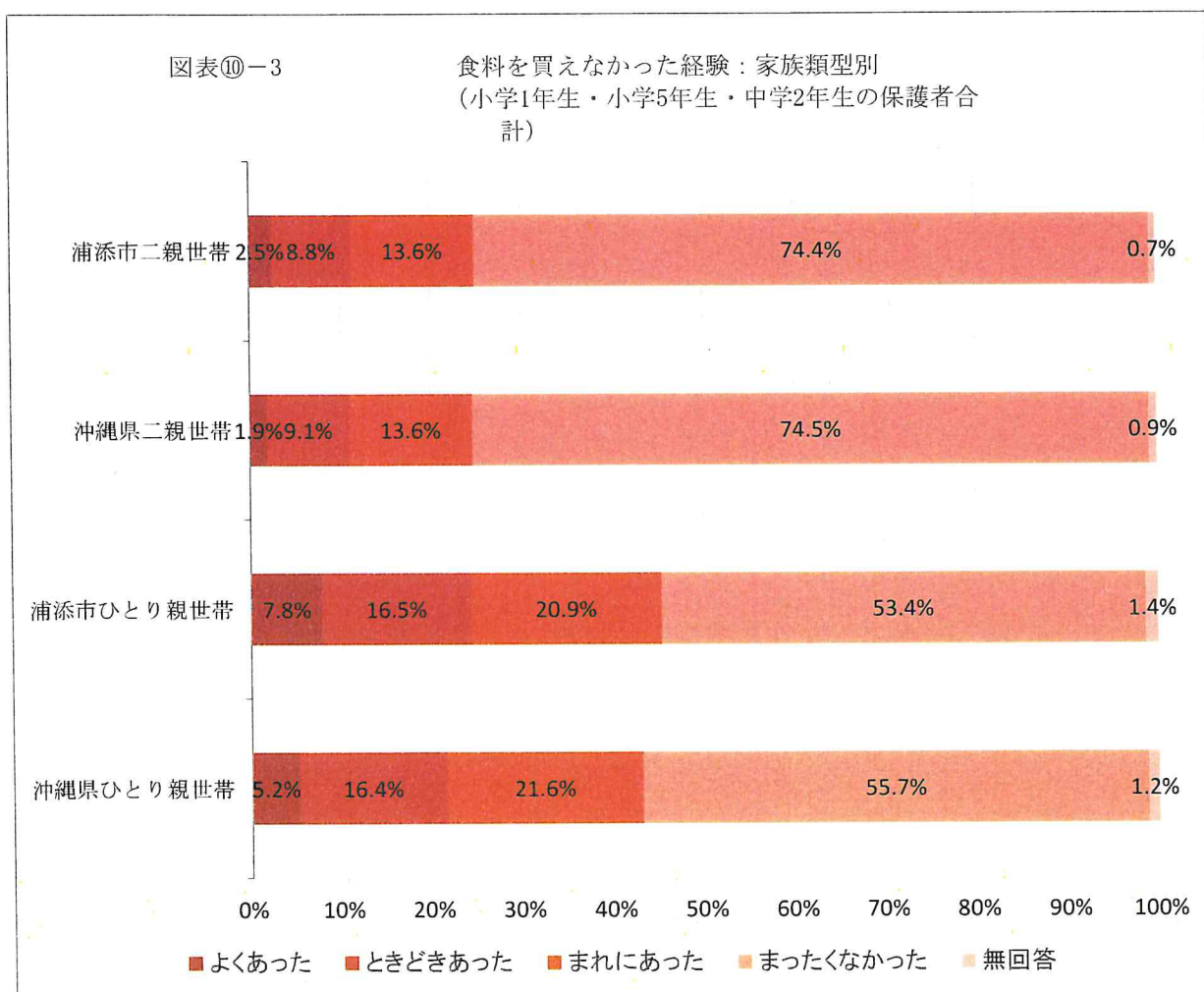


○食料を買えなかった経験/沖縄県比較

図表⑩-2は、沖縄県との比較のために、同じ内容の質問がある「平成28年 沖縄子ども調査 調査結果概要版」の結果を基に作成したものです。沖縄子ども調査では「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計（食料困窮の経験）の割合は二親世帯で**24.6%**、ひとり親世帯で**43.2%**であることが分かります。

沖縄子ども調査との比較を分かりやすくするために、本質問について小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者の回答を足し合わせ、家族類型（二親世帯とひとり親世帯）でそれぞれの割合を見たものが図表⑩-3です。本調査においては、二親世帯で食料困窮の体験は**24.9%**、ひとり親世帯では**45.2%**となり、沖縄子ども調査と比較して高いことが伺えます。

また、本調査の貧困層の食料困窮の経験の割合（図表⑩-1）は、沖縄子ども調査のひとり親世帯や本調査のひとり親世帯の割合と比較しても、高く深刻であることが分かります。特に、「よくあった」の割合に注目し、沖縄子ども調査のひとり親の割合（5.2%）、本調査のひとり親世帯の割合（7.8%）と比較すると、前述の本調査の小学1年生、小学5年生、中学2年生の割合（7.0%、5.3%、8.3%）の高さが浮かび上がります。

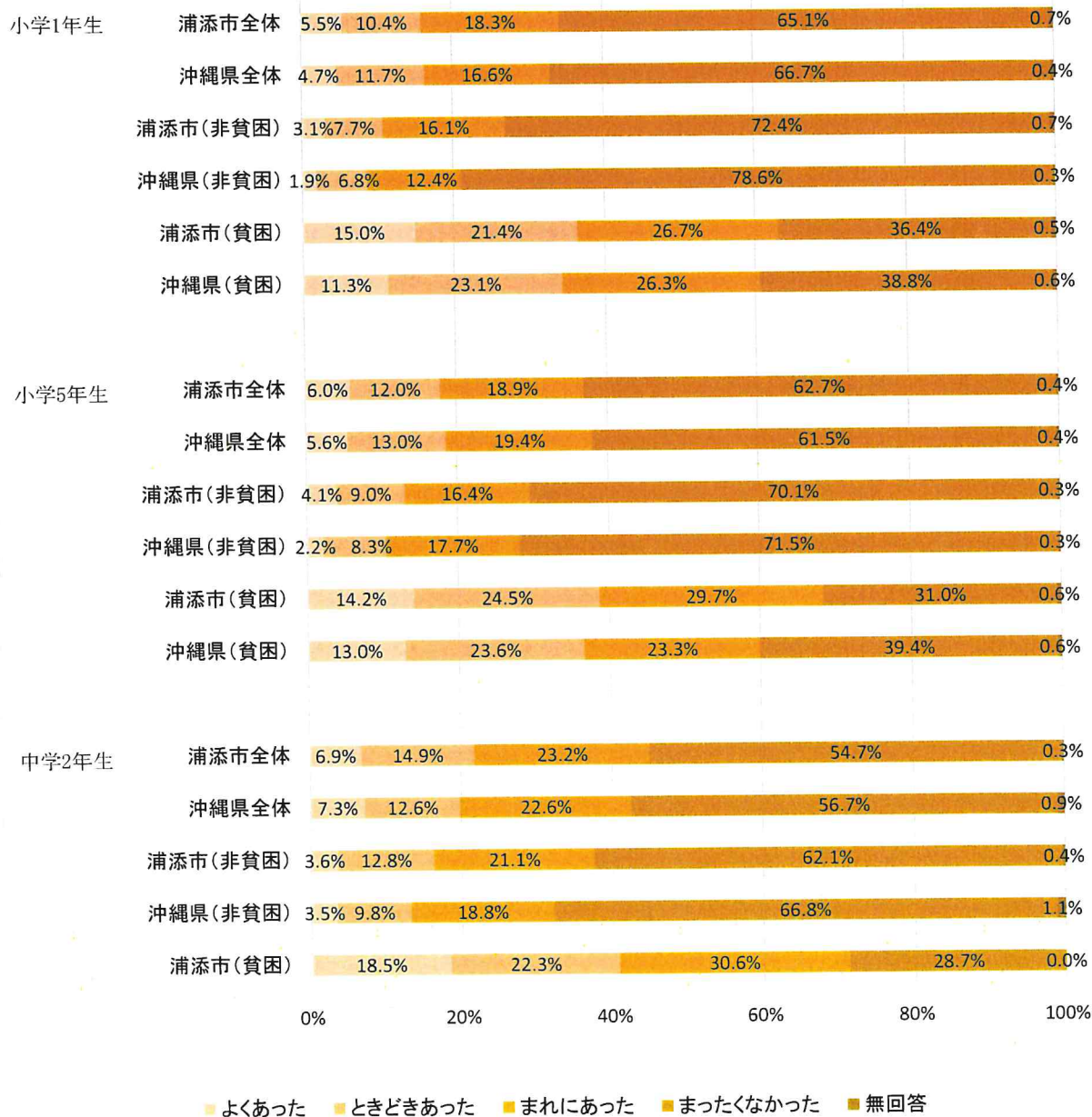


○衣料を買えなかった経験

衣料については、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は、全体では小学1年生では34.2%、小学5年生では36.9%、中学2年生では45%でした。衣料についても学年が上がるにつれて増加していました。

また、経済状況によっても違いが見られ、貧困層では衣料困窮経験の割合（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）は小学1年生では63.1%、小学5年生では68.4%、中学2年生では71.4%ほどになります。さらに、貧困層の保護者の「よくあった」割合は、小学1年生では、15%、小学5年生では14.2%、中学2年生では18.5%でした。

図表⑩-4 衣料を買えなかった経験 (%)



○衣料を買えなかった経験/沖縄県比較

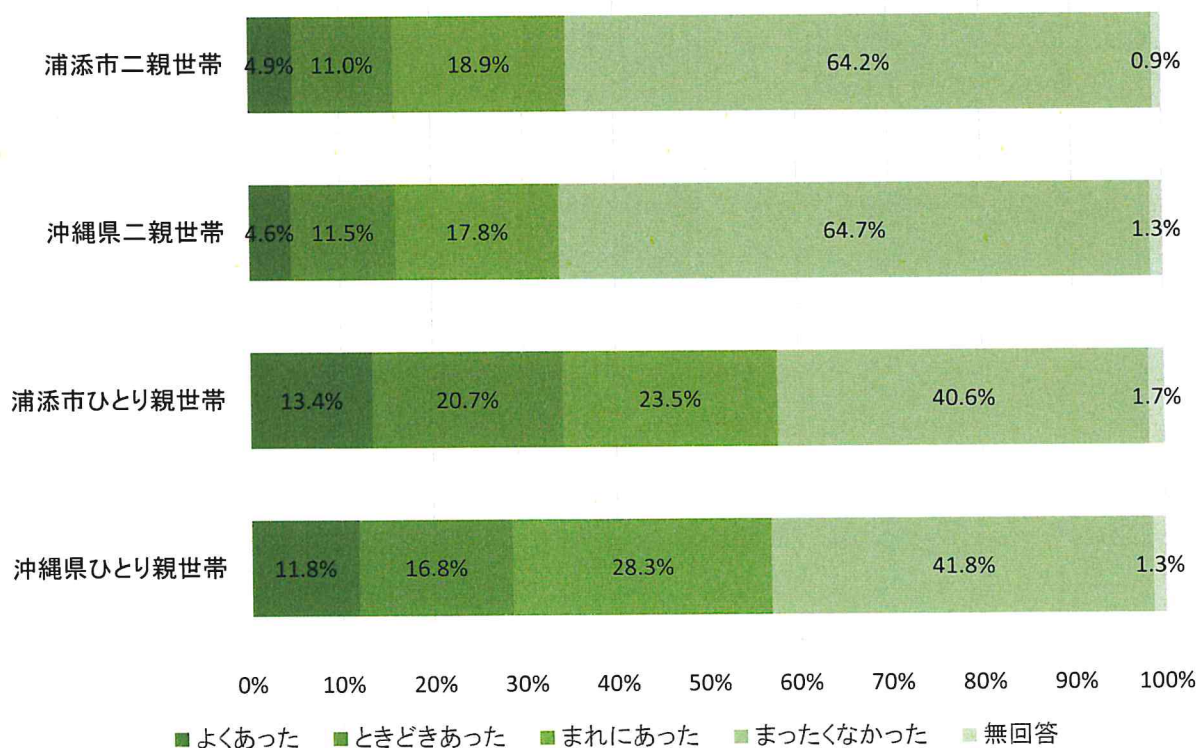
前述のように、図表⑩-5は沖縄県との比較のために、同じ内容の質問がある「平成28年 沖縄子ども調査 調査結果概要版」の結果を基に作成したものです。「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計(衣料困窮の経験)の割合は沖縄子ども調査では二親世帯で**33.9%**、ひとり親世帯で**56.9%**であることが分かります。

食料同様に、沖縄子ども調査との比較を分かりやすくするために、本質問について小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者の回答を足し合わせ、家族類型(二親世帯とひとり親世帯)でそれぞれの割合を見たものが図表⑩-6です。本調査においては、二親世帯で衣料困窮の体験は**34.8%**、ひとり親世帯では**57.6%**となり、沖縄子ども調査と比較して高いことが伺えます。

また、本調査の貧困層の衣料困窮の経験の割合(図表⑩-4)は、沖縄子ども調査のひとり親世帯や本調査のひとり親世帯の割合と比較しても、高く深刻であることが分かります。特に、「よくあった」の割合に注目し、沖縄県子ども調査のひとり親の割合(**11.8%**)、本調査のひとり親世帯の割合(**13.4%**)と比較すると、前述の本調査の各学年の貧困層における割合(**15.0%**、**14.2%**、**18.5%**)の高さが浮かび上がります。

図表⑩-3

衣料を買えなかった経験：家族類型別
(小学1年生・小学5年生・中学2年生の保護者合計)

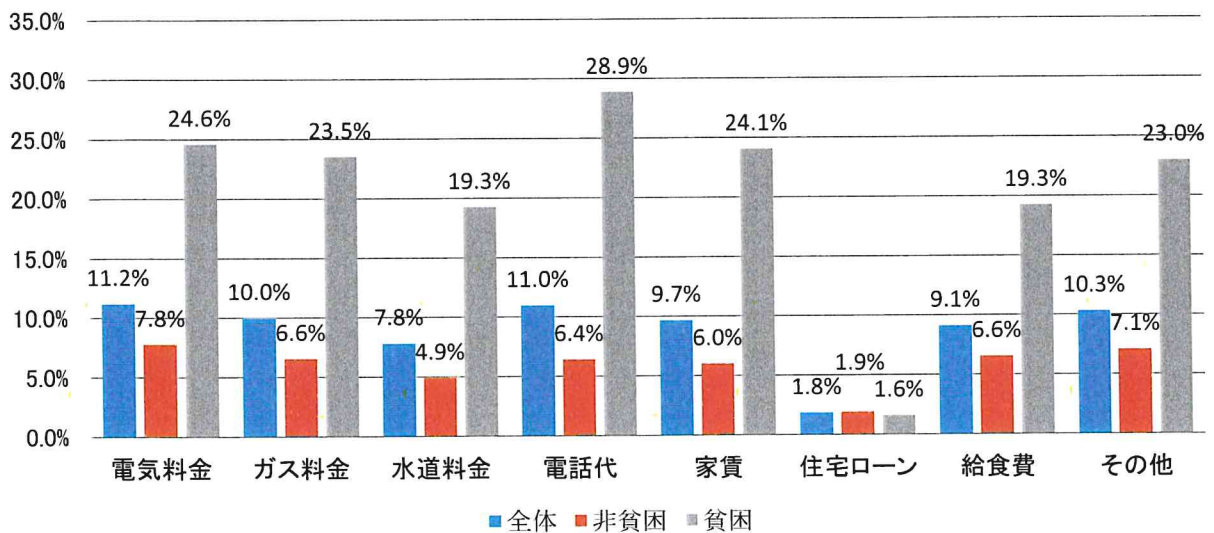


⑩電気代などの滞納経験

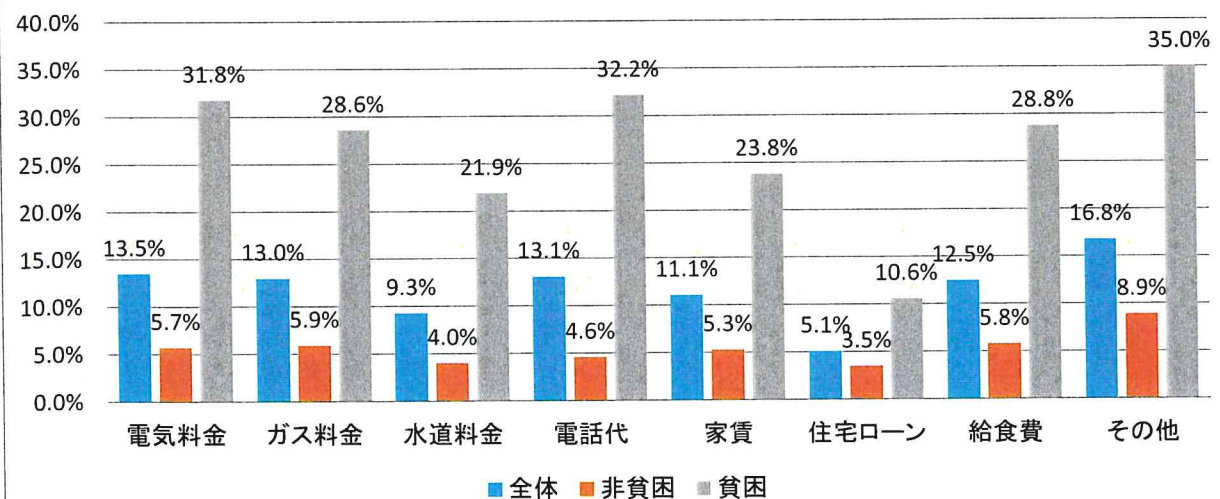
過去1年間に、経済的な理由で電気、ガス、水道料金、電話の料金が未払いとなったことがある世帯、家賃、住宅ローン、給食費の滞納や、その他の債務の返済ができないことがあった世帯の割合を示すものが図表⑩-1から⑩-3です。なお、これらの支出が発生しない世帯もあり、分母から「該当支出がない」、「無回答」を除いた割合を記載しています。全体では、電気10.4～12.5%、ガス10.0～14.3%、水道7.8～12.0%、電話11.0～14.2%、家賃9.7～10.1%、住宅ローン1.8～3.0%、給食費9.1～10.6%、その他債務は10.3～12.5%でした。

また、この割合には経済状況によって差が見られ、貧困層の方が高いことがわかりました。貧困層における割合は、電気22.6～28.7%、ガス23.5～29.9%、水道19.3～23.6%、電話23.9～29.9%、家賃20.0～24.1%、住宅ローン1.6～5.1%、給食費15.9～19.3%、その他22.9～25.2%、とかなり高く、ごく日常的に滞納状況となっていることが推察される数値となっています。

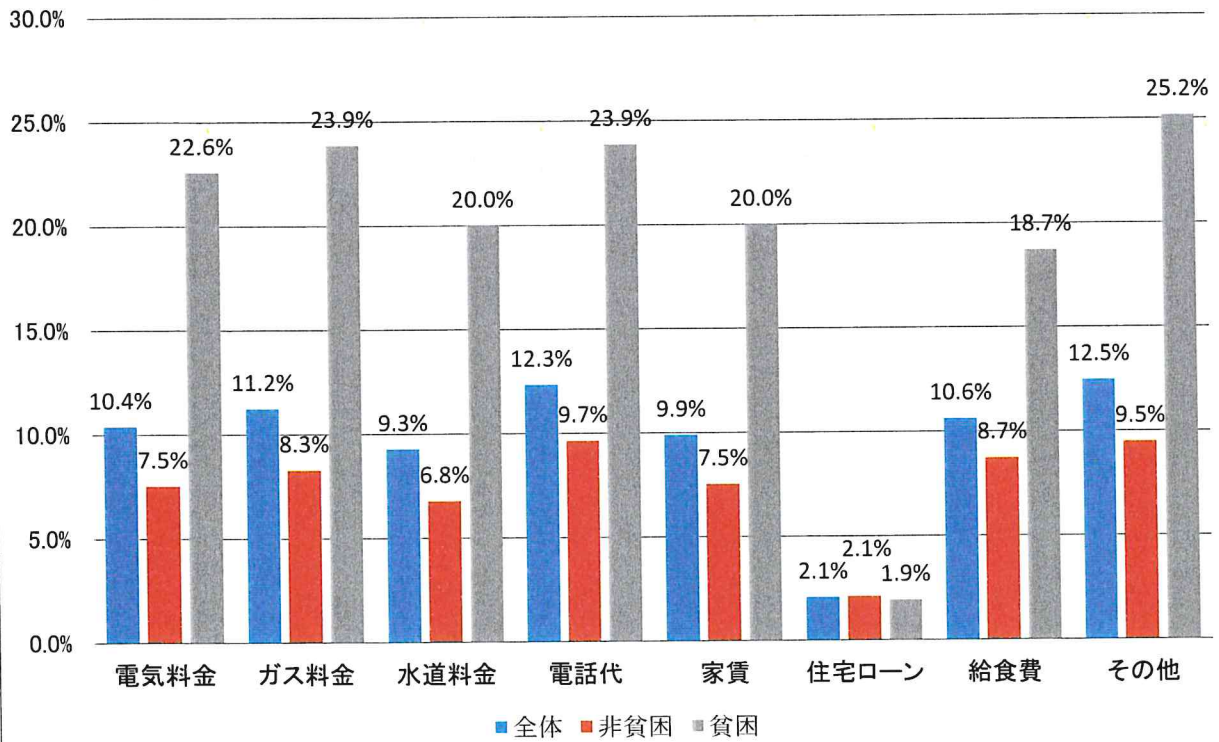
図表⑩-1 過去1年間に料金の滞納経験があった世帯の割合 (%) 浦添市 (小学1年生)



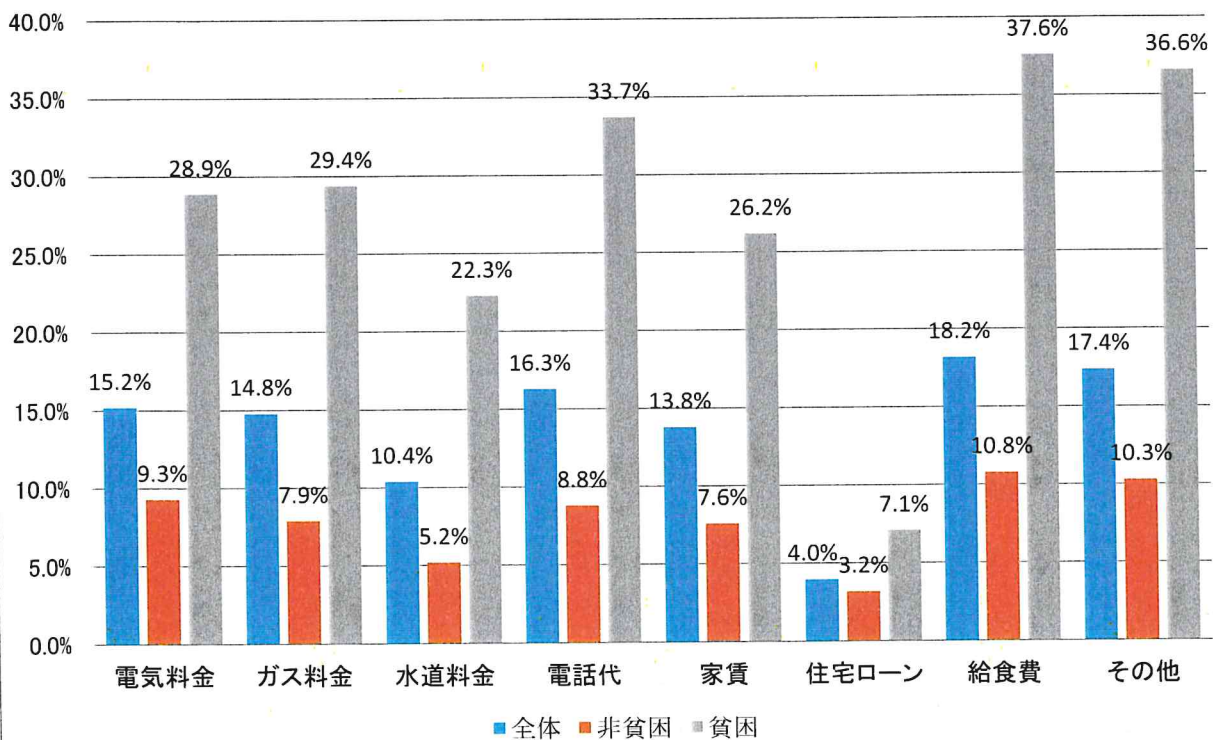
図表⑩-1 過去1年間に料金の滞納経験があった世帯の割合 (%) 沖縄県 (小学1年生)



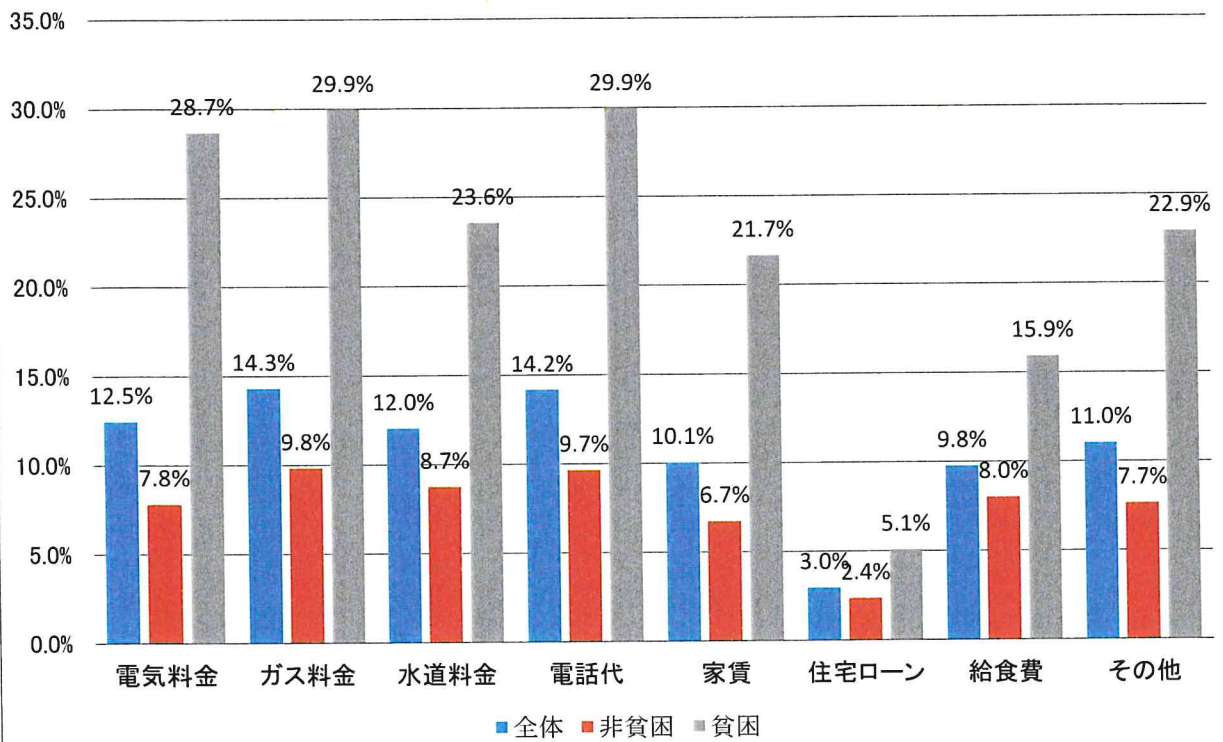
図表①-1 過去1年の間に料金の滞納経験があった世帯の割合 (%) 浦添市 (小学5年生)



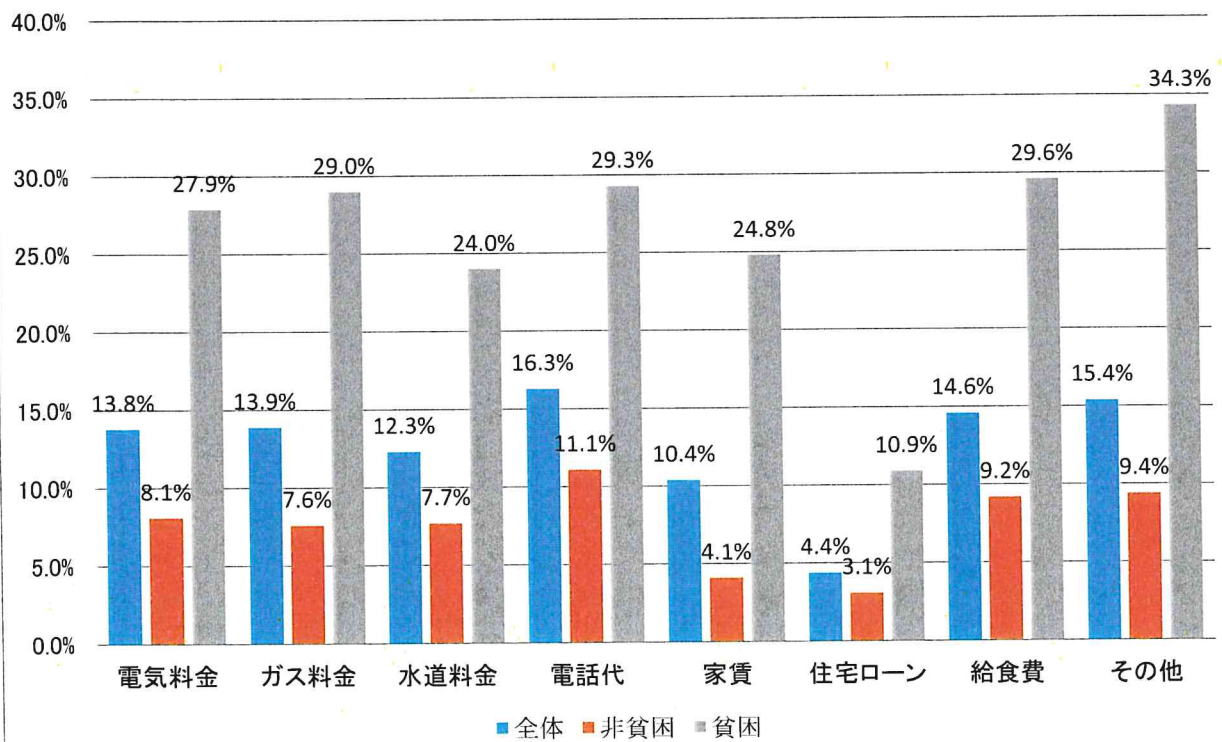
図表①-1 過去1年の間に料金の滞納経験があった世帯の割合 (%) 沖縄県 (小学5年生)



図表⑩-1 過去1年の間に料金の滞納経験があった世帯の割合（％）浦添市（中学2年生）



図表⑩-1 過去1年の間に料金の滞納経験があった世帯の割合（％）沖縄県（中学2年生）



○過去1年の間に料金の滞納経験があった経験（沖縄県比較）

食料や衣料を買えなかった経験と同じように、沖縄子ども調査との比較のために示しているのが図表⑪-4です。なお、この調査では、水道料金と、給食費は尋ねていません。

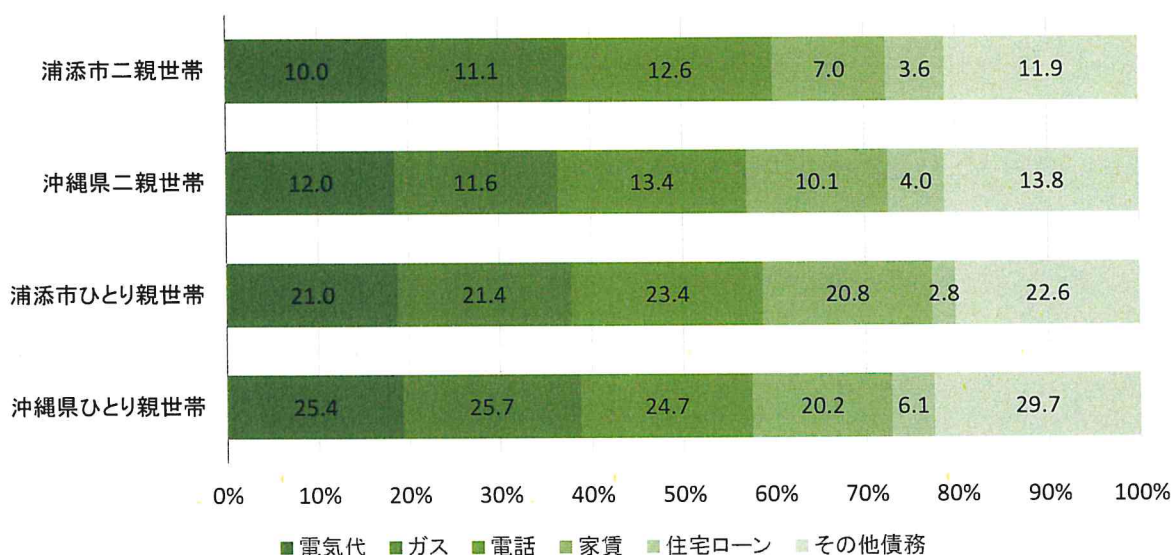
また本調査における小学校1年生、小学5年生、中学2年生の保護者の回答を足し合わせ、家族類型(二世帯とひとり親世帯)でそれぞれの割合を見たものが図表⑪-5です。

沖縄子どもの調査と比べ、本調査では二親世帯でも、ひとり親世帯でも滞納している割合が低いことが伺えます。例えば、電気料金を滞納したことがある経験は、沖縄県子ども調査では、二親世帯で12.0%ですが、本調査では10.0%、ひとり親世帯では25.4%、本調査では21.0%となります。

図表⑪-5

過去1年間の料金滞納経験

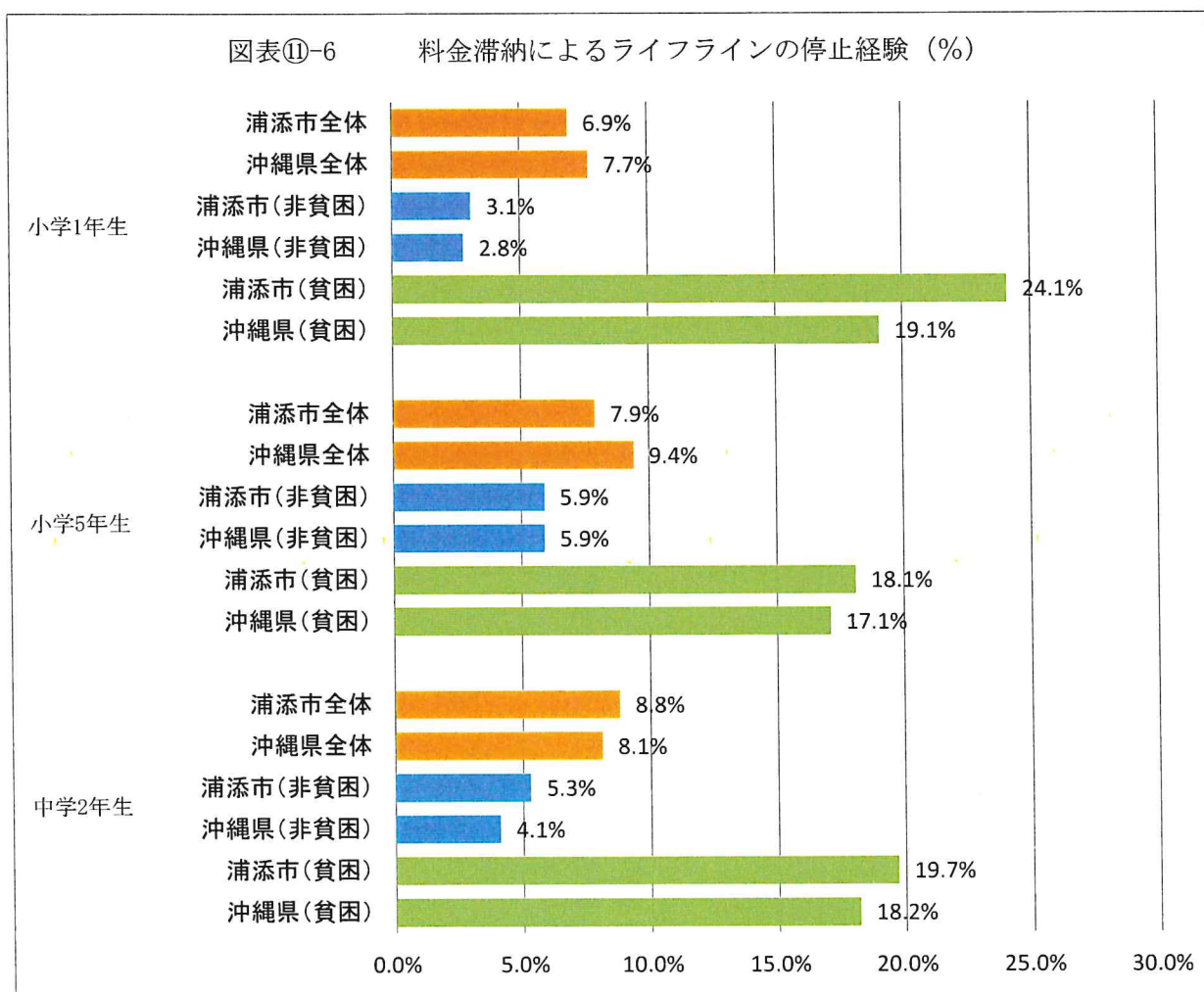
(小学1年生・小学5年生・中学2年生の保護者合計)：家族類型別



○電気、ガス、水道を止められた経験

本調査では、滞納経験と合わせて、「あなたの世帯では、過去10年の間に、経済的な理由による料金滞納のために、電気・ガス・水道を止められたことがありましたか」という質問でライフラインの停止の経験を尋ねています。図表⑪-6が、全体及び経済状況別の結果です。なお、本質問では「該当しない」の選択肢はありません。このため、無回答を全体に含んだ結果を載せています（無回答は4.2～16.7%です。）

全体でも、6.9～8.8%、貧困世帯では18.1～24.1%もの世帯で、電気、ガス、水道が停止された経験をもつことが分かりました。沖縄子ども調査では、全体7.7～9.4%、貧困世帯では18.2～19.1%で、特に小学1年生貧困世帯19.1%、本調査24.1%と差が大きかったです。



⑫医療サービスの受診状況

「過去1年間に医療機関でお子さんを受診させた方がよいが、実際には受診させなかったことがありますか」という問いに対しては、小学1年生の14%、小学5年生の15.3%、中学2年生の17.8%の保護者が「ある」と答えています。その理由を尋ねたところ、多くは「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断した」というものでしたが、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」と23.7~30.8%が答え、「医療機関で自己負担金を支払うことができなかつたため」という方も19.9~23.7%いました。

なお、沖縄子ども調査では、「実際に受診させなかった」ことがあった割合は、小学校1年生で12.8%小学5年生で16.2%、中学2年生で15.4%とで本調査が高い。「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」は小学校1年生20.6%、小学5年生で23.6%、中学2年生で24.4%、「医療機関で自己負担金を支払うことができなかつたため」はそれぞれ、11.6%、16.2%、15.6%であり、本調査の方が高い割合でした。今後、詳細な分析を行う必要があると思います。

図表⑫-1

過去一年の子どもを受診させなかった経験

	小学1年生				小学5年生				中学2年生			
	回答	%	貧困 (%)	非貧困 (%)	回答	%	貧困 (%)	非貧困 (%)	回答	%	貧困 (%)	非貧困 (%)
あり	143	14.0	20.9%	11.7%	139	15.3	21.3%	14.0%	146	17.8	29.3%	14.8%
なし	861	84.1	78.6%	88.0%	748	82.1	76.8%	84.8%	645	78.7	70.7%	84.7%
無回答	20	2.0	0.5%	0.3%	24	2.6	1.9%	1.2%	29	3.5	0.0%	0.5%

図表⑫-2

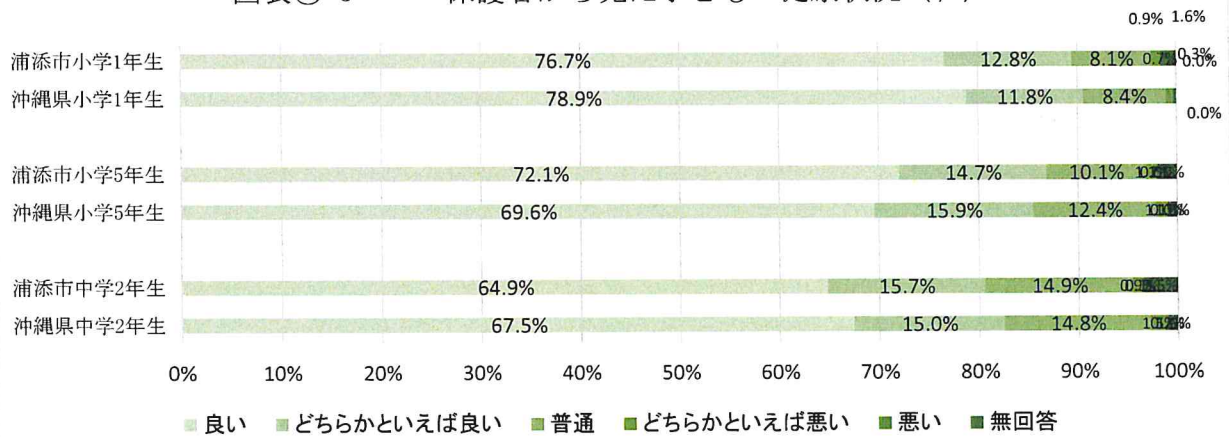
未受診理由

	小学1年生		小学5年生		中学2年生	
	回答	%	回答	%	回答	%
公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかつたため	1	0.7%	2	1.4%	3	2.1%
公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかつたため	33	23.1%	33	23.7%	29	19.9%
子ども本人が（行くのが）嫌だと言つたため	1	0.7%	10	7.2%	15	10.3%
医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であつたため	0	0.0%	4	2.9%	2	1.4%
多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかつたため	35	24.5%	33	23.7%	45	30.8%
最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	63	44.1%	47	33.8%	40	27.4%
その他	6	4.2%	7	5.0%	9	6.2%
無回答	4	2.8%	3	2.2%	3	2.1%
合計	143	100.0%	139	100.0%	146	100.0%

○保護者から見た子どもの健康状況

保護者に子どもの健康状況を伺っています。図⑫-3から分かる通り、多くの保護者は子どもの健康状況を「良い」または「どちらかといえば良い」と答えています。小学1年生で76.7%、小学5年生で72.1%、中学2年生で64.9%でした。

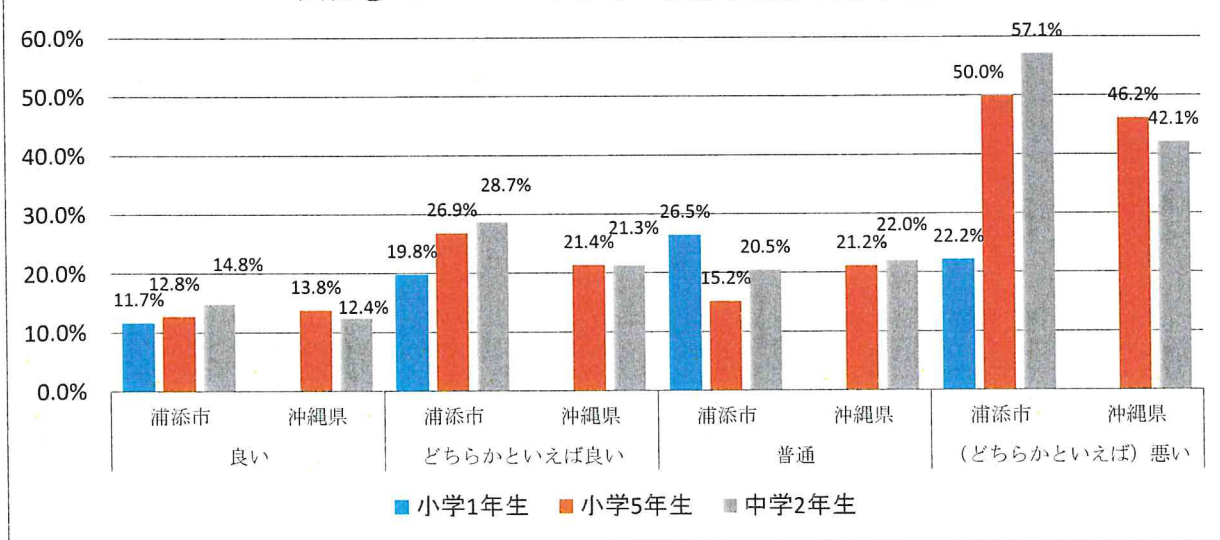
図表⑫-3 保護者から見た子どもの健康状況 (%)



○受診しなかった世帯の子どもの健康状況

受診抑制（未受診経験）があった割合を、子どもの健康状況別に見たものが図⑫-4です。（「悪い」と「どちらかといえば悪い」は度数が少ないため合算。子どもの健康状況が良いほど受診抑制の経験が少なくなっていますが、沖縄子ども調査と比較すると、特に「どちらかといえば悪い」の小学生5年46.2%、中学2年42.1%で、本調査50.0%、57.1%と差が大きくでており、更なる分析が必要です。

図表⑫-4 子どもの健康状況別受診抑制



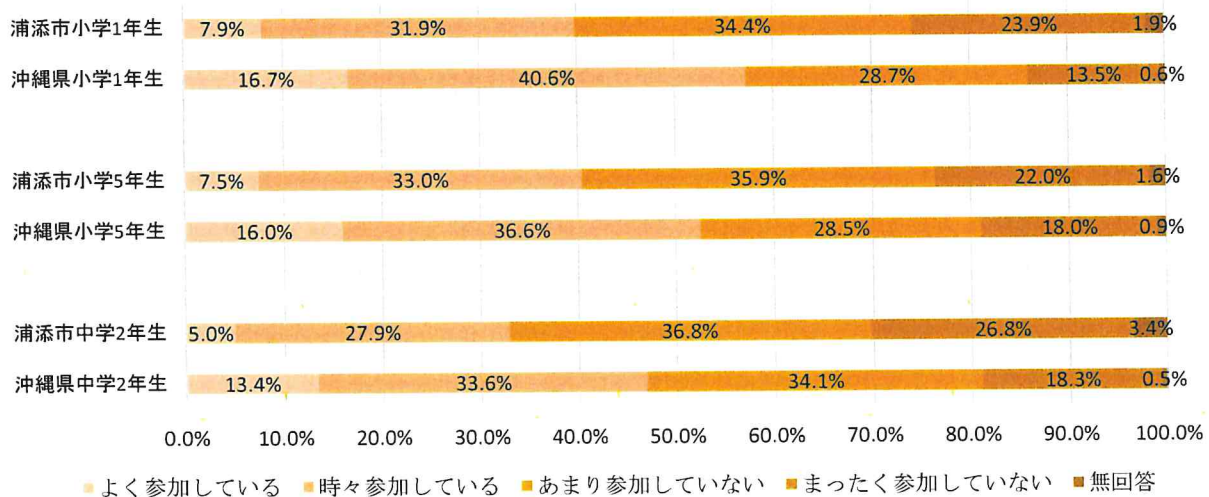
※小学1年生は浦添市のみとなっております。（沖縄県のデータなし）

⑬社会的ネットワーク

本調査では、保護者に地域とのつながりや子育てを相談できる友人や知人の存在など、いわゆる社会的ネットワーク（社会関係資本）について尋ねています。ここでは、「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」「子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人はいますか」「生活上の困難を解決するために、地域の人々はお互いに協力するべきだと思いますか」の3つの質問について分析をしています。

まず、この3つの質問の結果を学年別に見たものが図表⑬-1から⑬-3です。まず、図表⑬-1からは、約4割の保護者が、地域の行事に参加し、悩みを相談できる友人・知人を持ち、「生活上の困難を解決するために、地域の人々はお互いに協力すべきだと思いますか」という考え方に賛成していることが分かります。ただし、前者2つの質問、「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」「子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人はいますか」については、肯定的な回答をする保護者の割合が学年が上がるにつれて少しずつ減る傾向が見えます。一方、3番目の地域の人々の協力に対する積極的な考え方には子どもの学年であまり差がないように見えます。

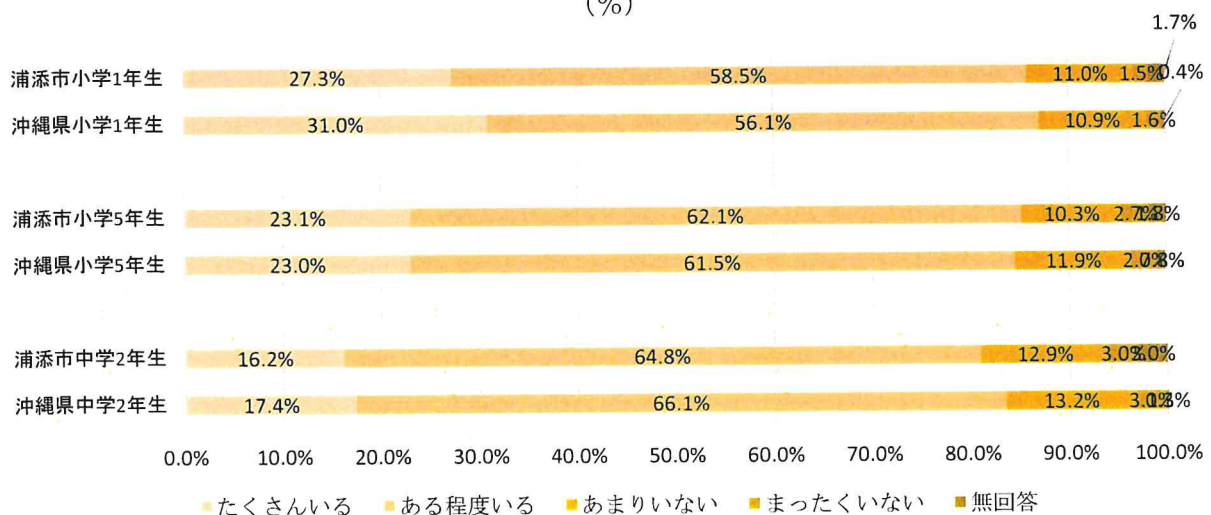
図表⑬-1 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか (%)



0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

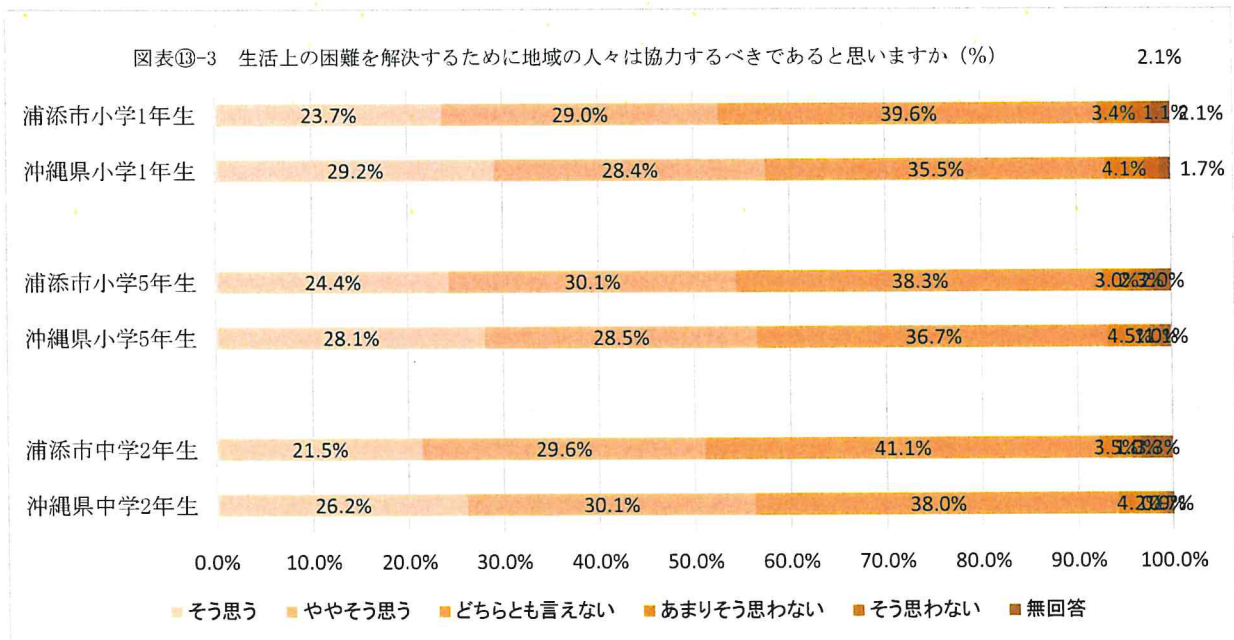
■よく参加している ■時々参加している ■あまり参加していない ■まったく参加していない ■無回答

図表⑬-2 子育てや教育について悩みを相談できる友人知人はいますか (%)



0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

■たくさんいる ■ある程度いる ■あまりいない ■まったくいない ■無回答



経済状況によって、地域との関係など社会的なネットワークはどのように異なるのでしょうか？図表⑬-4から図表⑬-6が貧困層・非貧困層での違いを分析したものです。

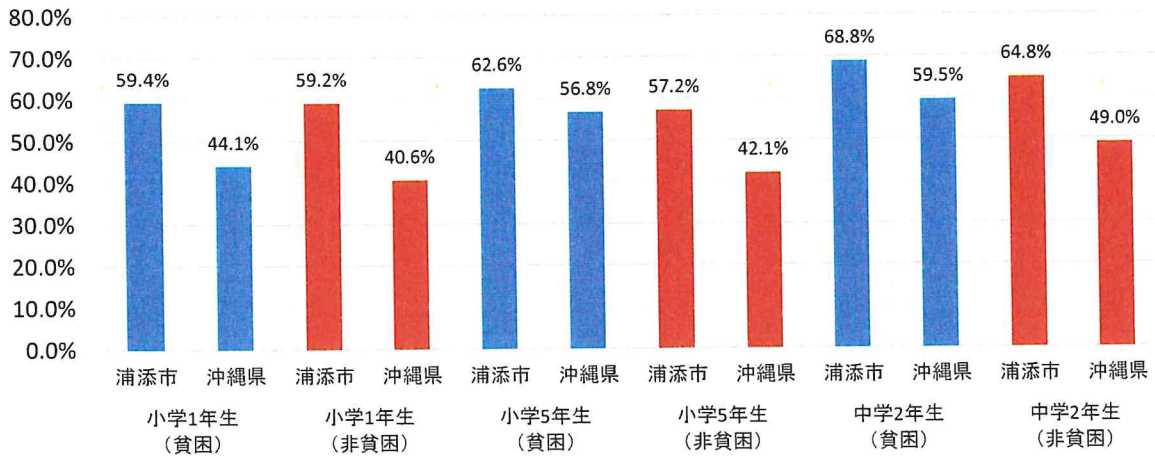
「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」「子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人はいますか」について否定的な回答（「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」については、「あまり参加していない」「まったく参加していない」の合計、「子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人はいますか」については、「あまりいない」「まったくいない」の合計）の割合の違いをみています。「地域の人々はお互いに協力するべきだと思いますか」については、否定的な回答が少ないため、肯定的な回答に注目し、「そう思う」「ややそう思う」の割合を足したものです。

前記「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」の質問で、本調査での経済状況で比較するとあまり差が見られませんが、沖縄子ども調査と比較すると全学年で本調査の割合が高く、経済状況に関係なく差が大きくなっています。例えば、沖縄子ども調査小学5年生で貧困層56.8%、非貧困層42.1%、本調査では貧困層62.6%、非貧困層57.2%でした。

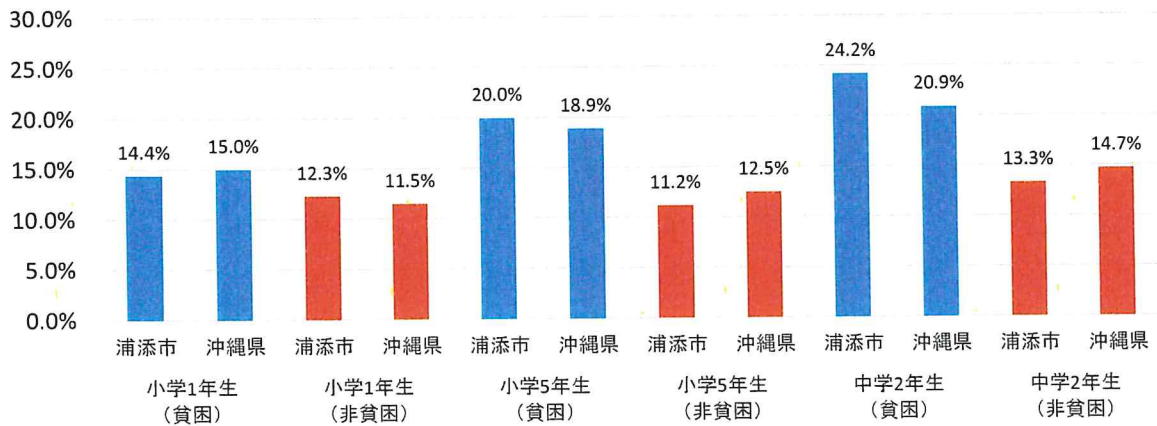
前記「子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人はいますか」の質問については、小学1年生の保護者では経済状況であまり差がみられません。小学5年生、中学2年生で差が大きく生じていることを確認できました。沖縄子ども調査との比較では、ほとんど差が見られませんでした。本調査中学2年生貧困層24.2%で沖縄子ども調査貧困層20.9%と差がでています。

また、「地域の人々はお互いに協力するべきだと思いますか」の質問については、小学1年生、小学5年生では、差があまり見られませんが、中学2年生では、貧困層(43.3%)と非貧困層(53.9%)で差10.6%で大きくでています。沖縄子ども調査と比較でも、全体的に肯定的な回答の割合が低くなっています。

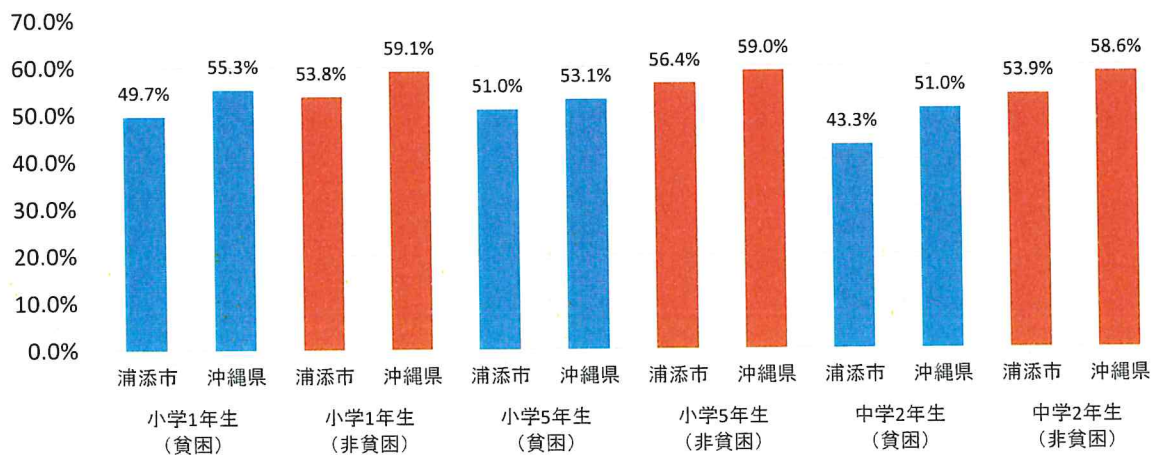
図表⑬-4 地域行事への参加：「あまり参加していない」「参加していない」割合



図表⑬-5 子育てのことで相談できる知人・友人：「あまりいない」「まったくいない」割合



図表⑬-6 地域の人々は協力するべき：「そう思う」「ややそう思う」割合



⑭子ども期の経済状況と現在の困窮経験

○子ども期の経済状況

保護者自身の15歳時点での主観的な生活感を「あなたが15歳の頃のご家族の暮らしむきはどうだったと感じますか」という問いで尋ねています。図表⑭-1が、それぞれの学年の保護者が回答した割合です。どの学年も、約42.3～44.1%の保護者が「普通」と答え最も多くをしていますが、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた生活が苦しかったと感じていた保護者は、32.5%（小学1年）、34.1%（小学5年生）、34.8%（中学2年生）いました。

図表⑭-1 保護者の15歳時の生活状況

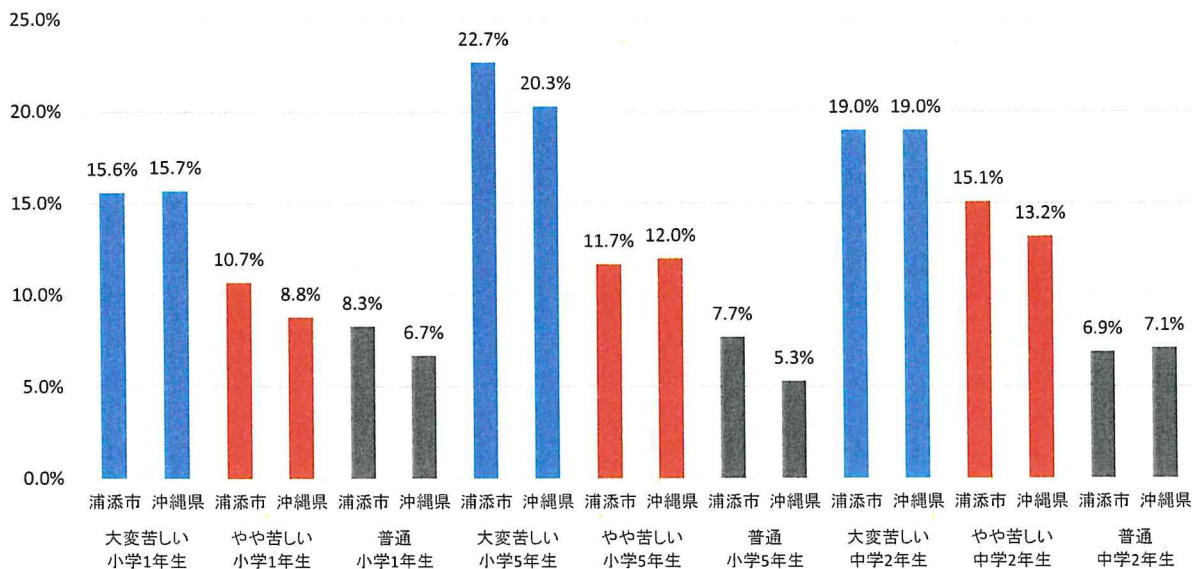
	小学1年生の保護者		小学5年生の保護者		中学2年生の保護者	
	回答	%	回答	%	回答	%
大変苦しい	90	8.8%	97	10.6%	100	12.2%
やや苦しい	243	23.7%	214	23.5%	185	22.6%
普通	446	43.6%	402	44.1%	347	42.3%
ややゆとりがある	164	16.0%	144	15.8%	123	15.0%
大変ゆとりがある	62	6.1%	37	4.1%	34	4.1%
無回答	19	1.9%	17	1.9%	31	3.8%
合計	1,024	100.0%	911	100.0%	820	100.0%

○15歳時と現在の状況

図表⑭-2は、15歳時の生活状況が「大変苦しい」「やや苦しい」「普通」であった保護者が、現在の生活状況について「大変苦しい」と感じている割合を示すものです。

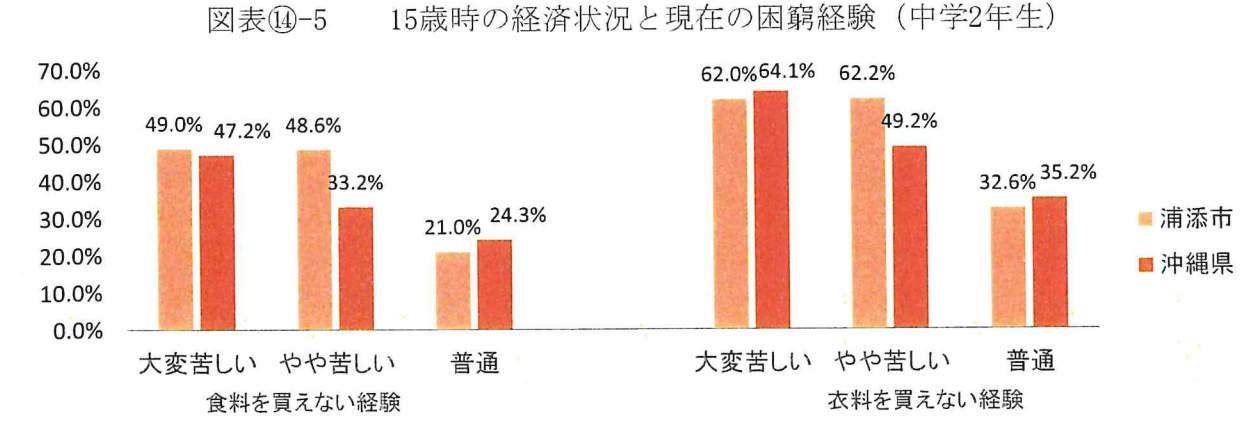
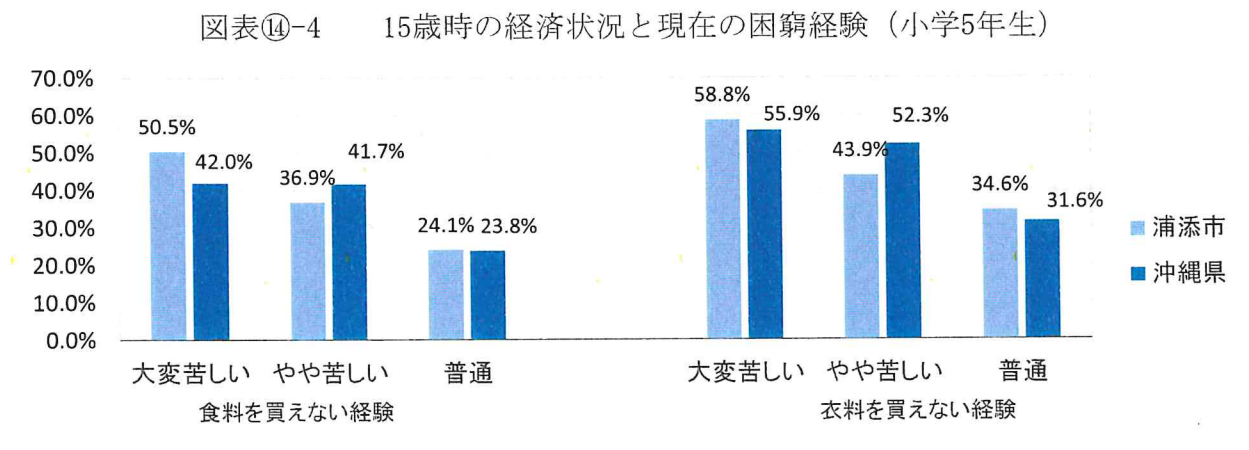
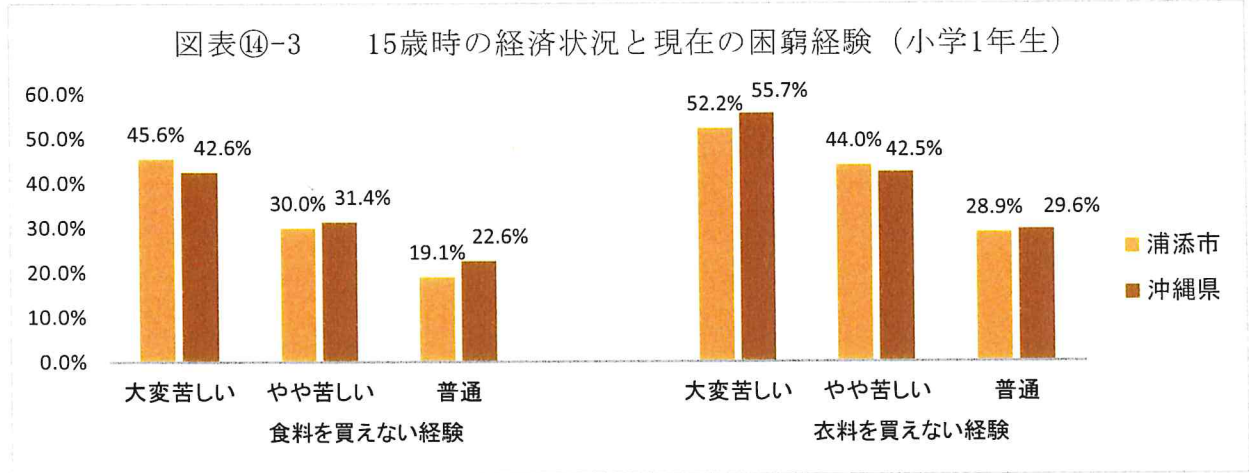
全般的に見て、学年が上がるごとに「大変苦しい」割合が増える傾向が見えますが、どの学年においても、15歳時の状況が「普通」であった保護者に比べ、「大変苦しい」「やや苦しい」状況であった保護者は、現在の生活状況を「大変苦しい」と感じている割合が高いことが分かります。

図表⑭-2 15歳時の生活状況と現在の暮らしの状況が「大変苦しい」割合



○15歳時の経済状況と現在の困窮経験

15歳時の生活状況の違いごとに、現在の暮らしの状況が食料や衣料を買えなかった経験の有無を分析したものが図表⑭-3から⑭-5です。図表⑭-1と同じように、15歳時の生活が「大変苦しい」、「やや苦しい」状況にあった方は、「普通」であった方と比べ、食料や衣料を買えなかった割合が高くなっていることが分かります。

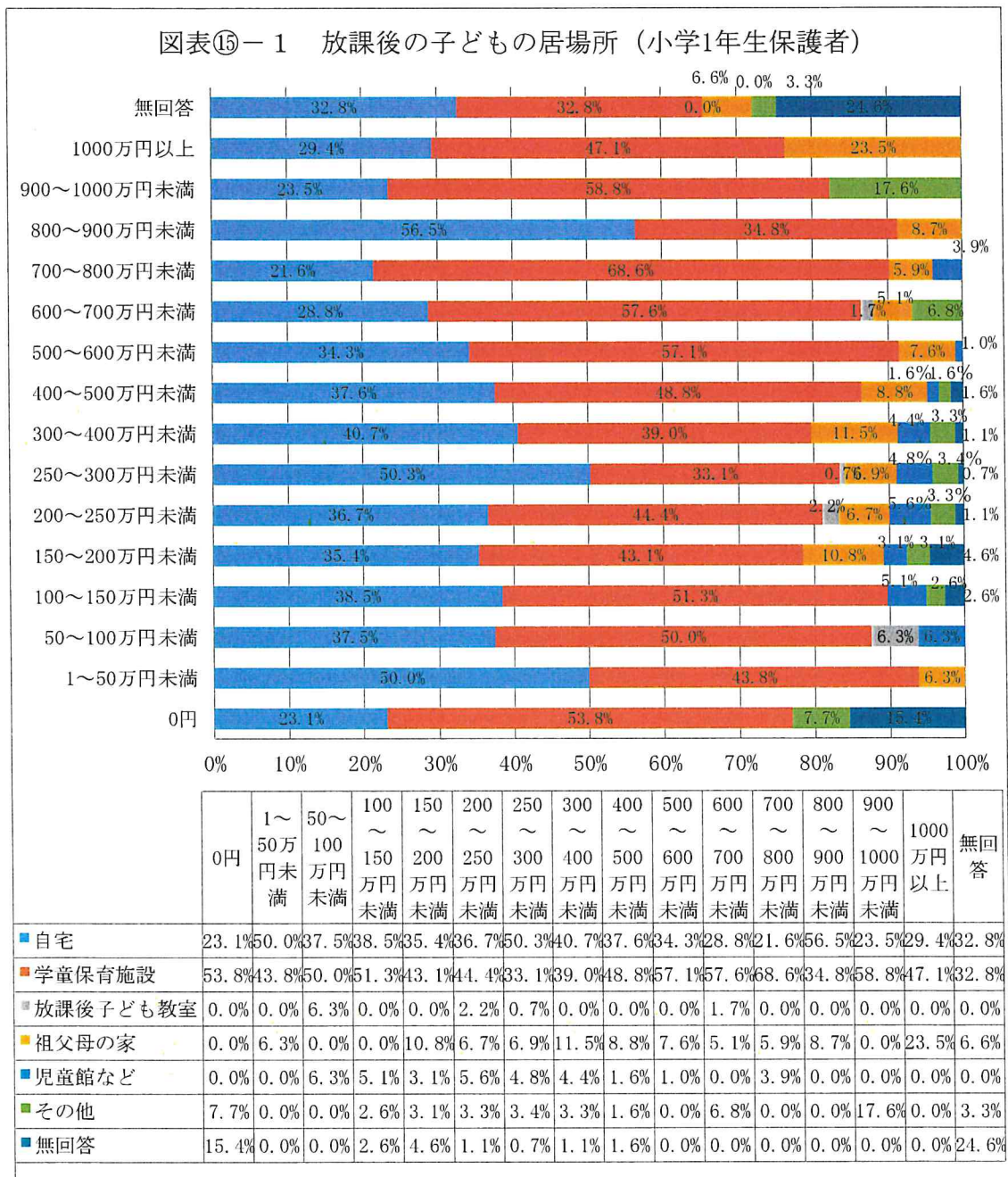


⑮子どもの放課後の居場所

○所得階層別 放課後の居場所

世帯収入階層別、自宅と放課後児童クラブ（学童保育施設）とで利用率を調べてみると、年収に関係なく、ほとんどの所得階層でも放課後児童クラブ（学童保育施設）の利用率が高いことが見られます。沖縄子ども調査との比較で、所得階層別に放課後児童クラブ利用率をみると、沖縄子ども調査で平均37.6%で、本調査では48.8%とその差11.2%でかなり大きな差がでている。（統計値省略）

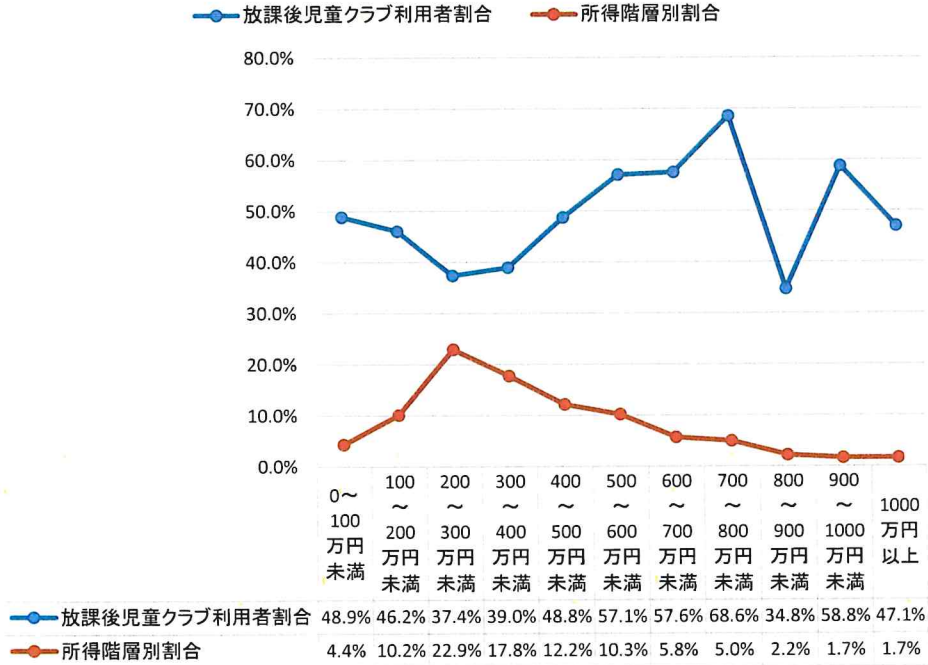
図表⑮-1 放課後の子どもの居場所（小学1年生保護者）



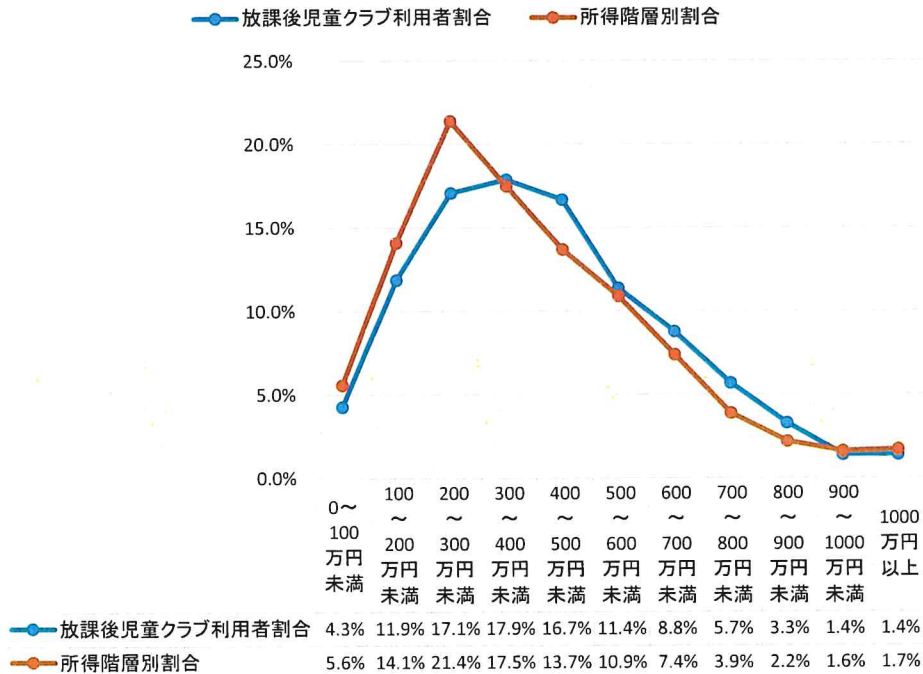
○所得階層別 放課後児童クラブ利用者割合

図表⑮-2は小学1年生の家庭における世帯所得分布と放課後児童クラブ利用者状況の分布を比較したものです。放課後児童クラブの利用率が所得分布に比べ、それぞれ高く、世帯年収に関係なく、利用割合が所得分布よりも高くなっていることが見られます。沖縄子ども調査(図表⑮-3)では、300万円未満では、放課後児童クラブの利用率が所得分布に比べそれぞれ低いことに対し、400万円以上の世帯年収では、利用割合が所得分布より高いことと比較すると、本調査では、まったく異なった所得階層別 放課後児童クラブ利用割合となり、今後、詳細な分析を行う必要があると思います。

図表⑮-2 世帯所得別放課後児童クラブ利用状況比較(小1保護者)



図表⑮-3 図表⑮-2 沖縄子ども調査 世帯所得別放課後児童クラブ利用状況比較(小1保護者)



浦添市子ども調査に関する考察

子ども貧困解消ネットワーク共同代表
沖縄大学 山内優子

1. 市町村における調査実施の意義

平成 28 年 3 月、沖縄県が都道府県では初めてともいえる「沖縄子ども調査」を実施し、県内の子どもの相対的貧困率を算出し、日本の子どもの相対的貧困率 16.3%を大幅に超える 29.9%という推計結果を公表した。また同時に、子育て世帯の保護者と子どもを対象としたアンケート調査を実施し、その結果沖縄県の子育て世帯がいかに厳しい生活実態にあるかが可視化され、県民に大きな衝撃を与えた。

わが国においては、2013 年 6 月 19 日「子どもの貧困対策の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 64 号）が成立し、翌 2014 年 1 月 17 日に施行されているが、この法律において、法第 4 条「地方公共団体の責務」として、地方公共団体は、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有するとうたっている。よって地域の実情を把握するための子ども調査は、貧困対策を進める上での第一歩となる。

本県においては、平成 28 年 4 月より内閣府沖縄子供の貧困緊急対策事業として 10 億の予算が確保され、101 名の子どもの貧困対策支援員配置と 120 カ所の子どもの居場所が設置されている（平成 28 年 12 月 1 日現在）。また県においても平成 28 年 3 月に「沖縄県子供の貧困対策計画」が策定され、30 億円の子どもの貧困対策推進基金が創設され、さまざまな子どもの貧困対策事業が開始されているところである。

このような時期に地域の実情を把握するために、本調査が実施されたことは大きな意義があり、また本調査は「沖縄子ども調査」を元に県調査との比較が可能なように設問が設定され、浦添市の公立小学校 11 校、中学校 5 校市内全校で実施されている。よって地域の実情のみでなく、県調査との比較により本市の特徴が把握でき、何を優先すべきか、またより詳細に解明すべき点は何かなど今後本市の子どもの貧困対策事業を進めていく上で、有用な基礎データとなり得るのではないかと期待される。

2. 県調査との相違比較

本調査は、沖縄子ども調査を参考に調査項目が設定され実施されているため、県調査結果と比較しながら、特に相違があるものについて考察を行いたい。調査内容、データ分析等については、県調査と同じであるが、相対的貧困率については、基礎データが得られず本調査では出していない。又、個々のデータについても若干相違があるものについては、その旨記述されているので参考にされたい。

(1) 世帯類型・所得階層 (P 6)

・世帯類型については、小学1年生と中学2年生において母子世帯の割合が、県調査より高く、県調査は小学1年生が9.4%、中学2年生が14.0%であるのに対し、本調査においては、小学1年生が10.6%、中学2年生が15.6%とそれぞれ若干高くなっている。又その他+不明世帯が各学年とも県調査に比べ高く、特に小学1年生、中学2年生においては、3倍以上の数字を示し、全体でも2倍以上である。その他+不明世帯の中には、回答者のプロフィールより祖父母世帯が含まれることは想定されるが、それ以外についてはどのような世帯が含まれるのか、気になるところである。

・所得階層の貧困率については、本調査は県調査と算出方法が異なるため比較はできないが、世帯類型等からすると、貧困率が最も高いとされる母子世帯の割合が、本調査は県調査を上回り、また父母等を含まない「その他+不明世帯」の多さからすると、貧困率は県調査同様か、またはそれを上回るものと推定される。

(2) 将来の夢について (P 7)

・「将来の夢をもっていますか」に対して、小学5年生において夢をもっていると答えたのは84.5%で県調査84.1%と大差なく、男女間の差についても、男子よりも女子がやや高いという傾向は変わらない。しかし、中学2年生においては67.2%と県調査71.5%を下回り、男女とも県調査より低く、特に女子は5%も低くなっている。

・本調査では県調査にない性別不明の欄があり、性別未記入の児童が小学5年生で4.0% (48名)、中学2年生で6.8% (83名) いる。性別不明の児童が「夢をもっている」と回答しているのは、小学5年生が56.3%、中学2年生は47. %で、いずれも男女別の回答よりも著しく低く、中学2年生においては半数以下である。性別未記入とは、どちらの性にも属したくないという意思表示なのか、それとも本音を出しやすいくということによって不明にしたのか、または単なる記入忘

れなのか、いずれにしても性別不明児童の中に、将来の夢を持たずにいる子どもが半数近くもいるということは、看過できない。

・年齢が上がるにつれて将来の夢がもてない、特に中学2年の段階において夢が持てないということは、中3の進路決定時に大きな影響を及ぼすものと推察される。「夢がもてない」理由が「具体的に何も思い浮かばないから」は、小学5年生 38.6%、中学2年生 63.2%でいずれも県調査小学5年生 59.4%、中学2年生 67.2%よりも低くなっている。しかし、中学2年生が「夢がかなうのが難しいと思うから」の回答が 11.1%で県調査 7.8%を上回り、これより学年が上がることにより、夢を諦めざるを得ない状況に置かれているというのが伺える。

(3) 物品の所有状況 (P 8)

・本調査においても小学5年生、中学2年生とも、県調査同様専用の勉強机やゲーム機は8割程度所持している。又所持していないが欲しいものについては、小学5年生においては、携帯音楽プレーヤーや携帯電話等県調査と大差ないが、中学2年生においては、自転車 25.7%が最も高く、県調査 20.4%を上回り、行動範囲の広がりと共に、交通の移動手段としての必要性が伺われる。

(4) 友だちとの関係 (P 9～P 10)

・小学5年生においては、本調査でも県調査同様約9割の子どもが友だちとたくさん遊び、仲良くしていると答えている。一方、「友だちから好かれている」については、県調査では 66.7%が肯定的な答えをしているが、本調査は 60.7%で県調査より低い。否定的な答えは 35.2%で、県調査 31.2%を上回る。また、無回答は 4.1%で、県調査 2.1%の約2倍である。表面的には仲良く遊んでいるが、心から楽しく遊んでいるのか気になる数字である。このことは、次の項目からも推察される。「自分が友だちと比べて違うと感じる」について、県調査では肯定的な答えと否定的な答えが半々であるが、本調査においては「そう思う」という肯定的な答えが 56.5%と「そう思わない」という否定的な答え 41.1%より高い。

・中学2年生においては、本調査と県調査とも小学2年生に比べ「いつもそう思う」の傾向が、それぞれ1項目を除き減少するという傾向はほぼ同じである。その1項目とは、県調査においては、「自分が友だちと比べて違うと感じる」の項目であり、本調査では、「友だちから好かれている」の項目である。特に本調査において、「友だちから好かれている」は、69.7%が肯定的に答えており、小学2年生より 19%も多い。実際に好かれているかいないかは別として、思春期特有の他者を意識した、よく思われたいとの願望が表れているとも推察される。

(5) 食事について (P11～P14)

・平日と休日の朝食・夕食を誰と食べるのか、または食べないのかという調査項目は、子どもの貧困状態を最も端的に示す項目ではないかと思われる。

・小学5年生の平日の朝食では、親と一緒に食べる割合は33.6%で県調査37.2%より低く、ひとりで食べる孤食の割合は15.2%で県調査10.8%よりも高い。また、朝食は食べない児童も1.4% (県調査1.3%) いる。

夕食については、親と食べる割合は増加しているが、44.3%で県調査46.4%より低く、半数以下である。また、ひとりで食べる割合は、4.5%で県調査2.1%の2倍である。夕食を食べない児童が0.3% (県調査0.1%) いるということがわかる。

・小学5年生の休日については、朝食を親と食べる割合は35.0%で平日よりも若干増えているが、県調査37.0%よりは低い。また、孤食の割合は16.6%で平日よりも増え、県調査14.3%よりやや多い。一方、朝食を食べないは4.3%で平日よりも3%近く増え、県調査3.2%よりやや高い。

夕食については、親と食べる割合は47.0%で平日よりも3%弱増えているが、県調査48.6%より若干低い。また、孤食の割合は2.5%で平日より2%減少しているが、県調査1.8%よりは若干高い。休日の夕食を食べない児童は、平日と同じ0.3%で、県調査0.1%より若干高いが、小学生で平日、休日とも夕食を食べない児童がいるということは、看過できない状況ではないかと推察される。

・中学2年生の平日の朝食においては、親と食べる割合は28.3%で、県調査31.6%より低く、小学5年生に比べて6.7%も低くなっている。また、孤食の割合も26.7%と増え、県調査23.2%よりも高い。朝食を食べない割合は、3.8%で小学5年生に比べ若干高くなっており、県調査2.6%よりも高い。夕食については、親と食べる割合は43.7%で朝食よりも15.4%増加しているが、県調査48.2%よりは低い。また、孤食の割合が13.6%で、県調査6.9%の2倍近くあり、小学5年生と比較すると3倍に増えている。夕食を食べない児童も0.5%で、県調査0.2%よりも高く、小学5年生よりも若干増えている。

・中学2年生の休日について、朝食を親と食べる割合は30.2%で平日より若干増えているが、県調査32.4%よりは低い。また、孤食の割合は31.3%で平日より4.6%増え、県調査26.5%より高い。朝食を食べない割合は本調査7.2%で、県調査6.0%より高い。孤食、朝食を食べない割合とも小学5年生と比較すると2倍近い増加を示している。夕食については、親と食べる割合は47.6%で朝食よりも大幅に増えているが、県調査48.2%に比べると若干低い。孤食の割合は、6.2%で朝食に比較し大幅に減少しているが、県調査4.2%よりは高い。夕食を食べない児童は0.4%で、県調査0.5%とほぼ同じ割合である。

・食事の調査について、本調査結果を県調査と比較すると、小学5年生、中学2年生両学年とも平日、休日において、親と食事を食べる割合は低く、反面一人で食べる孤食の割合は高い。また食事を食べないという割合も県調査と比較して高いという結果が出ている。平日朝食をとらずに学校へ行く児童や夕食を1人で食べる児童、または夕食を食べない児童もおり、休日になると朝食をとらない児童は更に増え、学校給食がない中で、果たして昼食はとれるのか、危惧される場所である。更に平日、休日において夕食を食べない児童を実数でみると、小学生12名、中学生17名いるという数字が出されており、空腹を抱えたままのように夜を過ごすのか、家族団らんの一番の機会を奪われ、生存権を保障されていない子どもがいるという状況は看過できず、子どもの貧困の最たるものではないかと推察される。

(6) 子どもの自己肯定感 (P19～P24)

・小学5年生について、「頑張れば、報われる」79.2%、「自分は家族に大切にされている」84.9%、「自分の将来が楽しみだ」79.3%と、それぞれ高い割合で肯定的な回答をしているが、「自分は価値がある人間だと思う」49.5%、「不安に感じることはない」57.4%、「孤独を感じることはない」62.3%で3割から4割弱の子どもが否定的に答えている。特に、「孤独を感じることはない」については、「そうは思わない」は県調査17.8%に対し本調査は12.9%と低くなっている。本調査より、どこで孤独を感じているかは定かでないが、「家族に大切にされているという」項目は、84.9%が「そう思う」と高い数字を示していることより、友だち関係のなかでの孤独感ではないかと推察される。

・中学2年生においては、すべての項目で小学2年生より自己肯定感は低くなり、特に差異が著しいのは「自分の将来が楽しみだ」の項目で、小学5年生で60.6%だったのが、31.8%と半減し、県調査35.3%よりも低くなっている。年齢的に客観的な思考、現実的な対応が可能となってきた結果ともとれるが、この年齢で将来に向けての夢や希望が3割弱しか持てないというのは淋しい限りである。

・本調査独自の「性別不明」の児童については、小学5年生、中学2年生ともほぼ全ての項目において、男女より自己肯定感は低くなっている。中でも小学5年生においては、「孤独を感じることはない」の項目において、男63.3%女63.0%と6割が肯定的な回答をしているが、性別不明児童については、肯定的回答は41.6%と4割しかいない。中学2年生では、「頑張ればむくわれる」の肯定的回答は、男71.7%、女70.8%といずれも7割を超えているが、性別不明は45.8%と半数以下となっている。性別を記入しないことにより、より自己の本音を出しやすいということなのか、男女より自己肯定感の低さが気になるとこ

ろである。

(7) 就学援助の利用 (P 25～P 28)

・就学援助制度の利用については、小学1年生 16.8%、小学5年生 18.2%、中学2年生 21.7%と学年が上がるに従い利用率は上昇し、県調査と比較してもどの学年においても県調査より高い。これより就学援助制度についての周知度はある程度高いと思われる。本調査における貧困層は全世帯の 19%～22%であり、小学1年生の利用率は貧困層の割合より若干低いが、小学5年生、中学2年生においては、貧困層をほぼカバーしている。ただ、「就学援助制度が学校にかかる経費をカバーできているか」については、小学生においては6割以上がカバーできていると答えているが、中学生になると56.1%と減少し、就学援助制度だけでは厳しい状況が伺える。県調査と比較すると、いずれの学年においても1割程度低くなっている。

・就学援助制度を知らなかったとする保護者の割合は、全ての学年において、本調査は県調査より低く、これからも本制度の周知度は高いということがわかる。一方、「必要であるが周囲の目が気になり申請しなかった」という項目については、小学1年生 1.6%、小学5年生 6.1%、中学2年生は 6.8%と学年が上がるに従い高くなっている。県調査は小学1年 (2.1%)、小学5年 (3.2%)、中学2年 (1.7%) であり、本調査では小学5年生が2倍、中学2年生が3倍以上県調査より高い。これより、就学援助の利用率は県調査より高くなっているものの、まだ必要であるが周囲の目を気にして申請しなかった児童がいるということは、真に制度の趣旨が十分理解されているとは言い難い。

(8) 家計と子どもへの支出 (P 29～P 35)

・本調査における保護者の家計の状況は、「赤字である」(借金をしているか貯蓄を切り崩している)世帯が、小学1年生 30.3% (県調査 25.9%)、小学5年生 31.9% (県調査 28.3%)、中学2年生 35.1% (県調査 33.6%) で、全ての学年が3割以上で、県調査を上回っている。

・貧困層においては、小学1年生 54.0% (県調査 44.1%)、小学5年生 52.3% (県調査 45.4%) と5割以上になり、両学年とも県調査より高く、特に小学1年生においては、県調査より約10%も高い。中学2年生においては、47.7%で小学1年、5年の両学年より低くなっており、県調査 50.7%に比べても若干低くなっている。いずれにしても、県調査同様、子どもがいる世帯の経済状況の厳しさが伺える。

(9) 困窮経験 (P 36～P 44)

・食料を買えなかった経験については、県調査と同じく本調査においても貧困層ではどの学年も50%以上の保護者が食料の困窮経験をしている。また、家族類型別では、二親世帯24.9%よりひとり親世帯は45.2%で20%余高く、県調査の二親世帯(24.6%)、ひとり親世帯(43.2%)と比較しても高い。特に「よくあった」については、県調査5.2%、本調査7.8%で、より深刻なひとり親世帯の実態が浮かび上がる。

・衣料を買えなかった経験は、食料を買えなかった経験より全ての学年で1割程度高くなっており、これより衣料より食料を優先していることがわかる。特に貧困層においては、小学1年生で63.1%(県調査60.7%)、小学5年生で68.4%(県調査59.9%)、中学2年生で71.4%(県調査68.3%)と学年が上がるに従い高くなり、全ての学年で県調査を上回っている。家族類型別では、本調査においても二親世帯(34.8%)よりひとり親世帯(57.6%)の衣料困窮経験の割合は高く、いずれも若干県調査を上回っていた。

・電気、ガス、水道等ライフラインの停止経験について、本調査の貧困世帯の停止経験は、小学1年生24.1%(県調査19.1%)、小学5年生18.1%(県調査17.1%)、中学2年生19.7%(18.2%)と全ての学年において、県調査よりも高く、特に小学1年生については、どの学年よりも高く約4分の1の世帯がライフラインの停止を経験し、深刻である。

(10) 医療サービスの受診状況(P45~P46)

・医療サービスについて、貧困層の「未受診経験あり」は、小学1年生で20.9%(県調査16.6%)、小学5年生21.3%(県調査20.5%)、中学2年生29.3%(県調査17.9%)で、いずれの学年も県調査より高く、中学2年生においては3割近くが未受診経験を持つ。

・未受診の理由であるが、深刻なのは公的医療保険に加入していないために医療費の支払いが出来ないという世帯であるが、本調査において全学年で4.2%(6名)おり、県調査(3.8%)より若干高い。また、公的医療保険に加入しているが、自己負担分を支払うことができなかったという世帯は、本調査では小学1年生23.1%(県調査11.6%)、小学5年生23.7%(県調査16.2%)、中学3年生19.9%(県調査15.6%)で、全学年とも県調査より高く、特に小学1年生は県調査の2倍以上であり、深刻さが伺える。「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」も親の都合で受診できなかったということであり、本調査で小学1年生24.5%(県調査20.6%)、小学5年生23.7%(県調査23.6%)、中学2年生30.8%(県調査24.4%)でいずれの学年も県調査を上回り、特に中学2年生については、3割もいる。

・受診しなかった世帯の子どもの健康状況であるが、本調査において小学5年

生 50.0% (県調査 46.2%)、中学 2 年生 57.0% (県調査 42.1%) がどちらかといえば悪いと答えており、それぞれ半数を超えている。また、両学年とも県調査よりも高く、中学 2 年生は 15% も高い。受診しなかった世帯の子どもの半数以上が健康状態が悪いと答えていることより、明らかに受診抑制 (未受診経験) が健康悪化につながっているといえよう。

(1 1) 社会的ネットワーク (P 4 7 ~ P 4 9)

- ・子どもと一緒に地域の行事参加について、「参加している」は、小学 1 年生 39.8% (県調査 57.3%)、小学 5 年生 40.5% (県調査 52.6%)、中学 2 年生 32.9% (県調査 47.0%) で、どの学年も県調査より低く、参加できていない。
- ・「生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきである」の肯定的回答は、小学 1 年生 52.7% (県調査 57.6%)、小学 5 年生 54.5% (県調査 56.6%)、中学 2 年生 51.1% (県調査 56.3%) と、全ての学年で県調査より低い。両項目の結果から自分の生活に精一杯で、ゆとりのない生活が推察される。

(1 2) 子ども期の経済状況と現在の困窮経験 (P 5 0 ~ P 5 2)

- ・保護者の 1 5 歳時点での生活状況について、「苦しい」は小学 1 年生 32.5% (県調査 31.4%)、小学校 5 年生 34.1% (県調査 38.0%)、中学 2 年生 34.8% (県調査 38.0%) で、小学 1 年生を除き県調査より低くなっている。小学 1 年生の相違は、1.1% で大差はない。
- ・1 5 歳時点で生活状況が「大変苦しかった」保護者が、現在も大変苦しいと述べている状況は、小学 1 年生 15.6% (県調査 15.7%)、小学 5 年生 22.7% (県調査 20.3%)、中学 2 年生 19.0% (県調査 19.0%) であり、小学 5 年生において、県調査より 2.4% 高くなっている。また、同学年において「大変苦しい」は「やや苦しい 11.7%」「普通 7.7%」より 2 倍と突出して高い。
- ・保護者の 1 5 歳時の生活状況の違いごとに、現在の暮らしの状況で食料や衣料を買えなかった経験の有無について、県調査を上回るのは、「大変苦しい」と答えた保護者が食料を買えない経験で、小学 1 年生 45.6% (県調査 42.6%)、小学 5 年生 50.5% (県調査 42.0%)、中学 2 年生 49.0% (県調査 47.2%) と全学年で上回っている。また「大変苦しい」と答えた保護者は、「普通」と答えた保護者より、食料を買えない経験が小学 1 年生 2.4 倍、小学 5 年生 2.1 倍、中学 2 年生 2.3 倍といずれも 2 倍以上高くなっている。これより貧困の連鎖が生じているのではないかと推察される。

(13) 子どもの放課後の居場所 (P53~P54)

・所得階層別の放課後児童クラブ利用割合であるが、放課後児童クラブの利用率は34.8%~68.6%で、全階層において3割を超え、700~800万円の階層においては68.6%で7割に近い利用である。県調査(1.4~17.9%)と比較しても、多くの児童が放課後児童クラブを利用していることがわかる。特に200万円未満の所得階層において、県調査では1割程度の利用であるが、本調査では4割以上の世帯が利用しており、子どもの放課後の居場所として親の所得に関係なく、放課後児童クラブが利用されていることがわかる。

(14) 子育て世帯の収入状況 (中2保護者票から) 【参考】単純集計より

・本調査による世帯の収入は、200万円未満16.6%(県調査18.9%)と200~300万円未満18.4%(県調査20.1%)については県調査よりも低く、300~400万円未満16.5%(県調査14.8%)で県調査よりも高い。全世帯で一番多い所得階層は400~700万円で、26.6%(県調査28.5%) 県調査とほぼ変わらない。全体的にみると、低所得(300万円未満)世帯35%(県調査39%)より、中間世帯(300万~700万円未満)43.1%(県調査43.3%)が多く、特筆すべきことは、700~1000万円未満が9.5%(県調査7.8%)、1000万円以上2.4%(県調査1.6%)で県調査より多く、高額所得世帯の多さが伺える。

・父親の年間収入は、200万未満19.2%(県調査23.8%)は県調査より低く、500~700万円14.9%(県調査13.6%)と700万円以上5.5%(県調査4.2%)は県調査よりも高い。これより高額所得世帯の収入は、父親の収入の多さによるものと推察される。

・母親の年間収入は、200万円未満73.8%(県調査76.5%)、200~300万円未満12.6%(県調査11.9%)で、300万円未満が86.4%(88.4%)で8割以上を占めている。300~500万円未満9.9%(県調査8.3%)、500~700万円未満3.4%(県調査2.9%)で、いずれも県調査より高く、700万円以上も0.3%おり、母親においても高額所得者がいるということがわかる。

・学歴階層別の収入は、「200万円未満」の比率は、父親が「中学校卒」の場合、40.5%(県調査60.0%)で県調査よりも20%低く、200~300万円未満が47.6%(県調査29.3%)で一番多い。大学卒については、県調査同様7.7%で1割に満たない。母親では「中学校卒」が86.4%(県調査91.3%)と8割以上を占め、県調査よりやや低く、200~300万円未満9.1%(県調査7.2%)で県調査よりやや高い。一方、「大学・大学院卒」については、200万円未満は40.7%(県調査45.4%)と4割を占め、県調査同様女性は高学歴であっても、就労収入は男性より明らかに低い。500万円以上の高額所得者が大学・大学院卒等高学歴者に多いのは、県調査と同じである。

【参考】単純集計（中学2年保護者）一部

※沖縄子ども調査では、父親、母親の状況を分析する項目においては、「父親（義父を含む）」、「母親（義母を含む）」がどちらも同居していない世帯（「祖父母と子ども」のみからなる世帯など）、世帯を除き分析を行ってましたが、本調査では、全ての項目を対象に集計を行い参考資料としました。

注意：本調査の収入は、保護者票アンケート調査回答「手取り額」から算出しており、あくまでも保護者票アンケート調査回答に基づいたものです。沖縄子ども調査とは算出方法が異なる。

・中2保護者票の有効回答数は820票である。

◆保護者の学歴

母親の学歴 n=820

	度数	%
1. 中学校	50	6.1%
2. 高校	263	32.1%
3. 高卒後各種専門学校卒	197	24.0%
4. 短大・高専	183	22.3%
5. 大学・大学院卒	86	10.5%
6. その他	7	0.9%
7. 無回答	34	4.1%
合計	820	100.0%

父親の学歴 n=820

	度数	%
1. 中学校	58	7.1%
2. 高校	282	34.4%
3. 高卒後各種専門学校卒	131	16.0%
4. 短大・高専	36	4.4%
5. 大学・大学院卒	216	26.3%
6. その他	5	0.6%
7. 無回答	92	11.2%
合計	820	100.0%

◆母親の就労状況

母親の就労状況 n=820

	度数	%
1. 働いている	628	76.6%
2. 働いていない	156	19.0%
3. お母さんはいない	9	1.1%
4. 無回答	27	3.3%
合計	820	100.0%

母親の雇用形態 n=628

	度数	%
1. 会社役員	12	1.9%
2. 民間企業の正社員	155	24.7%
3. 公務員などの正職員	47	7.5%
4. 団体職員	10	1.6%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	76	12.1%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	252	40.1%
7. 自営業（専従業者を含む）	31	4.9%
8. 自由業	6	1.0%
9. その他の働き方をしている	9	1.4%
10. 無回答	30	4.8%
合計	628	100.0%

母親の副業 n = 628

	度数	%
1. している	32	5.1%
2. していない	567	90.3%
3. 無回答	29	4.6%
合計	628	100.0%

母親の1週間あたりの就労日数 n = 628

	度数	%
1日	0	0.0%
2日	6	1.0%
3日	18	2.9%
4日	40	6.4%
5日	355	56.5%
6日	97	15.4%
7日	3	0.5%
1~2日	0	0.0%
2~3日	0	0.0%
3~4日	5	0.8%
4~5日	0	0.0%
5~6日	5	0.8%
6~7日	0	0.0%
無回答	99	15.8%
合計	628	100.0%

働いていない母親の状況 n = 156

	度数	%
1. 仕事を探している	38	24.4%
2. 専業主婦	103	66.0%
3. 定年退職した	2	1.3%
4. 学生	0	0.0%
5. その他	5	3.2%
6. 無回答	8	5.1%
合計	156	100.0%

◆父親の就労状況

父親の就労状況 n = 820

	度数	%
1. 働いている	649	79.1%
2. 働いていない	13	1.6%
3. お父さんはいない	101	12.3%
4. 無回答	57	7.0%
合計	820	100.0%

父親の雇用形態 n = 649

	度数	%
1. 会社役員	57	8.8%
2. 民間企業の正社員	320	49.3%
3. 公務員などの正職員	79	12.2%
4. 団体職員	16	2.5%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	30	4.6%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	25	3.9%
7. 自営業（専従業者を含む）	84	12.9%
8. 自由業	6	0.9%
9. その他の働き方をしている	7	1.1%
10. 無回答	25	3.9%
合計	649	100.0%

父親の副業 n = 649

	度数	%
1. している	21	3.2%
2. していない	582	89.7%
3. 無回答	46	7.1%
合計	649	100.0%

父親の1週間あたりの労働日数 n = 649

	度数	%
1日	0	0.0%
2日	1	0.2%
3日	1	0.2%
4日	4	0.6%
5日	279	43.0%
6日	231	35.6%
7日	17	2.6%
1～2日	0	0.0%
2～3日	1	0.2%
3～4日	0	0.0%
4～5日	0	0.0%
5～6日	6	0.9%
6～7日	0	0.0%
無回答	109	16.8%
合計	649	100.0%

働いていない父親の状況 n = 13

	度数	%
1. 仕事を探している	3	23.1%
2. 専業主夫	4	30.8%
3. 定年退職した	4	30.8%
4. 学生	0	0.0%
5. その他	1	7.7%
6. 無回答	1	7.7%
合計	13	100.1%

◆収入

ここでいう「世帯の収入」とは、子どもと生計を共にしている世帯員全員の収入を合わせた収入であり、年間の賞与も含む手取り額である。収入には、勤労収入のほか、事業所得、農業所得、不動産所得、利子・配当金、公的年金、その他の社会保険給付金（生活保護・児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当）、個人年金、仕送り等もすべて含めた金額を指す。

世帯収入（年間）

n = 820

	度数	%	累積 パーセント
0円	8	1.0%	1.0%
1～50万円未満	8	1.0%	2.0%
50～100万円未満	16	2.0%	3.9%
100～150万円未満	53	6.5%	10.4%
150～200万円未満	51	6.2%	16.6%
200～250万円未満	73	8.9%	25.5%
250～300万円未満	78	9.5%	35.0%
300～400万円未満	135	16.5%	51.5%
400～500万円未満	94	11.5%	63.0%
500～600万円未満	74	9.0%	72.0%
600～700万円未満	50	6.1%	78.1%
700～800万円未満	35	4.3%	82.3%
800～900万円未満	26	3.2%	85.5%
900～1000万円未満	17	2.1%	87.6%
1000万円以上	20	2.4%	90.0%
無回答	82	10.0%	100.0%
合計	820	100.0%	

世帯収入 5分類

n = 820

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	136	16.6%	16.6%
200～300万円未満	151	18.4%	35.0%
300～500万円未満	229	27.9%	62.9%
500～700万円未満	124	15.1%	78.0%
700万円以上	98	12.0%	90.0%
無回答	82	10.0%	100.0%
合計	820	100.0%	

母親の年間収入

n=820

	度数	%	累積 パーセント
0円	124	15.1%	15.1%
1～50万円未満	39	4.8%	19.9%
50～100万円未満	142	17.3%	37.2%
100～150万円未満	153	18.7%	55.9%
150～200万円未満	69	8.4%	64.3%
200～250万円未満	53	6.5%	70.7%
250～300万円未満	37	4.5%	75.2%
300～400万円未満	45	5.5%	80.7%
400～500万円未満	26	3.2%	83.9%
500～600万円未満	19	2.3%	86.2%
600～700万円未満	5	0.6%	86.8%
700万円以上	2	0.2%	87.1%
世帯収入に含まれていない、または不明	8	1.0%	88.0%
お母さんはいない	5	0.6%	88.7%
無回答	93	11.3%	100.0%
合計	820	100.0%	

父親の年間収入

n=820

	度数	%	累積 パーセント
0円	10	1.2%	1.2%
1～50万円未満	6	0.7%	2.0%
50～100万円未満	18	2.2%	4.1%
100～150万円未満	30	3.7%	7.8%
150～200万円未満	52	6.3%	14.1%
200～250万円未満	93	11.3%	25.5%
250～300万円未満	92	11.2%	36.7%
300～400万円未満	104	12.7%	49.4%
400～500万円未満	77	9.4%	58.8%
500～600万円未満	54	6.6%	65.4%
600～700万円未満	36	4.4%	69.8%
700万円以上	33	4.0%	73.8%
世帯収入に含まれていない、または不明	9	1.1%	74.9%
お母さんはいない	74	9.0%	83.9%
無回答	132	16.1%	100.0%
合計	820	100.0%	

母親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=714

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	527	73.8%	73.8%
200～300万円未満	90	12.6%	86.4%
300～500万円未満	71	9.9%	96.4%
500～700万円未満	24	3.4%	99.7%
700万円以上	2	0.3%	100.0%
合計	714	100.0%	

父親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=605

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	116	19.2%	19.2%
200～300万円未満	185	30.6%	49.8%
300～500万円未満	181	29.9%	79.7%
500～700万円未満	90	14.9%	94.5%
700万円以上	33	5.5%	100.0%
合計	605	100.0%	

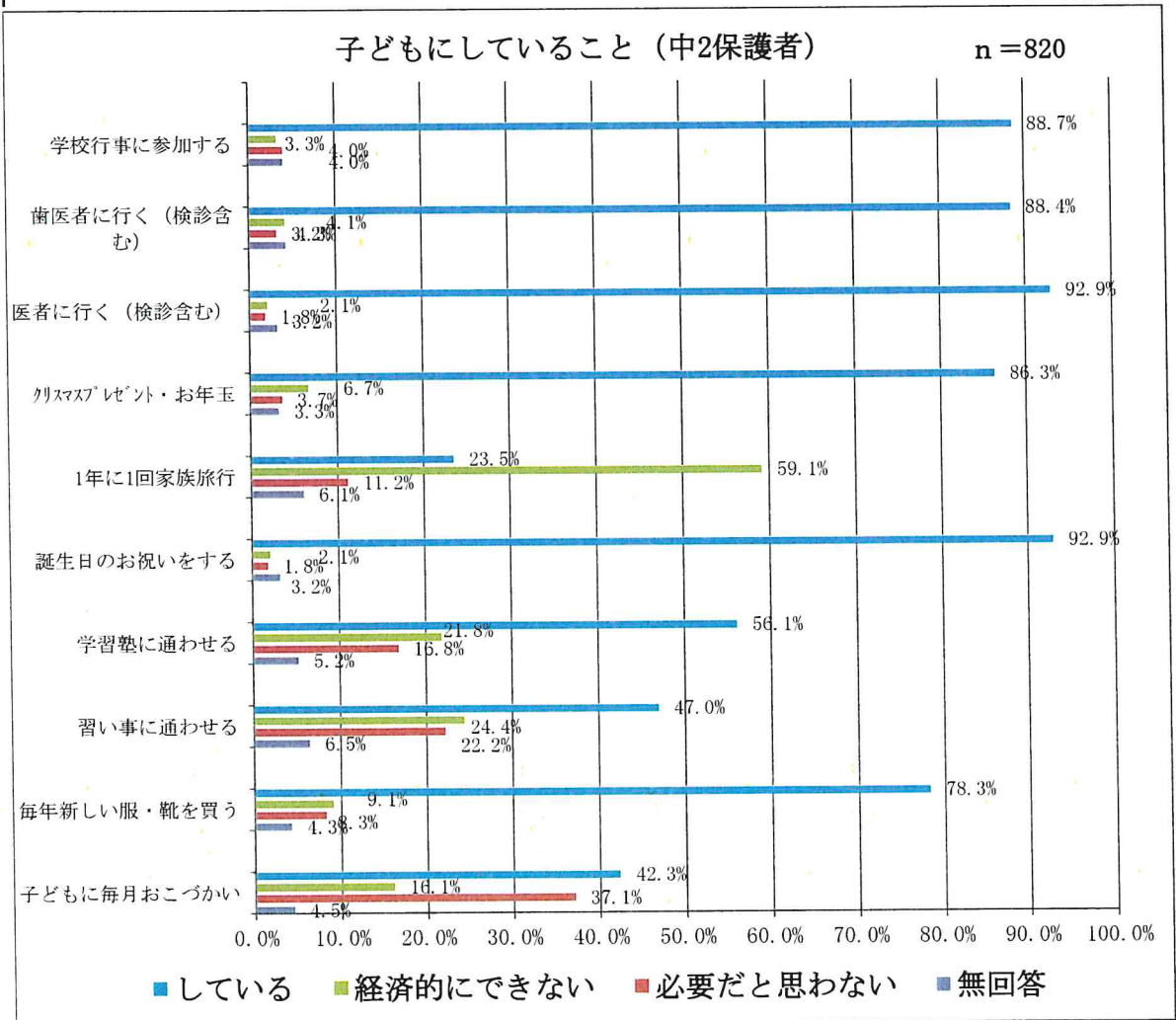
◆子ども用の所有物

n = 820

	子どもの本		子ども部屋		インターネットにつながるパソコン		子ども専用の勉強机		スポーツ用品	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	672	82.0%	576	70.2%	565	68.9%	674	82.2%	642	78.3%
必要だと思わない	51	6.2%	60	7.3%	85	10.4%	68	8.3%	110	13.4%
経済的に持てない	51	6.2%	151	18.4%	142	17.3%	49	6.0%	36	4.4%
無回答	46	5.6%	33	4.0%	28	3.4%	29	3.5%	32	3.9%
合計	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%

	ゲーム機		多くのこどもが持つおもちゃ		自転車		携帯電話		携帯音楽プレイヤー	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	581	70.9%	428	52.2%	360	43.9%	495	60.4%	359	43.8%
必要だと思わない	175	21.3%	280	34.1%	350	42.7%	231	28.2%	330	40.2%
経済的に持てない	38	4.6%	64	7.8%	71	8.7%	68	8.3%	97	11.8%
無回答	26	3.2%	48	5.9%	39	4.8%	26	3.2%	34	4.1%
合計	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%

◆子どもにしていること

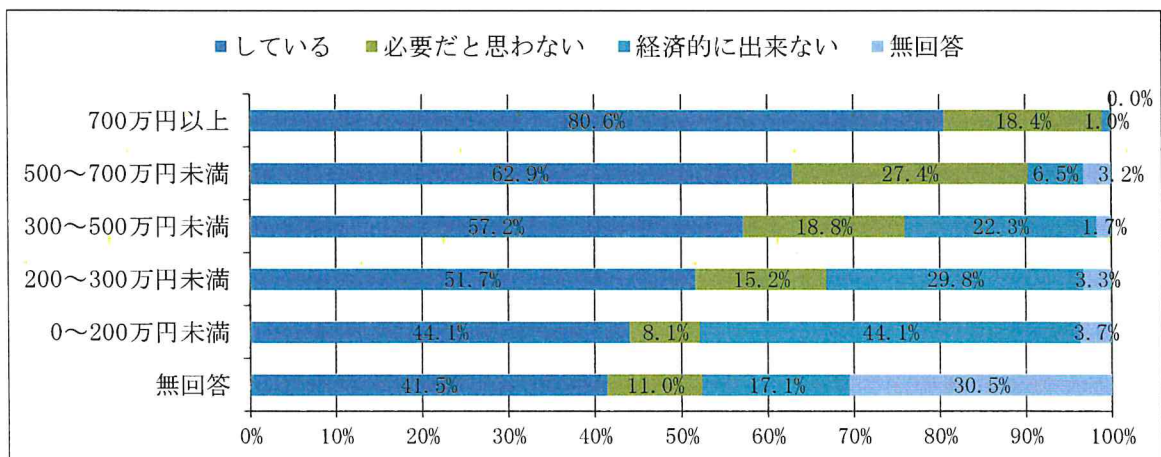


n = 820

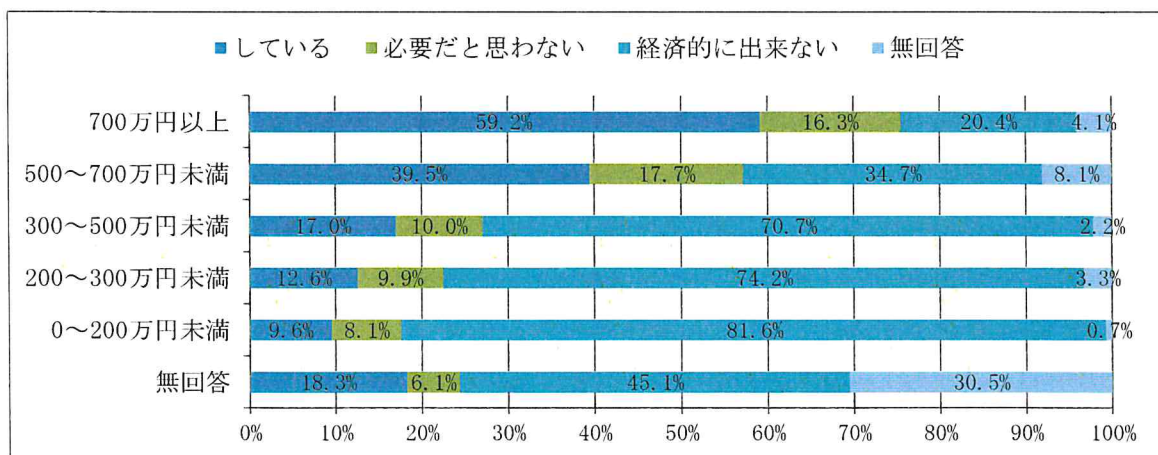
	子どもに毎月おこづかい		毎年新しい服・靴を買う		習い事に通わせる		学習塾に通わせる		誕生日のお祝いをする	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	347	42.3%	642	78.3%	385	47.0%	460	56.1%	762	92.9%
必要だと思わない	304	37.1%	68	8.3%	182	22.2%	138	16.8%	15	1.8%
経済的にできない	132	16.1%	75	9.1%	200	24.4%	179	21.8%	17	2.1%
無回答	37	4.5%	35	4.3%	53	6.5%	43	5.2%	26	3.2%
合計	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%

	1年に1回家族旅行		クリスマスプレゼント・お年玉		医者に行く(検診含む)		歯医者に行く(検診含む)		学校行事に参加する	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	193	23.5%	708	86.3%	762	92.9%	725	88.4%	727	88.7%
必要だと思わない	92	11.2%	30	3.7%	15	1.8%	26	3.2%	33	4.0%
経済的にできない	485	59.1%	55	6.7%	17	2.1%	34	4.1%	27	3.3%
無回答	50	6.1%	27	3.3%	26	3.2%	35	4.3%	33	4.0%
合計	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%	820	100.0%

世帯収入別：「学習塾に通わせる」



世帯収入別：「1年に1回の家族旅行の実施状況」



◆クラブ活動 n=820

部活や地域のクラブ活動

	度数	%
1. している	588	71.7%
2. していない	205	25.0%
3. 無回答	27	3.3%
合計	820	100.0%

◆子どもとの関係 n=820

本の感想を話し合う

	度数	%
1. よくする	56	6.8%
2. する	227	27.7%
3. あまりしない	379	46.2%
4. しない	132	16.1%
5. 無回答	26	3.2%
合計	820	100.0%

絵本の読み聞かせ経験

	度数	%
1. よくする	247	30.1%
2. やった	311	37.9%
3. あまりしなかった	208	25.4%
4. しなかった	28	3.4%
5. 無回答	26	3.2%
合計	820	100.0%

図書館と一緒にいく頻度

	度数	%
1. よく行く	22	2.7%
2. 行く	123	15.0%
3. あまり行かない	314	38.3%
4. 行かない	334	40.7%
5. 無回答	27	3.3%
合計	820	100.0%

世帯の収入別：図書館と一緒にいく頻度・本の感想を話し合う頻度（中2保護者票）

n=820

	図書館と一緒にいく						本の感想を話し合う					
	よく行く	行く	あまり行かない	行かない	無回答	合計	よくする	する	あまりしない	しない	無回答	合計
0~200万円未満	3	20	54	59	0	136	11	36	64	25	0	136
	2.2%	14.7%	39.7%	43.4%	0.0%	100.0%	8.1%	26.5%	47.1%	18.4%	0.0%	100.0%
200~300万円未満	0	25	66	60	0	151	6	43	73	29	0	151
	0.0%	16.6%	43.7%	39.7%	0.0%	100.0%	4.0%	28.5%	48.3%	19.2%	0.0%	100.0%
300~500万円未満	11	31	84	102	1	229	19	62	102	44	2	229
	4.8%	13.5%	36.7%	44.5%	0.4%	100.0%	8.3%	27.1%	44.5%	19.2%	0.9%	100.0%
500~700万円未満	4	18	43	56	3	124	9	34	64	15	2	124
	3.2%	14.5%	34.7%	45.2%	2.4%	100.0%	7.3%	27.4%	51.6%	12.1%	1.6%	100.0%
700万円以上	3	17	42	36	0	98	6	34	49	9	0	98
	3.1%	17.3%	42.9%	36.7%	0.0%	100.0%	6.1%	34.7%	50.0%	9.2%	0.0%	100.0%
無回答	1	12	25	21	23	82	5	18	27	10	22	82
	1.2%	14.6%	30.5%	25.6%	28.0%	100.0%	6.1%	22.0%	32.9%	12.2%	26.8%	100.0%
合計	22	123	314	334	27	820	56	227	379	132	26	820
	2.7%	15.0%	38.3%	40.7%	3.3%	100.0%	6.8%	27.7%	46.2%	16.1%	3.2%	100.0%

子どもの夢

n=820

	度数	%
よく知っている	148	18.0%
知っている	424	51.7%
あまり知らない	198	24.1%
知らない	22	2.7%
無回答	28	3.4%
合計	820	100.0%

子どもへの信頼

n=820

	度数	%
大変信頼している	316	38.5%
信頼している	453	55.2%
あまり信頼していない	21	2.6%
信頼していない	1	0.1%
無回答	29	3.5%
合計	820	100.0%

◆学校行事への参加 n = 820

	度数	%
1. よく参加している	252	30.7%
2. 時々参加している	435	53.0%
3. あまり参加していない	94	11.5%
4. まったく参加していない	14	1.7%
5. 無回答	25	3.0%
合計	820	100.0%

世帯の収入別：学校行事への参加

n = 820

	学校行事への参加					合計
	よく参加している	時々参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答	
0～200万円未満	44 32.4%	61 44.9%	27 19.9%	3 2.2%	1 0.7%	136 100.0%
200～300万円未満	40 26.5%	90 59.6%	19 12.6%	2 1.3%	0 0.0%	151 100.0%
300～500万円未満	66 28.8%	133 58.1%	25 10.9%	4 1.7%	1 0.4%	229 100.0%
500～700万円未満	53 42.7%	59 47.6%	9 7.3%	3 2.4%	0 0.0%	124 100.0%
700万円以上	30 30.6%	60 61.2%	7 7.1%	0 0.0%	1 1.0%	98 100.0%
無回答	19 23.2%	32 39.0%	7 8.5%	2 2.4%	22 26.8%	82 100.0%
合計	252 30.7%	435 53.0%	94 11.5%	14 1.7%	25 3.0%	820 100.0%

◆子育てや教育の悩みの相談

子育てや教育の悩みを相談したり頼れる友人知人

n = 820

	度数	%
1. たくさんいる	133	16.2%
2. ある程度いる	531	64.8%
3. あまりいない	106	12.9%
4. まったくない	25	3.0%
5. 無回答	25	3.0%
合計	820	100.0%

同居家族と子育てや教育について話す機会

n = 820

	度数	%
1. よく話す	318	38.8%
2. 時々話す	321	39.1%
3. あまり話さない	81	9.9%
4. まったく話さない	15	1.8%
5. お子さん以外に家族はいない (お子さんと2人暮らしである)	60	7.3%
6. 無回答	25	3.0%
合計	820	100.0%

世帯収入別：同居家族と子育てや教育について話す機会（中2保護者票）

n = 820

	同居家族との子どもの話						合計
	よく話す	時々話す	あまり話さない	全く話さない	子ども以外に家族はいない	無回答	
0～200万円未満	29	52	13	6	35	1	136
	21.3%	38.2%	9.6%	4.4%	25.7%	0.7%	100.0%
200～300万円未満	50	63	22	2	14	0	151
	33.1%	41.7%	14.6%	1.3%	9.3%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	84	109	25	4	6	1	229
	36.7%	47.6%	10.9%	1.7%	2.6%	0.4%	100.0%
500～700万円未満	62	49	9	2	2	0	124
	50.0%	39.5%	7.3%	1.6%	1.6%	0.0%	100.0%
700万円以上	63	29	5	0	0	1	98
	64.3%	29.6%	5.1%	0.0%	0.0%	1.0%	100.0%
無回答	30	19	7	1	3	22	82
	36.6%	23.2%	8.5%	1.2%	3.7%	26.8%	100.0%
合計	318	321	81	15	60	25	820
	38.8%	39.1%	9.9%	1.8%	7.3%	3.0%	100.0%

◆心理的健康（母集団は、回答者が母親・回答者が父親のケース）
過去30日間にゆううつに感じた頻度

n = 688 n = 65

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答	合計
母親	335	179	118	30	17	9	688
	48.7%	26.0%	17.2%	4.4%	2.5%	1.3%	100.0%
父親	43	14	6	1	0	1	65
	66.2%	21.5%	9.2%	1.5%	0.0%	1.5%	100.0%

◆現在の暮らし向き

n = 820

	度数	%
1. 大変苦しい	81	9.9%
2. やや苦しい	276	33.7%
3. 普通	326	39.8%
4. ややゆとりがある	83	10.1%
5. 大変ゆとりがある	9	1.1%
6. 無回答	45	5.5%
合計	820	100.0%

通常の家計

n = 820

	度数	%
1. 赤字であり、借金をして生活している	147	17.9%
2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している	129	15.7%
3. 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	380	46.3%
4. 黒字であり、余裕がある	67	8.2%
5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	54	6.6%
6. 無回答	43	5.2%
合計	820	100.0%

1ヵ月あたりの学校外教育費の支出

n = 820

	度数	%	累積 パーセント
支出はまったくない	183	22.3%	22.3%
5千円未満	34	4.1%	26.5%
5千円～1万円未満	65	7.9%	34.4%
1万円～1万5千円未満	89	10.9%	45.2%
1万5千円～2万円未満	232	28.3%	73.5%
2万円～2万5千円未満	68	8.3%	81.8%
2万5千円～3万円未満	52	6.3%	88.2%
3万円～5万円未満	32	3.9%	92.1%
5万円以上	3	0.4%	92.4%
無回答	62	7.6%	100.0%
合計	820	100.0%	

【参考】単純集計（小学5年保護者）一部

※沖縄子ども調査では、父親、母親の状況を分析する項目においては、「父親（義父を含む）」、「母親（義母を含む）」がどちらも同居していない世帯（「祖父母と子ども」のみからなる世帯など）、世帯を除き分析を行ってましたが、本調査では、全ての項目を対象に集計を行い参考資料としました。

注意：本調査の収入は、保護者票アンケート調査回答「手取り額」から算出しており、あくまでも保護者票アンケート調査回答に基づいたものである。沖縄子ども調査とは算出方法が異なる。

・小学5年保護者票の有効回答数は911票である。

◆保護者の学歴

母親の学歴 n=911

	度数	%
1. 中学校	42	4.6%
2. 高校	291	31.9%
3. 高卒後各種専門学校卒	242	26.6%
4. 短大・高専	195	21.4%
5. 大学・大学院卒	113	12.4%
6. その他	3	0.3%
7. 無回答	25	2.7%
合計	911	100.0%

父親の学歴 n=911

	度数	%
1. 中学校	69	7.6%
2. 高校	335	36.8%
3. 高卒後各種専門学校卒	136	14.9%
4. 短大・高専	37	4.1%
5. 大学・大学院卒	264	29.0%
6. その他	8	0.9%
7. 無回答	62	6.8%
合計	911	100.0%

◆母親の就労状況

母親の就労状況 n=911

	度数	%
1. 働いている	693	76.1%
2. 働いていない	192	21.1%
3. お母さんはいない	11	1.2%
4. 無回答	15	1.6%
合計	911	100.0%

母親の雇用形態 n=693

	度数	%
1. 会社役員	12	1.7%
2. 民間企業の正社員	154	22.2%
3. 公務員などの正職員	62	8.9%
4. 団体職員	13	1.9%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	76	11.0%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	305	44.0%
7. 自営業（専従業者を含む）	38	5.5%
8. 自由業	5	0.7%
9. その他の働き方をしている	6	0.9%
10. 無回答	22	3.2%
合計	693	100.0%

母親の副業 n = 693

	度数	%
1. している	44	6.3%
2. していない	628	90.6%
3. 無回答	21	3.0%
合計	693	100.0%

母親の1週間あたりの就労日数 n = 693

	度数	%
1日	1	0.1%
2日	5	0.7%
3日	19	2.7%
4日	54	7.8%
5日	413	59.6%
6日	91	13.1%
7日	3	0.4%
1~2日	0	0.0%
2~3日	3	0.4%
3~4日	6	0.9%
4~5日	11	1.6%
5~6日	18	2.6%
6~7日	0	0.0%
無回答	69	10.0%
合計	693	100.0%

働いていない母親の状況 n = 192

	度数	%
1. 仕事を探している	31	16.1%
2. 専業主婦	145	75.5%
3. 定年退職した	0	0.0%
4. 学生	1	0.5%
5. その他	7	3.6%
6. 無回答	8	4.2%
合計	192	100.0%

◆父親の就労状況

父親の就労状況 n = 911

	度数	%
1. 働いている	781	85.7%
2. 働いていない	16	1.8%
3. お父さんはいない	76	8.3%
4. 無回答	38	4.2%
合計	911	100.0%

父親の雇用形態 n = 781

	度数	%
1. 会社役員	77	9.9%
2. 民間企業の正社員	365	46.7%
3. 公務員などの正職員	99	12.7%
4. 団体職員	19	2.4%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	43	5.5%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	31	4.0%
7. 自営業（専従業者を含む）	103	13.2%
8. 自由業	5	0.6%
9. その他の働き方をしている	6	0.8%
10. 無回答	33	4.2%
合計	781	100.0%

父親の副業 n = 781

	度数	%
1. している	24	3.1%
2. していない	718	91.9%
3. 無回答	39	5.0%
合計	781	100.0%

父親の1週間あたりの労働日数 n = 781

	度数	%
1日	1	0.1%
2日	5	0.6%
3日	4	0.5%
4日	3	0.4%
5日	339	43.4%
6日	280	35.9%
7日	15	1.9%
1～2日	0	0.0%
2～3日	0	0.0%
3～4日	0	0.0%
4～5日	1	0.1%
5～6日	22	2.8%
6～7日	5	0.6%
無回答	106	13.6%
合計	781	100.0%

働いていない父親の状況 n = 16

	度数	%
1. 仕事を探している	6	37.5%
2. 専業主夫	1	6.3%
3. 定年退職した	2	12.5%
4. 学生	0	0.0%
5. その他	7	43.8%
6. 無回答	0	0.0%
合計	16	100.0%

◆収入

ここでいう「世帯の収入」とは、子どもと生計を共にしている世帯員全員の収入を合わせた収入であり、年間の賞与も含む手取り額である。収入には、勤労収入のほか、事業所得、農業所得、不動産所得、利子・配当金、公的年金、その他の社会保険給付金（生活保護・児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当）、個人年金、仕送り等もすべて含めた金額を指す。

世帯収入（年間）

n = 911

	度数	%	累積 パーセント
0円	12	1.3%	1.3%
1～50万円未満	12	1.3%	2.6%
50～100万円未満	13	1.4%	4.1%
100～150万円未満	33	3.6%	7.7%
150～200万円未満	50	5.5%	13.2%
200～250万円未満	69	7.6%	20.7%
250～300万円未満	116	12.7%	33.5%
300～400万円未満	148	16.2%	49.7%
400～500万円未満	120	13.2%	62.9%
500～600万円未満	97	10.6%	73.5%
600～700万円未満	66	7.2%	80.8%
700～800万円未満	44	4.8%	85.6%
800～900万円未満	22	2.4%	88.0%
900～1000万円未満	16	1.8%	89.8%
1000万円以上	27	3.0%	92.8%
無回答	66	7.2%	100.0%
合計	911	100.0%	

世帯収入 5分類

n = 911

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	120	13.2%	13.2%
200～300万円未満	185	20.3%	33.5%
300～500万円未満	268	29.4%	62.9%
500～700万円未満	163	17.9%	80.8%
700万円以上	109	12.0%	92.8%
無回答	66	7.2%	100.0%
合計	911	100.0%	

母親の年間収入

n = 911

	度数	%	累積 パーセント
0円	156	17.1%	17.1%
1～50万円未満	62	6.8%	23.9%
50～100万円未満	181	19.9%	43.8%
100～150万円未満	150	16.5%	60.3%
150～200万円未満	79	8.7%	68.9%
200～250万円未満	65	7.1%	76.1%
250～300万円未満	44	4.8%	80.9%
300～400万円未満	52	5.7%	86.6%
400～500万円未満	27	3.0%	89.6%
500～600万円未満	13	1.4%	91.0%
600～700万円未満	6	0.7%	91.7%
700万円以上	5	0.5%	92.2%
世帯収入に含まれていない、または不明	3	0.3%	92.5%
お母さんはいない	9	1.0%	93.5%
無回答	59	6.5%	100.0%
合計	911	100.0%	

父親の年間収入

n = 911

	度数	%	累積 パーセント
0円	8	0.9%	0.9%
1～50万円未満	11	1.2%	2.1%
50～100万円未満	14	1.5%	3.6%
100～150万円未満	46	5.0%	8.7%
150～200万円未満	64	7.0%	15.7%
200～250万円未満	118	13.0%	28.6%
250～300万円未満	106	11.6%	40.3%
300～400万円未満	154	16.9%	57.2%
400～500万円未満	96	10.5%	67.7%
500～600万円未満	67	7.4%	75.1%
600～700万円未満	37	4.1%	79.1%
700万円以上	47	5.2%	84.3%
世帯収入に含まれていない、または不明	6	0.7%	85.0%
お母さんはいない	63	6.9%	91.9%
無回答	74	8.1%	100.0%
合計	911	100.0%	

母親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=840

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	628	74.8%	74.8%
200～300万円未満	109	13.0%	87.7%
300～500万円未満	79	9.4%	97.1%
500～700万円未満	19	2.3%	99.4%
700万円以上	5	0.6%	100.0%
合計	840	100.0%	

父親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=768

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	143	18.6%	18.6%
200～300万円未満	224	29.2%	47.8%
300～500万円未満	250	32.6%	80.3%
500～700万円未満	104	13.5%	93.9%
700万円以上	47	6.1%	100.0%
合計	768	100.0%	

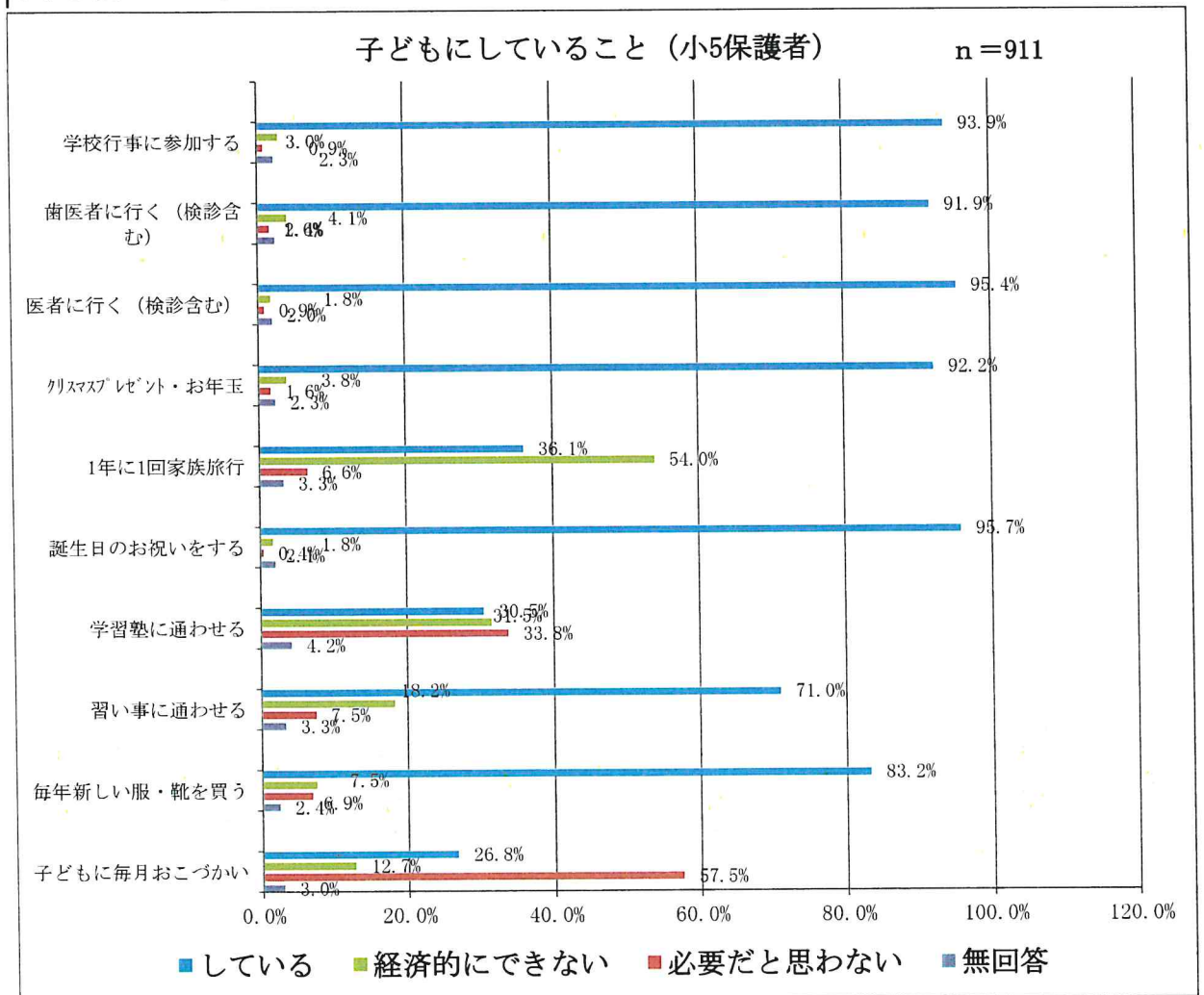
◆子ども用の所有物

n = 911

	子どもの本		子ども部屋		インターネットにつながるパソコン		子ども専用の勉強机		スポーツ用品	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	820	90.0%	584	64.1%	612	67.2%	717	78.7%	752	82.5%
必要だと思わない	23	2.5%	101	11.1%	119	13.1%	94	10.3%	99	10.9%
経済的に持てない	36	4.0%	199	21.8%	161	17.7%	79	8.7%	33	3.6%
無回答	32	3.5%	27	3.0%	19	2.1%	21	2.3%	27	3.0%
合計	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%

	ゲーム機		多くの子どもが持つおもちゃ		自転車		携帯電話		携帯音楽プレイヤー	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	711	78.0%	642	70.5%	493	54.1%	363	39.8%	182	20.0%
必要だと思わない	147	16.1%	171	18.8%	293	32.2%	437	48.0%	591	64.9%
経済的に持てない	38	4.2%	73	8.0%	103	11.3%	90	9.9%	117	12.8%
無回答	15	1.6%	25	2.7%	22	2.4%	21	2.3%	21	2.3%
合計	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%

◆子どもにしていること

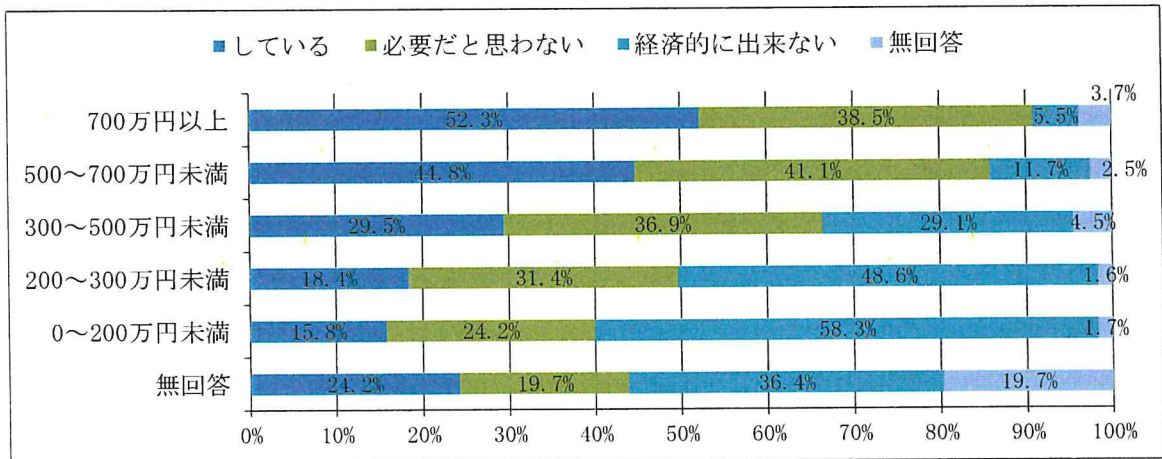


n = 911

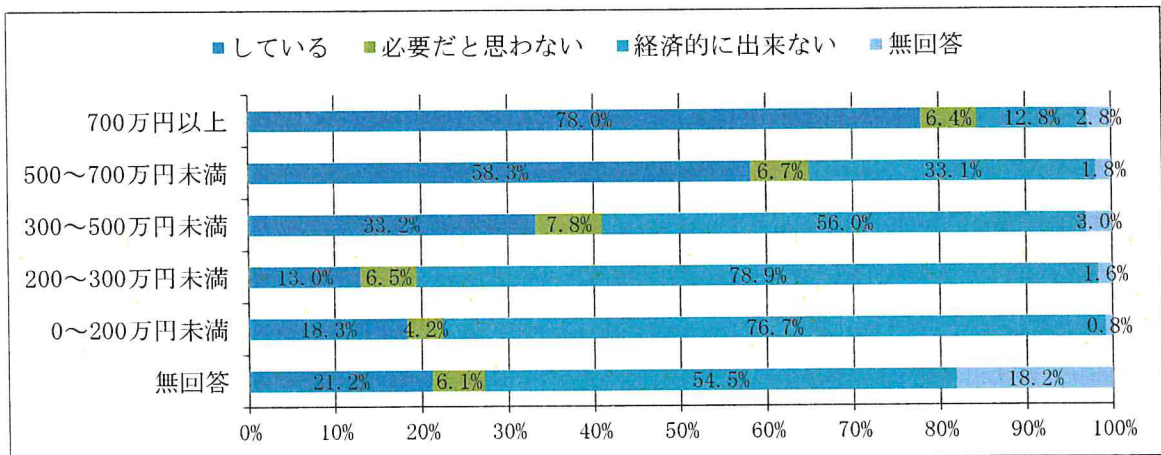
	子どもに毎月おこづかい		毎年新しい服・靴を買う		習い事に通わせる		学習塾に通わせる		誕生日のお祝いをする	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	244	26.8%	758	83.2%	647	71.0%	278	30.5%	872	95.7%
必要だと思わない	524	57.5%	63	6.9%	68	7.5%	308	33.8%	4	0.4%
経済的にできない	116	12.7%	68	7.5%	166	18.2%	287	31.5%	16	1.8%
無回答	27	3.0%	22	2.4%	30	3.3%	38	4.2%	19	2.1%
合計	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%

	1年に1回家族旅行		クリスマスプレゼント・お年玉		医者に行く(検診含む)		歯医者に行く(検診含む)		学校行事に参加する	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	329	36.1%	840	92.2%	869	95.4%	837	91.9%	855	93.9%
必要だと思わない	60	6.6%	15	1.6%	8	0.9%	15	1.6%	8	0.9%
経済的にできない	492	54.0%	35	3.8%	16	1.8%	37	4.1%	27	3.0%
無回答	30	3.3%	21	2.3%	18	2.0%	22	2.4%	21	2.3%
合計	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%	911	100.0%

世帯収入別：「学習塾に通わせる」



世帯収入別：「1年に1回の家族旅行の実施状況」



◆クラブ活動 n=911

部活や地域のクラブ活動

	度数	%
1. している	422	46.3%
2. していない	466	51.2%
3. 無回答	23	2.5%
合計	911	100.0%

◆子どもとの関係 n=911

本の感想を話し合う

	度数	%
1. よくする	106	11.6%
2. する	331	36.3%
3. あまりしない	396	43.5%
4. しない	64	7.0%
5. 無回答	14	1.5%
合計	911	100.0%

絵本の読み聞かせ経験

	度数	%
1. よくする	266	29.2%
2. やった	371	40.7%
3. あまりしなかった	234	25.7%
4. しなかった	26	2.9%
5. 無回答	14	1.5%
合計	911	100.0%

図書館と一緒にいく頻度

	度数	%
1. よく行く	72	7.9%
2. 行く	220	24.1%
3. あまり行かない	379	41.6%
4. 行かない	226	24.8%
5. 無回答	14	1.5%
合計	911	100.0%

世帯の収入別：図書館と一緒にいく頻度・本の感想を話し合う頻度（小5保護者票）

n=911

	図書館と一緒にいく						本の感想を話し合う					
	よく行く	行く	あまり行かない	行かない	無回答	合計	よくする	する	あまりしない	しない	無回答	合計
0~200万円未満	5 4.2%	27 22.5%	46 38.3%	42 35.0%	0 0.0%	120 100.0%	13 10.8%	35 29.2%	59 49.2%	13 10.8%	0 0.0%	120 100.0%
200~300万円未満	14 7.6%	41 22.2%	78 42.2%	52 28.1%	0 0.0%	185 100.0%	18 9.7%	65 35.1%	84 45.4%	18 9.7%	0 0.0%	185 100.0%
300~500万円未満	25 9.3%	64 23.9%	116 43.3%	62 23.1%	1 0.4%	268 100.0%	33 12.3%	99 36.9%	118 44.0%	17 6.3%	1 0.4%	268 100.0%
500~700万円未満	15 9.2%	44 27.0%	76 46.6%	28 17.2%	0 0.0%	163 100.0%	20 12.3%	74 45.4%	61 37.4%	8 4.9%	0 0.0%	163 100.0%
700万円以上	12 11.0%	32 29.4%	43 39.4%	20 18.3%	2 1.8%	109 100.0%	19 17.4%	43 39.4%	41 37.6%	4 3.7%	2 1.8%	109 100.0%
無回答	1 1.5%	12 18.2%	20 30.3%	22 33.3%	11 16.7%	66 100.0%	3 4.5%	15 22.7%	33 50.0%	4 6.1%	11 16.7%	66 100.0%
合計	72 7.9%	220 24.1%	379 41.6%	226 24.8%	14 1.5%	911 100.0%	106 11.6%	331 36.3%	396 43.5%	64 7.0%	14 1.5%	911 100.0%

子どもの夢 n=911

	度数	%
よく知っている	276	30.3%
知っている	477	52.4%
あまり知らない	126	13.8%
知らない	11	1.2%
無回答	21	2.3%
合計	911	100.0%

子どもへの信頼 n=911

	度数	%
大変信頼している	392	43.0%
信頼している	476	52.3%
あまり信頼していない	25	2.7%
信頼していない	1	0.1%
無回答	17	1.9%
合計	911	100.0%

◆学校行事への参加 n=911

	度数	%
1. よく参加している	537	58.9%
2. 時々参加している	318	34.9%
3. あまり参加していない	37	4.1%
4. まったく参加していない	4	0.4%
5. 無回答	15	1.6%
合計	911	100.0%

世帯の収入別：学校行事への参加

n=911

	学校行事への参加					合計
	よく参加している	時々参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答	
0~200万円未満	57	53	8	1	1	120
	47.5%	44.2%	6.7%	0.8%	0.8%	100.0%
200~300万円未満	99	78	7	1	0	185
	53.5%	42.2%	3.8%	0.5%	0.0%	100.0%
300~500万円未満	166	87	12	2	1	268
	61.9%	32.5%	4.5%	0.7%	0.4%	100.0%
500~700万円未満	110	49	3	0	1	163
	67.5%	30.1%	1.8%	0.0%	0.6%	100.0%
700万円以上	71	35	3	0	0	109
	65.1%	32.1%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	34	16	4	0	12	66
	51.5%	24.2%	6.1%	0.0%	18.2%	100.0%
合計	537	318	37	4	15	911
	58.9%	34.9%	4.1%	0.4%	1.6%	100.0%

◆子育てや教育の悩みの相談

子育てや教育の悩みを相談したり頼れる友人知人

n=911

	度数	%
1. たくさんいる	210	23.1%
2. ある程度いる	566	62.1%
3. あまりいない	94	10.3%
4. まったくない	25	2.7%
5. 無回答	16	1.8%
合計	911	100.0%

同居家族と子育てや教育について話す機会

n=911

	度数	%
1. よく話す	412	45.2%
2. 時々話す	351	38.5%
3. あまり話さない	67	7.4%
4. まったく話さない	14	1.5%
5. お子さん以外に家族はいない (お子さんと2人暮らしである)	51	5.6%
6. 無回答	16	1.8%
合計	911	100.0%

世帯収入別：同居家族と子育てや教育について話す機会（小5保護者票）

n = 911

	同居家族との子どもの話						合計
	よく話す	時々話す	あまり話さない	全く話さない	子ども以外に家族はいない	無回答	
0～200万円未満	31	44	11	2	30	2	120
	25.8%	36.7%	9.2%	1.7%	25.0%	1.7%	100.0%
200～300万円未満	71	87	10	3	14	0	185
	38.4%	47.0%	5.4%	1.6%	7.6%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	132	103	23	5	4	1	268
	49.3%	38.4%	8.6%	1.9%	1.5%	0.4%	100.0%
500～700万円未満	94	58	8	2	0	1	163
	57.7%	35.6%	4.9%	1.2%	0.0%	0.6%	100.0%
700万円以上	60	38	10	1	0	0	109
	55.0%	34.9%	9.2%	0.9%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	24	21	5	1	3	12	66
	36.4%	31.8%	7.6%	1.5%	4.5%	18.2%	100.0%
合計	412	351	67	14	51	16	911
	45.2%	38.5%	7.4%	1.5%	5.6%	1.8%	100.0%

◆心理的健康（母集団は、回答者が母親・回答者が父親のケース）

過去30日間にゆううつに感じた頻度

n = 776 n = 76

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答	合計
母親	407	218	95	36	14	6	776
	52.4%	28.1%	12.2%	4.6%	1.8%	0.8%	100.0%
父親	48	12	11	2	0	3	76
	63.2%	15.8%	14.5%	2.6%	0.0%	3.9%	100.0%

◆現在の暮らし向き

n = 911

	度数	%
1. 大変苦しい	90	9.9%
2. やや苦しい	284	31.2%
3. 普通	376	41.3%
4. ややゆとりがある	122	13.4%
5. 大変ゆとりがある	11	1.2%
6. 無回答	28	3.1%
合計	911	100.0%

通常の家計

n = 911

	度数	%
1. 赤字であり、借金をして生活している	148	16.2%
2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している	137	15.0%
3. 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	436	47.9%
4. 黒字であり、余裕がある	68	7.5%
5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	84	9.2%
6. 無回答	38	4.2%
合計	911	100.0%

1ヵ月あたりの学校外教育費の支出

n = 911

	度数	%	累積 パーセント
支出はまったくない	220	24.1%	24.1%
5千円未満	114	12.5%	36.7%
5千円～1万円未満	195	21.4%	58.1%
1万円～1万5千円未満	147	16.1%	74.2%
1万5千円～2万円未満	87	9.5%	83.8%
2万円～2万5千円未満	42	4.6%	88.4%
2万5千円～3万円未満	24	2.6%	91.0%
3万円～5万円未満	37	4.1%	95.1%
5万円以上	9	1.0%	96.0%
無回答	36	4.0%	100.0%
合計	911	100.0%	

【参考】単純集計（小学1年保護者）一部

※沖縄子ども調査では、父親、母親の状況を分析する項目においては、「父親(義父を含む)」、「母親(義母を含む)」がどちらも同居していない世帯(「祖父母と子ども」のみからなる世帯など)、世帯を除き分析を行ってましたが、本調査では、全ての項目を対象に集計を行い参考資料としました。

注意: 本調査の収入は、保護者票アンケート調査回答「手取り額」から算出しており、あくまでも保護者票アンケート調査回答に基づいたものである。沖縄子ども調査とは算出方法が異なる。

・小学1年保護者票の有効回答数は1024票である。

◆保護者の学歴

母親の学歴 n=1024

	度数	%
1. 中学校	56	5.5%
2. 高校	292	28.5%
3. 高卒後各種専門学校卒	251	24.5%
4. 短大・高専	184	18.0%
5. 大学・大学院卒	207	20.2%
6. その他	10	1.0%
7. 無回答	24	2.3%
合計	1024	100.0%

父親の学歴 n=1024

	度数	%
1. 中学校	78	7.6%
2. 高校	322	31.4%
3. 高卒後各種専門学校卒	190	18.6%
4. 短大・高専	47	4.6%
5. 大学・大学院卒	311	30.4%
6. その他	6	0.6%
7. 無回答	70	6.8%
合計	1024	100.0%

◆母親の就労状況

母親の就労状況 n=1024

	度数	%
1. 働いている	751	73.3%
2. 働いていない	249	24.3%
3. お母さんはいない	5	0.5%
4. 無回答	19	1.9%
合計	1024	100.0%

母親の雇用形態 n=751

	度数	%
1. 会社役員	23	3.1%
2. 民間企業の正社員	195	26.0%
3. 公務員などの正職員	54	7.2%
4. 団体職員	14	1.9%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	99	13.2%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	275	36.6%
7. 自営業（専従業者を含む）	44	5.9%
8. 自由業	2	0.3%
9. その他の働き方をしている	11	1.5%
10. 無回答	34	4.5%
合計	751	100.0%

母親の副業 n = 751

	度数	%
1. している	25	3.3%
2. していない	688	91.6%
3. 無回答	38	5.1%
合計	751	100.0%

母親の1週間あたりの就労日数 n = 751

	度数	%
1日	4	0.5%
2日	4	0.5%
3日	25	3.3%
4日	62	8.3%
5日	439	58.5%
6日	99	13.2%
7日	7	0.9%
1～2日	1	0.1%
2～3日	2	0.3%
3～4日	2	0.3%
4～5日	7	0.9%
5～6日	20	2.7%
6～7日	1	0.1%
無回答	78	10.4%
合計	751	100.0%

働いていない母親の状況 n = 249

	度数	%
1. 仕事を探している	41	16.5%
2. 専業主婦	170	68.3%
3. 定年退職した	0	0.0%
4. 学生	8	3.2%
5. その他	25	10.0%
6. 無回答	5	2.0%
合計	249	100.0%

◆父親の就労状況

父親の就労状況 n = 1024

	度数	%
1. 働いている	875	85.4%
2. 働いていない	10	1.0%
3. お父さんはいない	93	9.1%
4. 無回答	46	4.5%
合計	1024	100.0%

父親の雇用形態 n=875

	度数	%
1. 会社役員	93	10.6%
2. 民間企業の正社員	438	50.1%
3. 公務員などの正職員	104	11.9%
4. 団体職員	13	1.5%
5. 契約社員・派遣社員・嘱託社員	40	4.6%
6. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	28	3.2%
7. 自営業（専従業者を含む）	103	11.8%
8. 自由業	4	0.5%
9. その他の働き方をしている	9	1.0%
10. 無回答	43	4.9%
合計	875	100.0%

父親の副業 n=875

	度数	%
1. している	18	2.1%
2. していない	812	92.8%
3. 無回答	45	5.1%
合計	875	100.0%

父親の1週間あたりの労働日数 n=875

	度数	%
1日	1	0.1%
2日	1	0.1%
3日	2	0.2%
4日	3	0.3%
5日	398	45.5%
6日	313	35.8%
7日	24	2.7%
1~2日	0	0.0%
2~3日	3	0.3%
3~4日	0	0.0%
4~5日	1	0.1%
5~6日	11	1.3%
6~7日	5	0.6%
無回答	113	12.9%
合計	875	100.0%

働いていない父親の状況 n = 10

	度数	%
1. 仕事を探している	3	30.0%
2. 専業主夫	1	10.0%
3. 定年退職した	1	10.0%
4. 学生	1	10.0%
5. その他	4	40.0%
6. 無回答	0	0.0%
合計	10	100.0%

◆収入

ここでいう「世帯の収入」とは、子どもと生計を共にしている世帯員全員の収入を合わせた収入であり、年間の賞与も含む手取り額である。収入には、勤労収入のほか、事業所得、農業所得、不動産所得、利子・配当金、公的年金、その他の社会保険給付金（生活保護・児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当）、個人年金、仕送り等もすべて含めた金額を指す。

世帯収入（年間）

n = 1024

	度数	%	累積 パーセント
0円	13	1.3%	1.3%
1～50万円未満	16	1.6%	2.8%
50～100万円未満	16	1.6%	4.4%
100～150万円未満	39	3.8%	8.2%
150～200万円未満	65	6.3%	14.6%
200～250万円未満	90	8.8%	23.3%
250～300万円未満	145	14.2%	37.5%
300～400万円未満	182	17.8%	55.3%
400～500万円未満	125	12.2%	67.5%
500～600万円未満	105	10.3%	77.7%
600～700万円未満	59	5.8%	83.5%
700～800万円未満	51	5.0%	88.5%
800～900万円未満	23	2.2%	90.7%
900～1000万円未満	17	1.7%	92.4%
1000万円以上	17	1.7%	94.0%
無回答	61	6.0%	100.0%
合計	1024	100.0%	

世帯収入 5分類

n = 1024

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	149	14.6%	14.6%
200～300万円未満	235	22.9%	37.5%
300～500万円未満	307	30.0%	67.5%
500～700万円未満	164	16.0%	83.5%
700万円以上	108	10.5%	94.0%
無回答	61	6.0%	100.0%
合計	1024	100.0%	

母親の年間収入

n = 1024

	度数	%	累積 パーセント
0円	201	19.6%	19.6%
1～50万円未満	66	6.4%	26.1%
50～100万円未満	174	17.0%	43.1%
100～150万円未満	172	16.8%	59.9%
150～200万円未満	87	8.5%	68.4%
200～250万円未満	75	7.3%	75.7%
250～300万円未満	63	6.2%	81.8%
300～400万円未満	52	5.1%	86.9%
400～500万円未満	30	2.9%	89.8%
500～600万円未満	15	1.5%	91.3%
600～700万円未満	1	0.1%	91.4%
700万円以上	2	0.2%	91.6%
世帯収入に含まれていない、または不明	10	1.0%	92.6%
お母さんはいない	3	0.3%	92.9%
無回答	73	7.1%	100.0%
合計	1024	100.0%	

父親の年間収入

n = 1024

	度数	%	累積 パーセント
0円	12	1.2%	1.2%
1～50万円未満	7	0.7%	1.9%
50～100万円未満	23	2.2%	4.1%
100～150万円未満	45	4.4%	8.5%
150～200万円未満	82	8.0%	16.5%
200～250万円未満	140	13.7%	30.2%
250～300万円未満	129	12.6%	42.8%
300～400万円未満	170	16.6%	59.4%
400～500万円未満	108	10.5%	69.9%
500～600万円未満	65	6.3%	76.3%
600～700万円未満	29	2.8%	79.1%
700万円以上	32	3.1%	82.2%
世帯収入に含まれていない、または不明	3	0.3%	82.5%
お母さんはいない	86	8.4%	90.9%
無回答	93	9.1%	100.0%
合計	1024	100.0%	

母親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=938

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	700	74.6%	74.6%
200～300万円未満	138	14.7%	89.3%
300～500万円未満	82	8.7%	98.1%
500～700万円未満	16	1.7%	99.8%
700万円以上	2	0.2%	100.0%
合計	938	100.0%	

父親の年間収入5分類（無回答・非該当除く） n=842

	度数	%	累積 パーセント
0～200万円未満	169	20.1%	20.1%
200～300万円未満	269	31.9%	52.0%
300～500万円未満	278	33.0%	85.0%
500～700万円未満	94	11.2%	96.2%
700万円以上	32	3.8%	100.0%
合計	842	100.0%	

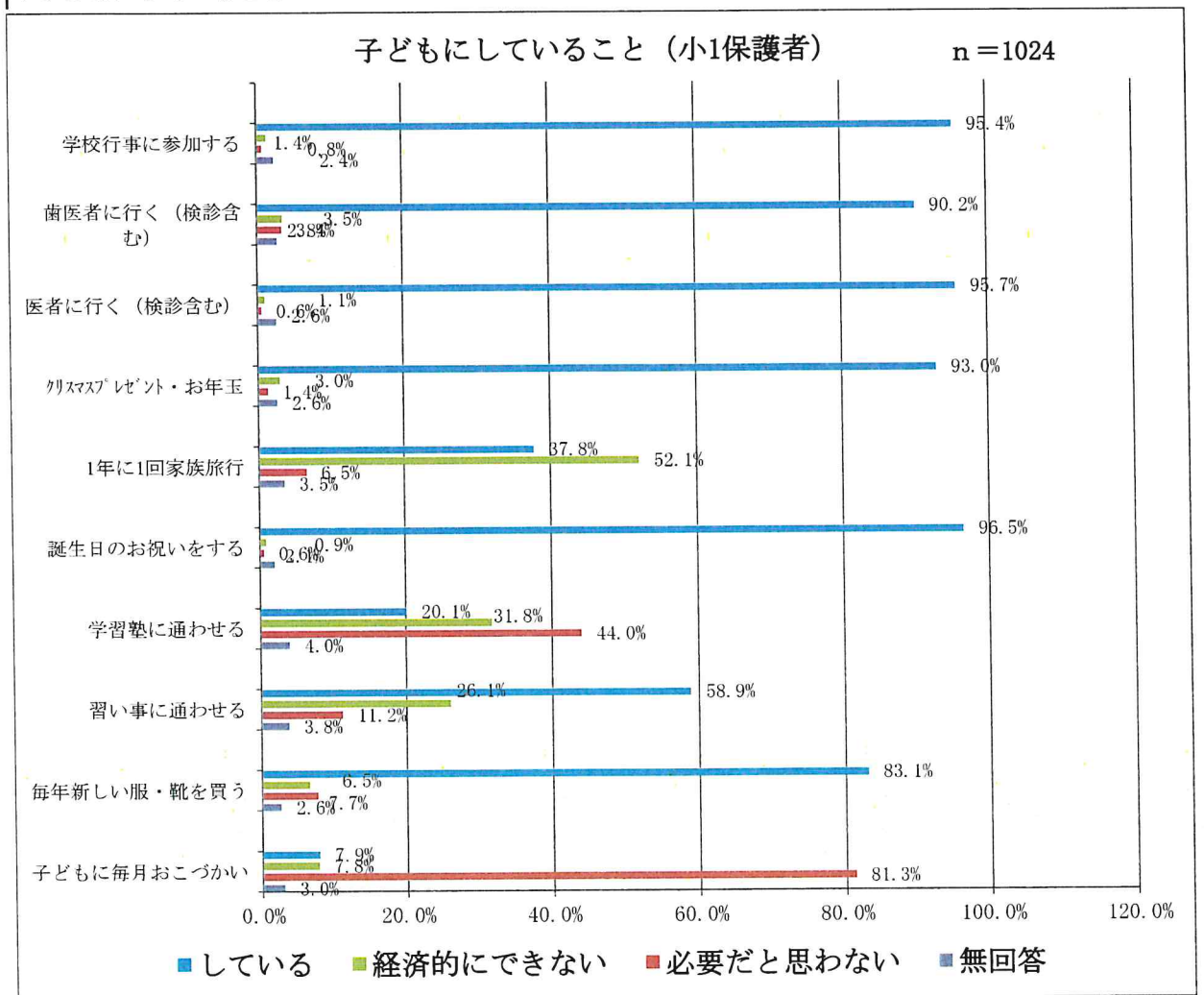
◆子ども用の所有物

n = 1024

	子どもの本		子ども部屋		インターネットにつながるパソコン		子ども専用の勉強机		スポーツ用品	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	945	92.3%	498	48.6%	573	56.0%	633	61.8%	705	68.8%
必要だと思わない	13	1.3%	193	18.8%	221	21.6%	216	21.1%	197	19.2%
経済的に持てない	42	4.1%	308	30.1%	206	20.1%	151	14.7%	90	8.8%
無回答	24	2.3%	25	2.4%	24	2.3%	24	2.3%	32	3.1%
合計	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%

	ゲーム機		多くの子どもが持つおもちゃ		自転車		携帯電話		携帯音楽プレイヤー	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
持っている	510	49.8%	808	78.9%	603	58.9%	139	13.6%	39	3.8%
必要だと思わない	409	39.9%	126	12.3%	250	24.4%	740	72.3%	852	83.2%
経済的に持てない	83	8.1%	63	6.2%	147	14.4%	116	11.3%	110	10.7%
無回答	22	2.1%	27	2.6%	24	2.3%	29	2.8%	23	2.2%
合計	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%

◆子どもにしていること

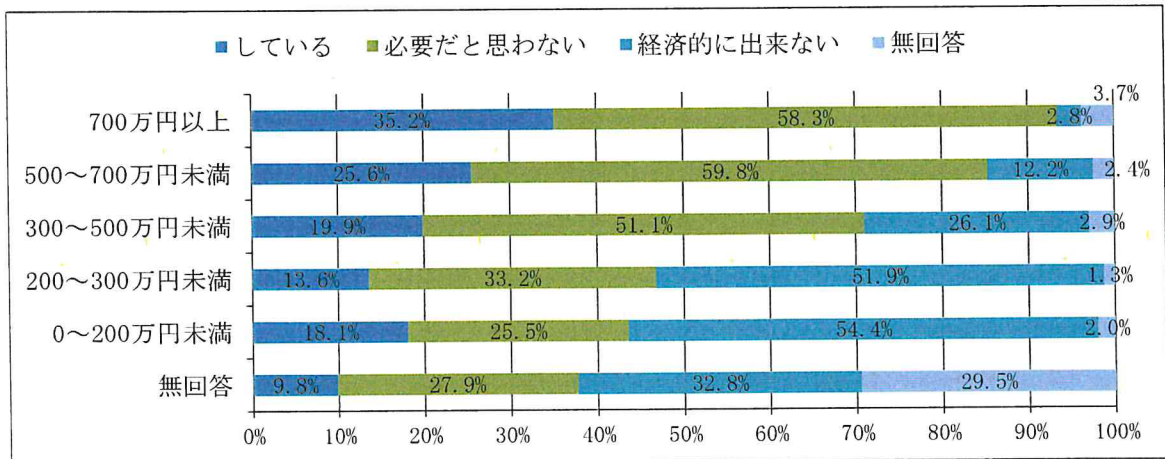


n = 1024

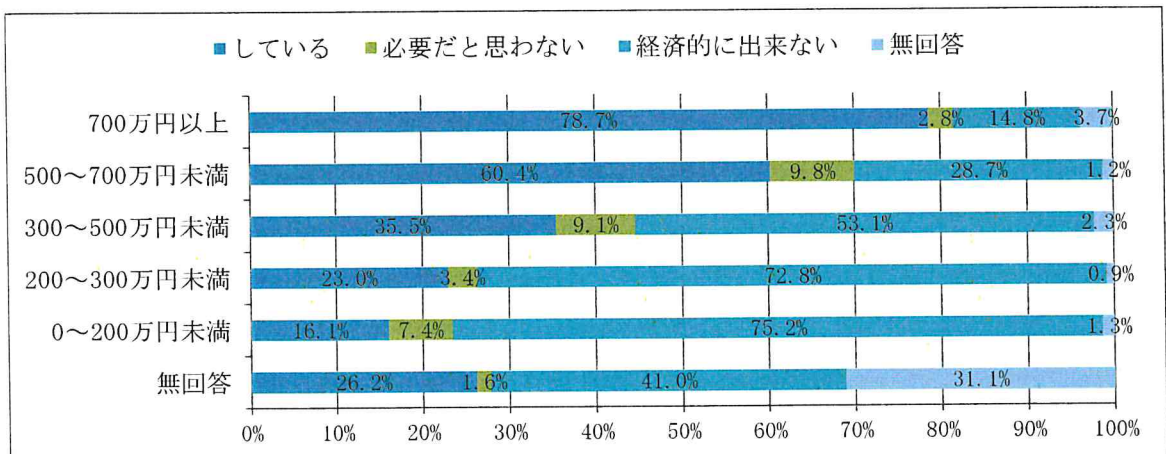
	子どもに毎月おこづかい		毎年新しい服・靴を買う		習い事に通わせる		学習塾に通わせる		誕生日のお祝いをする	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	81	7.9%	851	83.1%	603	58.9%	206	20.1%	988	96.5%
必要だと思わない	832	81.3%	79	7.7%	115	11.2%	451	44.0%	6	0.6%
経済的にできない	80	7.8%	67	6.5%	267	26.1%	326	31.8%	9	0.9%
無回答	31	3.0%	27	2.6%	39	3.8%	41	4.0%	21	2.1%
合計	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%

	1年に1回家族旅行		クリスマスプレゼント・お年玉		医者に行く(検診含む)		歯医者に行く(検診含む)		学校行事に参加する	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
している	387	37.8%	952	93.0%	980	95.7%	924	90.2%	977	95.4%
必要だと思わない	67	6.5%	14	1.4%	6	0.6%	35	3.4%	8	0.8%
経済的にできない	534	52.1%	31	3.0%	11	1.1%	36	3.5%	14	1.4%
無回答	36	3.5%	27	2.6%	27	2.6%	29	2.8%	25	2.4%
合計	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%	1024	100.0%

世帯収入別：「学習塾に通わせる」



世帯収入別：「1年に1回の家族旅行の実施状況」



◆クラブ活動 n = 1024

部活や地域のクラブ活動

	度数	%
1. している	123	12.0%
2. していない	878	85.7%
3. 無回答	23	2.2%
合計	1024	100.0%

◆子どもとの関係 n = 1024

本の感想を話し合う

	度数	%
1. よくする	170	16.6%
2. する	421	41.1%
3. あまりしない	377	36.8%
4. しない	32	3.1%
5. 無回答	24	2.3%
合計	1024	100.0%

絵本の読み聞かせ経験

	度数	%
1. よくする	297	29.0%
2. やった	386	37.7%
3. あまりしなかった	296	28.9%
4. しなかった	22	2.1%
5. 無回答	23	2.2%
合計	1024	100.0%

図書館と一緒にいく頻度

	度数	%
1. よく行く	86	8.4%
2. 行く	235	22.9%
3. あまり行かない	410	40.0%
4. 行かない	270	26.4%
5. 無回答	23	2.2%
合計	1024	100.0%

世帯の収入別：図書館と一緒にいく頻度・本の感想を話し合う頻度（小1保護者票）

n = 1024

	図書館と一緒にいく					本の感想を話し合う						
	よく行く	行く	あまり行かない	行かない	無回答	合計	よくする	する	あまりしない	しない	無回答	合計
0~200万円未満	7	27	62	50	3	149	19	48	73	6	3	149
	4.7%	18.1%	41.6%	33.6%	2.0%	100.0%	12.8%	32.2%	49.0%	4.0%	2.0%	100.0%
200~300万円未満	16	42	89	85	3	235	22	94	105	10	4	235
	6.8%	17.9%	37.9%	36.2%	1.3%	100.0%	9.4%	40.0%	44.7%	4.3%	1.7%	100.0%
300~500万円未満	35	74	117	80	1	307	61	132	104	9	1	307
	11.4%	24.1%	38.1%	26.1%	0.3%	100.0%	19.9%	43.0%	33.9%	2.9%	0.3%	100.0%
500~700万円未満	13	47	80	24	0	164	34	76	49	5	0	164
	7.9%	28.7%	48.8%	14.6%	0.0%	100.0%	20.7%	46.3%	29.9%	3.0%	0.0%	100.0%
700万円以上	11	35	41	20	1	108	25	48	32	2	1	108
	10.2%	32.4%	38.0%	18.5%	0.9%	100.0%	23.1%	44.4%	29.6%	1.9%	0.9%	100.0%
無回答	4	10	21	11	15	61	9	23	14	0	15	61
	6.6%	16.4%	34.4%	18.0%	24.6%	100.0%	14.8%	37.7%	23.0%	0.0%	24.6%	100.0%
合計	86	235	410	270	23	1024	170	421	377	32	24	1024
	8.4%	22.9%	40.0%	26.4%	2.2%	100.0%	16.6%	41.1%	36.8%	3.1%	2.3%	100.0%

子どもの夢 n = 1024

	度数	%
よく知っている	303	29.6%
知っている	503	49.1%
あまり知らない	177	17.3%
知らない	24	2.3%
無回答	17	1.7%
合計	1024	100.0%

子どもへの信頼 n = 1024

	度数	%
大変信頼している	379	37.0%
信頼している	597	58.3%
あまり信頼していない	30	2.9%
信頼していない	0	0.0%
無回答	18	1.8%
合計	1024	100.0%

◆学校行事への参加 n = 1024

	度数	%
1. よく参加している	700	68.4%
2. 時々参加している	274	26.8%
3. あまり参加していない	33	3.2%
4. まったく参加していない	1	0.1%
5. 無回答	16	1.6%
合計	1024	100.0%

世帯の収入別：学校行事への参加

n = 1024

	学校行事への参加					
	よく参加している	時々参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答	合計
0～200万円未満	92	49	7	0	1	149
	61.7%	32.9%	4.7%	0.0%	0.7%	100.0%
200～300万円未満	158	67	10	0	0	235
	67.2%	28.5%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	223	73	9	1	1	307
	72.6%	23.8%	2.9%	0.3%	0.3%	100.0%
500～700万円未満	120	40	4	0	0	164
	73.2%	24.4%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
700万円以上	75	30	3	0	0	108
	69.4%	27.8%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	32	15	0	0	14	61
	52.5%	24.6%	0.0%	0.0%	23.0%	100.0%
合計	700	274	33	1	16	1024
	68.4%	26.8%	3.2%	0.1%	1.6%	100.0%

◆子育てや教育の悩みの相談

子育てや教育の悩みを相談したり頼れる友人知人

n = 1024

	度数	%
1. たくさんいる	280	27.3%
2. ある程度いる	599	58.5%
3. あまりいない	113	11.0%
4. まったくない	15	1.5%
5. 無回答	17	1.7%
合計	1024	100.0%

同居家族と子育てや教育について話す機会

n = 1024

	度数	%
1. よく話す	474	46.3%
2. 時々話す	371	36.2%
3. あまり話さない	71	6.9%
4. まったく話さない	21	2.1%
5. お子さん以外に家族はいない (お子さんと2人暮らしである)	71	6.9%
6. 無回答	16	1.6%
合計	1024	100.0%

世帯収入別：同居家族と子育てや教育について話す機会（小1保護者票）

n = 1024

	同居家族との子どもの話						合計
	よく話す	時々話す	あまり話さない	全く話さない	子ども以外に家族はいない	無回答	
0～200万円未満	44	48	9	4	43	1	149
	29.5%	32.2%	6.0%	2.7%	28.9%	0.7%	100.0%
200～300万円未満	89	95	24	9	18	0	235
	37.9%	40.4%	10.2%	3.8%	7.7%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	165	106	25	4	6	1	307
	53.7%	34.5%	8.1%	1.3%	2.0%	0.3%	100.0%
500～700万円未満	89	68	6	0	1	0	164
	54.3%	41.5%	3.7%	0.0%	0.6%	0.0%	100.0%
700万円以上	67	36	3	1	1	0	108
	62.0%	33.3%	2.8%	0.9%	0.9%	0.0%	100.0%
無回答	20	18	4	3	2	14	61
	32.8%	29.5%	6.6%	4.9%	3.3%	23.0%	100.0%
合計	474	371	71	21	71	16	1024
	46.3%	36.2%	6.9%	2.1%	6.9%	1.6%	100.0%

◆心理的健康（母集団は、回答者が母親・回答者が父親のケース）

過去30日間にゆううつに感じた頻度

n = 884 n = 67

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答	合計
母親	479	220	126	37	17	5	884
	54.2%	24.9%	14.3%	4.2%	1.9%	0.6%	100.0%
父親	45	16	4	0	0	2	67
	67.2%	23.9%	6.0%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%

◆現在の暮らし向き

n = 1024

	度数	%
1. 大変苦しい	99	9.7%
2. やや苦しい	337	32.9%
3. 普通	413	40.3%
4. ややゆとりがある	134	13.1%
5. 大変ゆとりがある	20	2.0%
6. 無回答	21	2.1%
合計	1024	100.0%

通常の家計

n = 1024

	度数	%
1. 赤字であり、借金をして生活している	150	14.6%
2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している	156	15.2%
3. 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	501	48.9%
4. 黒字であり、余裕がある	67	6.5%
5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	118	11.5%
6. 無回答	32	3.1%
合計	1024	100.0%

1ヵ月あたりの学校外教育費の支出

n = 1024

	度数	%	累積 パーセント
支出はまったくない	289	28.2%	28.2%
5千円未満	80	7.8%	36.0%
5千円～1万円未満	253	24.7%	60.7%
1万円～1万5千円未満	160	15.6%	76.4%
1万5千円～2万円未満	107	10.4%	86.8%
2万円～2万5千円未満	37	3.6%	90.4%
2万5千円～3万円未満	25	2.4%	92.9%
3万円～5万円未満	16	1.6%	94.4%
5万円以上	6	0.6%	95.0%
無回答	51	5.0%	100.0%
合計	1024	100.0%	